# 昭和大学歯科病院

# 診療科ガイド
2023年

# SHOWA University Dental Hospital

## Department Guide
2023

昭和大学　建学の精神

# 「至誠一貫」

“まごころ”を尽くし、質の高い医療人を育成する

## 昭和大学歯科病院の理念

昭和大学の建学の精神「至誠一貫」を常に心掛け、
患者さんの病気の治療だけでなく、不安や悩みを取り除くために、
真心のこもった医療を目指します。

- 患者本位の医療
- 先進的医療の推進
- 医療人の育成

## 昭和大学歯科病院の基本方針

・患者さんの立場にたった医療の実践
・予防と術後の管理を重視した医療の推進
・安全・安心かつ質の高い医療の提供
・先進的な臨床歯科医学研究の推進
・社会に求められる医療人の育成
・地域医療機関との連携の推進



# 目　次


昭和大学　建学の精神／昭和大学歯科病院の理念・基本方針……1
目次……2
病院長ご挨拶……3
副病院長ご挨拶……4
昭和大学歯科病院の概要……6
二人主治医制……7
患者紹介のご案内……8
患者紹介の手順について……9
患者さんへのご案内……10
紹介状・診療情報提供書……11
紹介患者事前受付連絡票〔ファクシミリ用〕……12
トピックス（歯科麻酔科）……13
トピックス（医科歯科連携診療歯科）……15
トピックス（障がい者歯科）……15
トピックス（歯内治療科）……16
トピックス（歯周病科）……18
トピックス（インプラント歯科）……20

各診療科及び各センター案内

美容歯科……22
歯内治療科……24
歯周病科……26
補綴歯科……28
顎顔面口腔外科……30
口腔腫瘍外科……32
矯正歯科……34
小児歯科……36
口腔機能管理科……38
医科歯科連携診療歯科……40
口腔機能リハビリテーション科……42
障がい者歯科……44
顎関節症治療科……46
インプラント歯科（インプラントセンター）……48
歯科麻酔科……50
歯科放射線科……52
臨床病理診断科……54
内科クリニック……56
お口の健康センター……57
歯科ドック……58
歯科衛生室……59
予約枠を持っている歯科医師一覧……61

# 病院長ご挨拶



昭和大学歯科病院
病院長　槇 宏太郎
Maki Koutaro

昭和大学歯科病院は1977年に設立されて以来、地域の皆さま、さらには社会のニーズに応えながら歯科医学・医療の発展に貢献してまいりました。
超高齢社会に突入したわが国では、長い人生を健康で充実したものにしようという意識が高まっております。医療の目的が延命のみならず、生命と生活の質の尊重に重点がおかれるようになりました。
また、口腔健康状態を良好に維持することは、昨今の社会的な問題であるフレイルや認知症、心臓疾患などの予防に有用であることが多くの研究結果として示されており、歯科医療の役割は益々大きくなっております。そして、高血圧などの循環器系疾患や糖尿病等、さまざまな疾患を抱えた方の全身管理下での歯科治療の需要も増えております。さらに、噛み合わせの早期予防や透明な矯正装置、インプラント、顎変形症の手術など、歯科治療に対するニーズは多様化しています。
ご存知のように、最新かつ最善の治療は、確固たる科学的エビデンスの集積をもとに専門的スキルを有する歯科医師や医療スタッフがチームで担わなければなりません。
当院には、さまざまなニーズに応え、先進的な医療を提供するために、高度な専門性を持つ17の診療科とそれらを横断的に支援する10の診療支援、研究・研修支援部門を有し、最先端医療技術に関連した臨床研究や研修医教育を統括する部門も設置されています。また、内科クリニックも併設され、さまざまな場面で歯科診療をサポートしております。
さらに、地域の歯科医院から安心して患者さんをご紹介していただけるよう連携体制を整えたうえで、土曜日の診療も週日化しました（2017年12月～）。
2022年度の実績では、年間219,275名の外来患者と5,476名の入院患者さんにご来院いただきました。
昭和大学は「真心をもって何事にも立ち向かう、そして、その誠意を貫き通す」という意味の「至誠一貫」を建学の精神としております。
当院の理念もこの精神を基盤として、患者さんの病気の治療だけでなく、不安や悩みを取り除くために、真心のこもった医療を目指します。

# 副病院長ご挨拶



副病院長
（顎顔面口腔外科）

**代田 達夫**
Shirota Tatsuo

私は1986年に昭和大学歯学部を卒業し、当時道 健一教授が主宰されていた第一口腔外科学教室に入局しました。第一口腔外科では、口腔癌手術、インプラント、顎変形症手術等、口腔外科全般について広く研修を行って参りました。2014年に口腔外科学講座顎顔面口腔外科学部門の教授に就任してからは、特に顎変症、顎骨再建手術、そして広範囲顎骨支持型補綴（いわゆる保険適応のインプラント治療）等を専門に診療を行っています。最近、歯科医療においてデジタルの進歩には目覚ましいものがあります。当院でも早くからデジタルデンティストリーを重点領域として力を入れて参りました。補綴装置のデザインやオールセラミックスクラウンなどの歯冠修復装置をCAD/CAMで製作することは、既に標準的な治療として確立しています。また、全国の歯学部附属病院としては唯一ナビゲーション支援手術のシステムを導入し、顎変形症や顎骨腫瘍をはじめとするさまざまな手術に用いています。これまで私は、口腔外科部門の責任者としての役割を中心に仕事をして参りましたが、これからは病院全体の役割を視野に務めさせていただきます。臨床現場における日々の診療を怠ることなく努めつつ、副院長業務に精進する所存です。ご指導・ご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

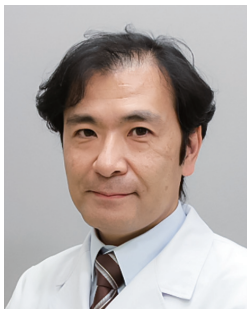
---



副病院長
（総合診療歯科学部門）

**長谷川 篤司**
Hasegawa Tokuji

歯科病院における教育関連を主に担当しております。新型コロナウイルスの感染拡大は、歯科病院の外来機能だけでなく臨床教育をも減速させましたが、一方でICT（情報通信技術）を活用した新しい教育の導入を加速させました。当院は、医系総合大学である昭和大学の附属病院として、卒前・卒直後の若い臨床歯科医が基本的な歯科医療を確実に実施できる技能と、真心をもって何事にも立ち向かう「至誠一貫」の志を身に付けた医療人の涵養を目指しています。さらに、地域における基幹病院として、先進的で専門性の高い医療を提供できる専門医を育成する臨床教育の構築を目指しています。学内関係者だけでなく、地域の医療担当者や関係者、そして患者の皆様のご理解とご協力を得ながら新しい臨床教育体制を構築していきたいと考えております。ご理解とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。



副病院長
（小児歯科）

**船津 敬弘**

Funatsu Takahiro

当院は患者さん本位の医療を展開する中で、三次医療機関として高度かつ専門性の高い歯科医療を提供しており、開院以来、小さなお子さんからご高齢の方まで、非常に幅広い年齢層の患者さんにご利用いただいております。また、さまざまな内科的疾患がある方やお身体が不自由な方、歯科治療を受けたくても怖くて受けることのできなかった方々に対して、それぞれの患者さんに適した、安全でかつ安心していただけるさまざまな治療法を提供できるのも、昭和大学歯科病院の特徴と考えます。その他ご自宅近くの、かかりつけ歯科医の先生と連携をはかりながら、共同で継続的な治療を提供する二人主治医制も推進しており、患者さんのニーズにあったさまざまな医療を提供できるよう努めております。これからも皆様に信頼していただける医療を提供すべく精進いたしますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

# 昭和大学歯科病院の概要

名　　称：昭和大学歯科病院
所 在 地：東京都大田区北千束2-1-1
開院年月：昭和52年６月
開 設 者：小口　勝司（学校法人昭和大学理事長）
管 理 者：槇　宏太郎（昭和大学歯科病院長）
許可病床数：22床

## 法令による医療機関の指定

- 保険医療機関
- 生活保護法指定医療機関
- 指定自立支援医療機関
- 被爆者一般疾病指定医療機関
- 労働災害指定医療機関
- 歯科医師臨床研修指定病院
- 難病医療費助成指定医療機関
- 指定小児慢性特定疾病医療機関

## 基本診療科に係る施設基準

- 地域歯科診療支援病院歯科初診料
- 歯科外来診療環境体制加算２
- 歯科診療特別対応連携加算
- 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料４）
- 診療録管理体制加算２
- 病棟薬剤業務実施加算１
- 地域歯科診療支援病院入院加算
- 医師事務作業補助体制加算２（20対１）補助体制加算

## 特掲診療科に係る施設基準

- がん性疼痛緩和指導管理料
- 薬剤管理指導料
- 総合医療管理加算（歯科疾患管理料）
- 歯科治療時医療管理料
- 在宅総合医療管理加算（歯科疾患在宅療養管理料）
- 在宅患者歯科治療時医療管理料
- 有床義歯咀嚼機能検査１のイ
- 有床義歯咀嚼機能検査１のロ及び咀嚼能力検査
- 有床義歯咀嚼機能検査２のイ
- 有床義歯咀嚼機能検査２のロ及び咬合圧検査
- 精密触覚機能検査
- 睡眠時歯科筋電図検査
- 歯科画像診断管理加算１・２
- 遠隔画像診断
- CT撮影
- 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- 集団コミュニケーション療法料
- 歯科口腔リハビリテーション料２
- 口腔粘膜処置
- 手術用顕微鏡加算
- う蝕歯無痛的窩洞形成加算
- CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー
- 有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算１・２
- 上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）（歯科診療に係るものに限る）
- 下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る）（歯科診療に係るものに限る）
- 歯周組織再生誘導手術
- 手術時歯根面レーザー応用加算
- 広範囲顎骨支持型装置埋入手術
- 歯根端切除手術の注３
- レーザー機器加算
- 歯科麻酔管理料
- クラウン・ブリッジ維持管理料
- 歯科矯正診断料
- 顎口腔機能診断料（顎変形症（顎離断等の手術を必要とするものに限る）の手術前後における歯科矯正に係るもの）

## 教育施設認定

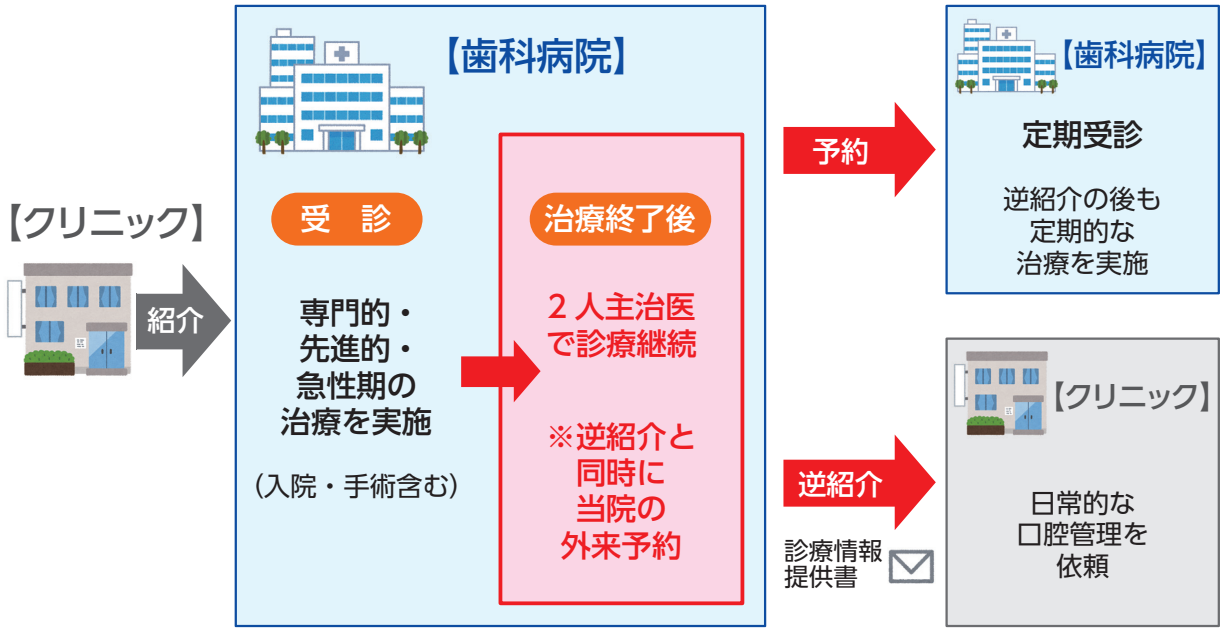
- 臨床修練指定病院（外国人歯科医師）
  昭和63年３月29日
- 管理型歯科医師臨床研修施設指定
  平成18年４月１日

## 二人主治医制

**昭和大学歯科病院では、**
**地域医療連携の取り組みとして、**
**「二人主治医制」を推進しています。**

### ≪二人主治医制のフロー図≫

当院で、専門的・先進的な急性期の治療終了後、
日常的な口腔管理は近隣医療機関へ、
治療部位の定期な観察・治療は歯科病院で実施し、
**歯科病院と近隣医療機関の２人が主治医**となって診療をします。




【お問合せ】

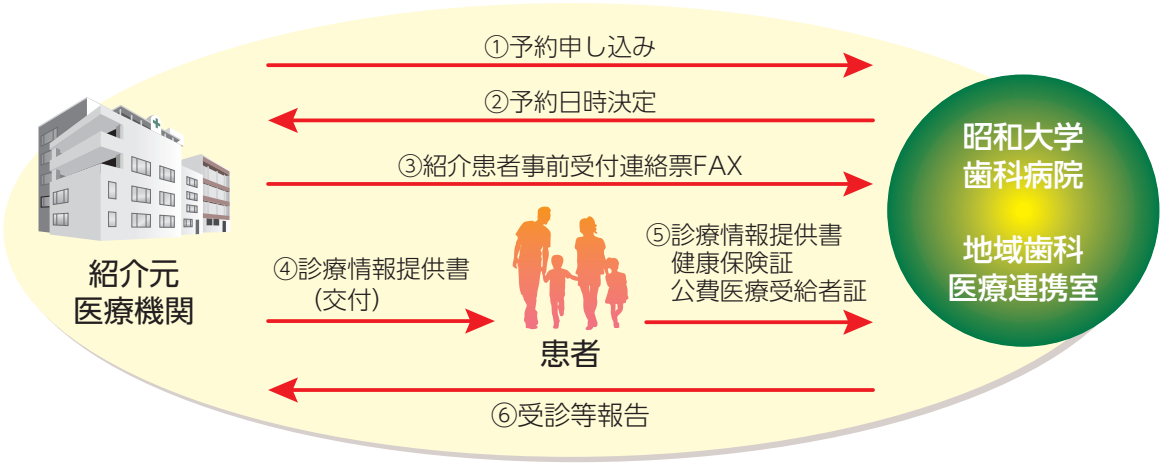
**昭和大学歯科病院　地域歯科医療連携室**

受 付 時 間：月曜日～土曜日 8：30～17：00
初診受付時間：月曜日～土曜日 8：30～11：30　13：00～15：00
**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は 8：30～12：00（午前中のみ）**
休　診　日：日曜日・祝日・年末年始、創立記念日（11月15日）

**電話番号：03-5498-1954　FAX：03-5498-1954**

# 患者紹介のご案内

## 1. 地域医療機関の先生、又は患者さんご自身が直接予約する場合




①紹介元の医療機関から電話での予約申し込みを受け付けいたします。
＊紹介元医療機関から紹介状をいただいている患者さんも電話で直接
地域歯科医療連携室にお申し込みください。

②当院所定の「紹介患者事前受付連絡票」をFAXしていただければ、
来院時の手続きがスムーズになります。
＊予約申し込みがお済みの場合は、予約日時を記載してFAXしてください。

③抜歯目的での紹介の場合、原則として初診日には抜歯はできません。

## 2. 紹介状をお持ちで直接来院される場合

初診受付窓口に、保険証と合わせてご持参ください。
受付時間：月曜日～土曜日　8：30～11：30　　13：00～15：00
**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は 8：30～12：00（午前中のみ）**
休 診 日：日曜日、祝日、年末年始、創立記念日（11月15日）

【お問合せ】

**昭和大学歯科病院　地域歯科医療連携室**
受 付 時 間：月曜日～土曜日 8：30～17：00
初診受付時間：月曜日～土曜日 8：30～11：30　13：00～15：00
**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は 8：30～12：00（午前中のみ）**
休　診　日：日曜日・祝日・年末年始、創立記念日（11月15日）
**電話番号：03-5498-1954　FAX：03-5498-1954**

# 患者紹介の手順について

## 1. 医療機関の先生が予約をする場合

**1** 電話にて予約受付【地域歯科医療連携室　℡ 03－5498－1954】

・診療科、歯科医師名（指名がある場合）をお知らせください
・CT撮影依頼の場合は、撮影部位をお知らせください



**2** 「紹介状・診療情報提供書」（別紙1-1）を患者さんへお渡しください

・貴院にて診療情報提供料（Ⅰ）250点の算定が可能です




**3** 「紹介患者事前受付連絡票」（別紙1-2）をFAX
【地域歯科医療連携室　FAX 03－5498－1954】

・事前にFAXしていただければ、患者さん来院時の受付がスムーズにできます

**4** 患者さん受診

・後日受診報告を当院から送付します

## 2. 患者さんが予約をする場合　※事前に「紹介状・診療情報提供書」をお渡しください

診療時間内に「地域歯科医療連携室」℡ 03－5498－1954に直接電話をするようにお伝えください

## 3. 予約を取らずに直接来院する場合　※「紹介状・診療情報提供書」をお渡しください

緊急の場合等は、予約を取らずに受診することも可能です。初診受付時間内に来院するようにお伝えください
ただし、一部の診療科（障がい者歯科、口腔機能リハビリテーション科の言語療法、CT撮影等）は完全予約制となります

**注意事項**

・抜歯目的の場合、原則として初診当日は抜歯できないことを患者さんにお伝えください
・CT撮影依頼は、必ず医療機関の先生からご連絡お願いします
・画像フィルム等持参いただいた場合でも、必要に応じて当院で再度撮影する場合もございます

【お問合せ】

**昭和大学歯科病院　地域歯科医療連携室**

受 付 時 間：月曜日～土曜日 8：30～17：00
初診受付時間：月曜日～土曜日 8：30～11：30　13：00～15：00
**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は 8：30～12：00（午前中のみ）**
休　診　日：日曜日・祝日・年末年始、創立記念日（11月15日）

**電話番号：03-5498-1954　FAX：03-5498-1954**

# 昭和大学歯科病院　患者さんへのご案内

## 電話での予約を受付いたします

◆受診日の予約を希望する場合

地域歯科医療連携室（03-5498-1954）にお問い合わせください。
ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。

◆指定受診日を変更する場合

都合により、予約された日に来院できなくなった場合は、必ず地域歯科医療連携室までご連絡ください。

◆初診受付時間

月曜日～土曜日　8：30～11：30／13：00～15：00

**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は　8：30～12：00（午前中のみ）**

休　　診　　日　日曜日、祝日、年末年始、創立記念日（11月15日）

◆お問い合わせ先

地域歯科医療連携室　TEL 03-5498-1954

◆持参するもの

- 保険証　※医療証がある方は併せてお持ちください。
- 紹介状
- お薬手帳（お持ちの方のみ）

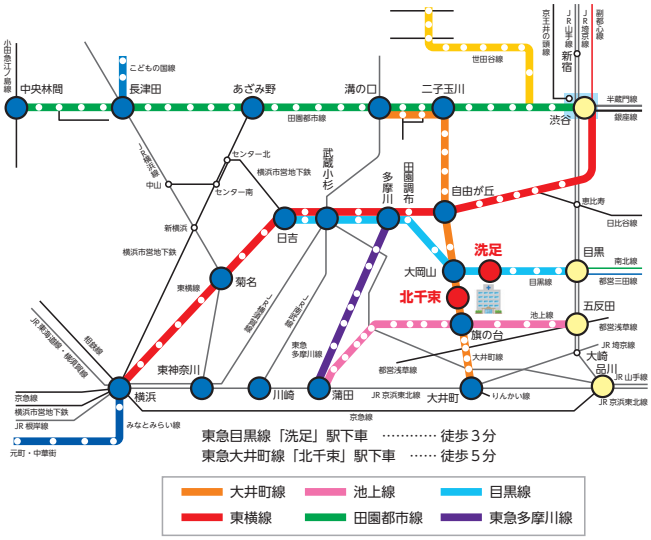
## 初診手続きについて

1　初診受付窓口（1階）

診療申込・同意書、問診・予診票を記入し、健康保険証・紹介状と併せて窓口へ提出してください。
初診手続き終了後、各診療科へご案内いたします。

## 交通案内

●各主要駅からのアクセスマップ







昭和大学歯科病院　東京都大田区北千束2－1－1

**（本状は患者さんにお渡しください）**

※「患者さんへのご案内」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

【1-1】

# 紹介状・診療情報提供書

年　月　日

昭和大学歯科病院
〒145-8515 東京都大田区北千束2丁目1番1号
地域歯科医療連携室TEL／FAX 03-5498-1954

貴院の名称
所在地
医師名
TEL（　　—　　—　　）
FAX（　　—　　—　　）

＿＿＿＿＿＿科 ＿＿＿＿＿＿＿＿先生
下記の患者を紹介いたします。

受診日 ＿年＿月＿日 ＿＿：＿＿時

昭和大学歯科病院への受診歴〔有（　年　月頃）・無〕
IDNo.
*フリガナ
患者氏名　　殿（　才）
生年月日(明・大・昭・平・令)　年　月　日（男・女）

紹介目的　精査・加療・入院・転医・手術
その他

既往歴（家族歴）

薬剤アレルギー（有　・　無）

主訴

治療経過及び病状経過

検査結果

現在の処方

備考 *画像診断フィルム、検査記録等を持参させる場合は下記にチェックをお願いします。

☐ ＊ 画像フィルム　☐ ＊ 心電図記録等
☐ ＊ 検査結果伝票　☐ ＊ その他

※「紹介状・診療情報提供書」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

【1-2】

# 紹介患者事前受付連絡票〔ファクシミリ用〕

年　　月　　日

昭和大学歯科病院　　ＦＡＸ　０３－5498-1954

地域歯科医療連携室　行

＿＿＿＿＿＿科　＿＿＿＿＿＿先生

受診日　　年　　月　　日　　：　　時

昭和大学歯科病院の受診歴〔有（　　年　　月頃）・無〕

IDNo.

貴院の名称
所在地
医師名
TEL（＿＿＿＿ ― ＿＿＿＿ ― ＿＿＿＿）
FAX（＿＿＿＿ ― ＿＿＿＿ ― ＿＿＿＿）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| お名前 | フリガナ | | 性別 | 男 ・ 女 | 生年月日 | 1:明治 2:大正 3:昭和 4:平成 5:令和<br>年　月　日　歳 |
| | (姓) | (名) | | | | |
| ご住所 | 〒　－ | 自宅電話 | (　) － | | 携帯電話 | (　) － |
| | フリガナ | | | | | |
| | 都道府県　市区町村 | | | | | |
| 保険証 | 記号 | | 被保険者から見たあなた様のご関係 | 本人 ・ 家族（続柄　） | | |
| | 番号 | | 被保険者氏名（家族に○をされた方はご記入ください） | フリガナ | | |
| | 保険者番号 | | | | | |
| | 資格日 | 年　月　日 | 交付日 | 年　月　日 | 負担割合 | 3割・2割・1割 |
| | 任継終了日 | 年　月　日 | | | | |
| その他の保険 | 負担者番号 | | 負担限度額 | 外来 | 円 | 対象疾患 |
| | 受給者番号 | | | 入院 | 円 | |
| | 資格日 | 年　月　日 | 交付日 | 年　月　日 | | |
| | 有効期限 | 年　月　日 | 負担割合 | 割 | | |

## 紹介される先生方へのお願い

- 事前に電話にて日時のご予約をお取りください。
  この連絡票をFAXしていただいた場合は、事前にカルテの準備をしておきますので、患者来院時の手続きがスムーズに行えます。

- 地域歯科医療連携室受付時間 月～土曜日　8:30～17:00
  日曜日、祝日、年末年始、創立記念日（11月15日）
- FAXにつきましては、**診察日前日の15:00まで**にお願い致します。
  15:00以降の場合は、事前準備が出来ないことがありますので、あらかじめご了承ください。

◆ 地域歯科医療連携室　TEL 03-5498-1954

※「紹介患者事前受付連絡票」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

## 歯科麻酔科

# 安心安全で快適な歯科治療
# 全身麻酔・静脈麻酔・術前診察外来

歯科治療は齲蝕治療や抜歯、インプラントなど侵襲が伴う治療です。スケーリングや印象採得ですら歯科治療恐怖症や重度嘔吐反射の患者さんにとっては苦痛です。近年は全身疾患を持つ高齢の患者さんも増加し、なかには来院そのものが全身疾患の増悪につながるケースもあります。

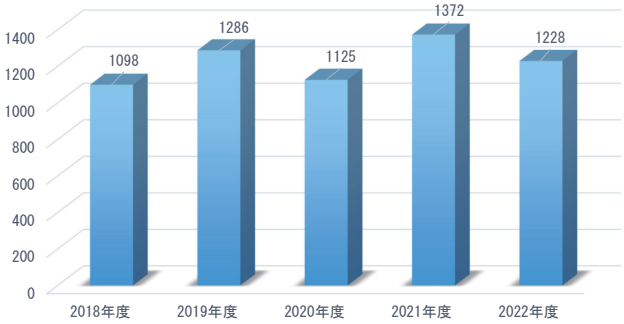
私たち歯科麻酔科は各診療科からの依頼に応え、患者さんが安全かつ快適に治療が受けられるように、全身麻酔・静脈麻酔を担当しています。また術前診察外来では外来診療や入院手術の前に患者さんを診察し、全身状態の把握やかかりつけ医への診療情報提供依頼を行い、主治医も安心して治療が行えるようにお手伝いしています。



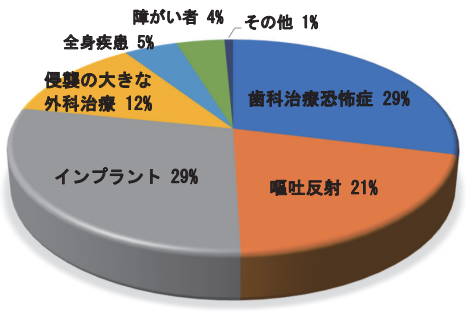
術前診察外来での診察と麻酔の説明

### 全身麻酔・静脈麻酔症例の増加

10年前は歯科領域で全身麻酔症例といえば口腔外科の腫瘍や顎変形症、外傷など非常に大きな侵襲を伴う手術がほとんどでした。しかし近年は「寝ている間に歯を抜いてほしい」と希望する患者さんが多く、全身麻酔下での抜歯症例が増加しています。また毎年2,000件以上実施する静脈麻酔の併用理由は「歯科治療への恐怖心」が最も多く、できるかぎり侵襲や恐怖を感じることなく快適に歯科治療を受けたいと希望する患者さんが増えていると言えます。




全身麻酔症例数の推移




静脈麻酔理由の内訳
(2022年度 2,362症例)

## 全身麻酔

全身麻酔は完全に無意識のうちに手術を受けられる麻酔法です。麻酔薬が体に入ると数秒のうちに眠り、手術が終われば10分程度で目が覚めます。それぞれの患者さんごとに専任の歯科麻酔科医が担当し、手術中はもちろんのこと手術前後の病棟管理では術前の麻酔準備や術後の疼痛コントロールを行います。



手術室での全身麻酔

## 静脈麻酔

静脈麻酔は全身麻酔まで必要としない程度の侵襲の手術で適応されます。腕の静脈から直接鎮静薬を投与することで、笑気の吸入や鎮静薬の内服よりも速く確実な鎮静効果を得ることができます。

静脈内に投与する鎮静薬には眠気を誘う鎮静効果だけでなく、記憶を曖昧にする健忘効果や嘔吐反射を抑える効果、また血圧や脈拍を安定させる効果もあり、より安全で快適に治療を受けることができます。全身麻酔と比較して鎮静状態からの回復も速いため、手術後に短時間お休みいただくだけで帰宅することができます。

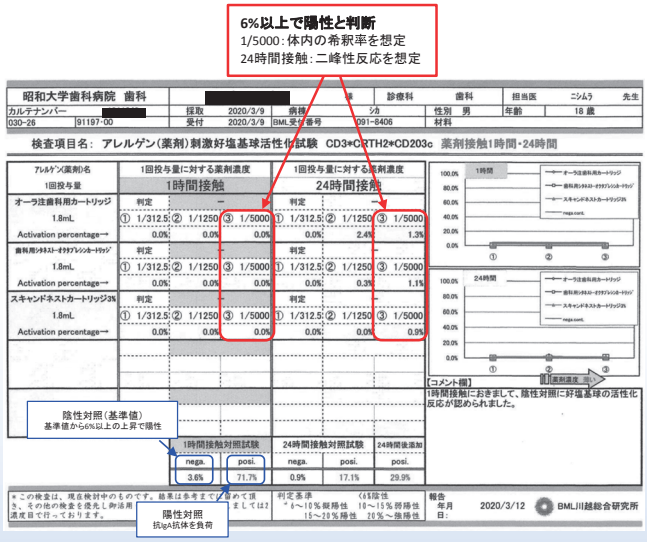


静脈麻酔

## 局所麻酔薬アレルギー検査

当院で行う局所麻酔アレルギー検査は「好塩基球活性化試験」を採用しており、患者さん自身に直接薬剤を投与することなく、採血した血液を使用して安全に検査することができます。

保健適応はありませんが、ご希望に応じて検査を行い、結果をご報告いたします。




アレルギー検査結果の一例

## 医科歯科連携診療歯科

# 歯科麻酔科との連携した治療




医科歯科連携診療歯科では、全身的な疾患をお持ちで、歯科治療に際し、何らかの医学的な配慮を必要とする患者さんに対し、安心安全な治療を提供しています。

抗血栓薬や骨粗鬆症の薬をお飲みの方、がん治療中（手術前後・抗がん剤治療中、緩和医療期など）の周術期口腔機能管理、薬剤アレルギーをお持ちの方など、地域の歯科医院では治療が難しい全身疾患をお持ちの患者さんに対し、歯科疾患の診断をするだけではなく、医科主治医やかかりつけ歯科主治医と連携を図りながら、歯科治療に影響する全身状態のリスク診断を行い、最適・最良な管理下で包括的治療を行います。全身状態により歯科麻酔科と連携して、血圧や心電図をモニタリングしながら治療を行なったり、笑気麻酔、静脈内鎮静法、全身麻酔を併用した治療も行っております。

また、歯科治療に対し、極度の恐怖があり、口腔内に治療器具が入っただけでも嘔気反射が出てしまう方に対しても、歯科麻酔科と連携し、状況に応じて、静脈内鎮静法・全身麻酔などを併用して、治療しています。

## 障がい者歯科

# 歯科麻酔科との連携した治療

障がい者歯科は歯科診療に対し特別な配慮が必要な方々の歯・口の総合的な診療科になります。その中でも、治療歯数や治療時間、治療内容、精神的な影響などに応じて全身麻酔による集中治療を行っています。

**【初診から全身麻酔までの流れ】**

①初診時に問診口腔内診査を行い、全身麻酔の日程を決定します。

②全身麻酔日の約１か月前に歯科麻酔科による術前診査、入院オリエンテーションを行います。胸部レントゲン、採血、尿検査、心電図などの術前検査も予定していますが、患者さんの反応や状況を考慮して対応して参ります。

③全身麻酔下治療前日に患者さん、付き添い者（原則１人）に対し新型コロナウイルス感染症の術前PCRを行います。

④治療当日朝に入院していただき全身麻酔下治療となります。治療後は問題ないことを確認して、環境変化を考慮し、当日夕方には帰宅できるように対応しています。

## 歯内治療科

# 専門外来で行われる歯内治療

### 常にマイクロスコープを使用した歯内治療

歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）を使用した歯科治療は、とりわけ歯内療法分野においては、その有用性が広く認知されるようになりました。歯内治療科では日本でマイクロスコープが使用され始めた時期から導入し研鑽を積んでおり、保険診療、自費診療に関わらず積極的に診療に使用しています。

暗く狭い口腔内を、“照明”と“拡大”により、今まで肉眼や拡大鏡では確認の限界があった構造や感染源を明らかにし、より確実で安全な治療を行えるようになりました。そして術者の視野をマイクロスコープの記録装置を利用して“記録”し、その画像や動画を説明等に用いることにより、多くの患者さんや紹介医療機関より、安心して治療をお任せいただけることと思います（図１～３）。



図１：マイクロスコープ下での診療風景
（外科的根管治療）
モニターに表示されている映像は必要に応じて記録され、術後の患者説明や治療の報告書に利用されている。

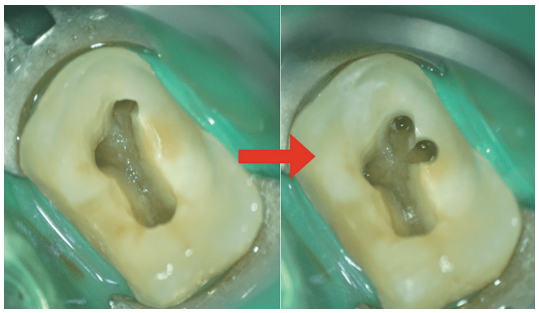


図２：上顎第一大臼歯の近心頬側第二根管
（いわゆるMB２）の探索
肉眼や拡大鏡では根管口の同定が困難な症例に対し、マイクロスコープ下で専用インスツルメントを用いて処置を行うことにより、歯質の過剰切削を抑え、穿孔の危険が回避できる。

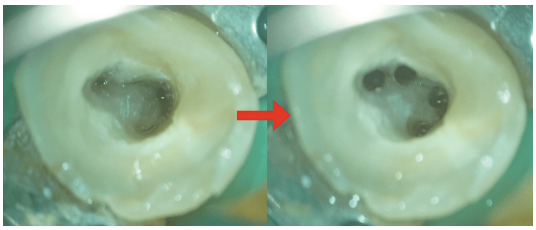


図３：下顎第二大臼歯の樋状根症例
イスマスやフィンのような通常では処置が難しい部分に、根管形成可能なスペースがこれだけ残存していた。樋状根や形態異常歯など形態的に治療難易度が高い歯では、マイクロスコープ下における観察や処置が非常に有効なことが多い。

### マイクロスコープ下で行う外科的根管治療

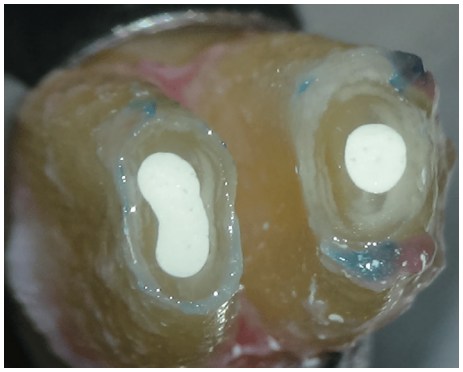
通法の根管治療のみならず、根管治療が奏功しない歯に対して、歯科用CTとマイクロスコープを併用した外科的根管治療も多く行っています。現在は保険収載されている本治療法ですが、当診療科は保険収載される以前から先進医療認定施設として本治療法を行っており、長きにわたり数多くの治療経験を有しております。何より、マイクロスコープ下で行うことによって低侵襲・短時間での処置が可能となり、局所麻酔での外来診療も可能です。専用の繊細なインスツルメントが使用できるため、従来の処置に比べて術後の疼痛や腫脹も少なくなっており、歯肉の瘢痕も目立ちにく

くなりました（図４）。また、全身的問題や周囲組織の解剖学的制約からフラップアプローチが行えない歯に対しても、意図的再植術下での外科的根管治療が可能な場合があります（図５）。



▲図４：外科的根管治療後の切開線の跡

写真左：術後３日。創部に腫脹や出血は認めない。
写真右：術後約１年の最終補綴後。切開線の後は目立たない。

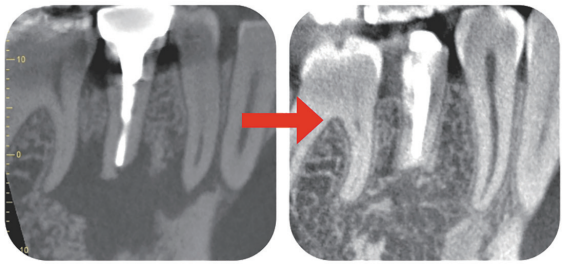


▶図５：下顎第二大臼歯に対する意図的再植術下での歯根端切除＋逆根管充填

フラップアプローチによる外科的根管治療が難しい症例でも、処置が可能な場合が残されている。

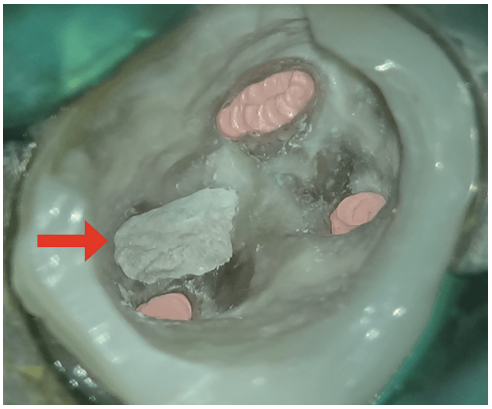
## 歯の保存の予知性を高めるための自費診療

2019年10月から、歯内治療科において根管治療の自費診療が増設されました。当院での保険診療では使用しうる薬剤や器材に制約があり、理想的な治療に比べその内容に限界がありました。自費診療を選択していただくことで、治療に使用する薬剤や器材の選択の幅が広がり、一本の歯の保存に対してより予知性の高い治療を提供できるようになりました。例えば、欧米では根管治療に有用な材料として使用されているMTAセメントを代表とするバイオセラミックス材料なども、国内では保険診療では用いることができませんが、自費診療で用いることにより、より理想的な治療が行えるようになりました（図６～８）。



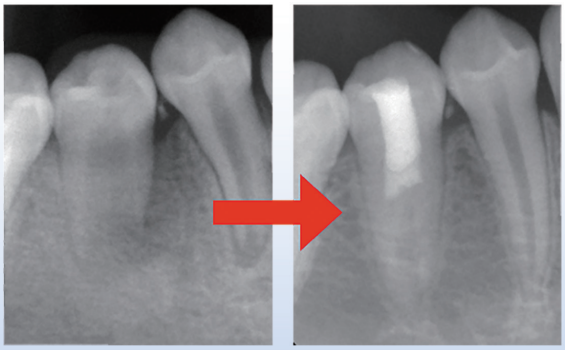
▲図６：外科的根管治療における逆根管充填にMTAセメントを使用した症例

近遠心隣接歯の根尖まで及ぶ骨欠損も、ほぼ完全に再生している。



▲図７：穿孔封鎖にMTAセメントを用いた症例

接着性材料の接着が期待できない湿潤下でも予知性の高い穿孔封鎖が行えるため、従来では保存をあきらめていた穿孔を有する歯も、適切な材料の選択・使用により保存できる可能性が増えてきた。



◀図８：根尖病変を有する失活した根未完成歯に対する再生的歯内治療

歯根の伸長と幅径の増加が認められる。MTAセメントを使用することで、従来のアペキシフィケーションを期待する方法では不可能であった治療が可能になってきた。

## 歯周病科

# 専門外来で行われる歯周治療

### 歯肉退縮の改善を目的とした自費診療
### （歯周形成手術とエムドゲイン®ゲルの併用療法）

歯周形成手術とは、歯周病により失った歯肉の厚さ、高さの問題や、歯肉退縮による歯根の露出を改善することによって、審美性の改善、歯周病の再発防止、またはプラークコントロールの行いやすい口腔内環境の確保を目的とする手術です。

近年、露出した根面に対して、歯周形成手術とエムドゲイン®ゲルを併用すると、歯周形成手術単独と比較して根面被覆が改善されることが示されています。そこで歯周病科では、審美性の改善を目的とする歯肉退縮に対して自費診療で歯周形成手術とエムドゲイン®ゲルの併用療法を行っております。（図１－3）



図１
下顎前歯部の歯肉退縮術前
隣の歯より歯肉が3mm退縮



図２
下顎前歯部の歯肉退縮術後
隣の歯と同じ高さに歯肉が回復



図３
使用したエムドゲイン®ゲル

## 歯の保存の予知性を高めるための自費診療

2019年の11月から、歯周病科において歯周組織再生治療の自費診療メニューが増設されました。当院での保険診療では使用しうる薬剤や器材に制約があり、世界的にみた理想的な治療に比べ、その内容に限界がありました。自費診療を選択していただくことで、治療に使用する薬剤や器材の選択の幅が広がり、歯周炎の歯に対して高い予知性を担保した治療を提供できるようになりました。例えば、骨補填材（サイトランスグラニュール）と歯周組織再生剤（リグロス）の併用療法（自費診療）を用いることにより、より予知性の高い歯周組織再生療法の適応症が広がりました。（図４）。また、自費診療では保険診療に比べ一回の診療時間を十分にとることができ、治療予約枠にも余裕がありますので、より早期の解決が期待できます。



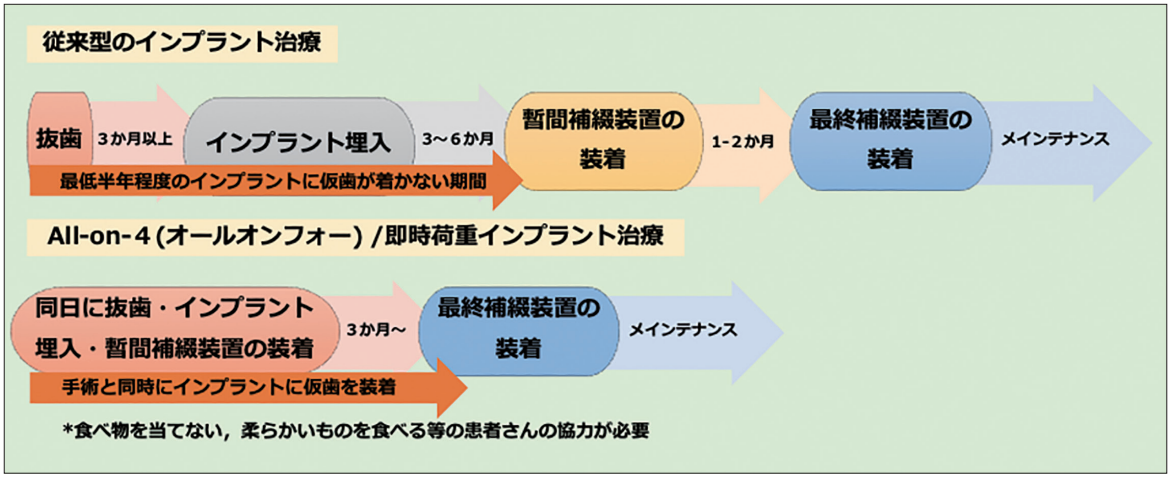
術前　　術後

図４
サイトランスグラニュールとリグロスを併用した歯周組織再生

インプラント歯科

# All-on-4（オールオンフォー）/ 即時荷重インプラント治療で 美しい笑顔を手に入れましょう！

従来型のインプラント治療も、失った歯を取り戻すためのすでに確立した治療方法ですが、歯を抜いた後インプラントを入れるための骨の治癒を待ってからインプラントの埋入手術を行い、インプラントと顎の骨がしっかりと固定するための時間をおいてから、インプラントに暫間補綴装置（仮の歯）を装着するため、「歯の無い期間」が通常半年程度できてしまいます。「歯のない期間」は、奥歯であれば無いままにしたり、前歯のように無いと困る場合は、入れ歯や隣の歯に仮歯をくっつけたりすることでしのぎます。




従来型のインプラント治療とAll-on-4（オールオンフォー）/即時荷重インプラント治療の違い

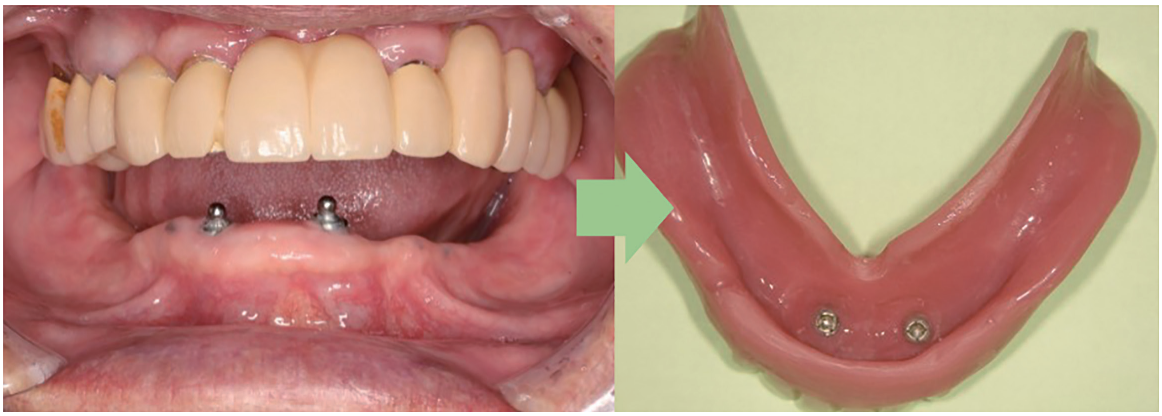
All-on-4（オールオンフォー）/即時荷重インプラント治療は、①歯を抜くこと、②インプラントを埋入すること、③埋入したインプラントに暫間補綴装置（仮の歯）を装着することの3つを1日で行う新しい治療法です。

All-on-4（オールオンフォー）/即時荷重インプラント治療は、以下のような患者さんに特に有効です。

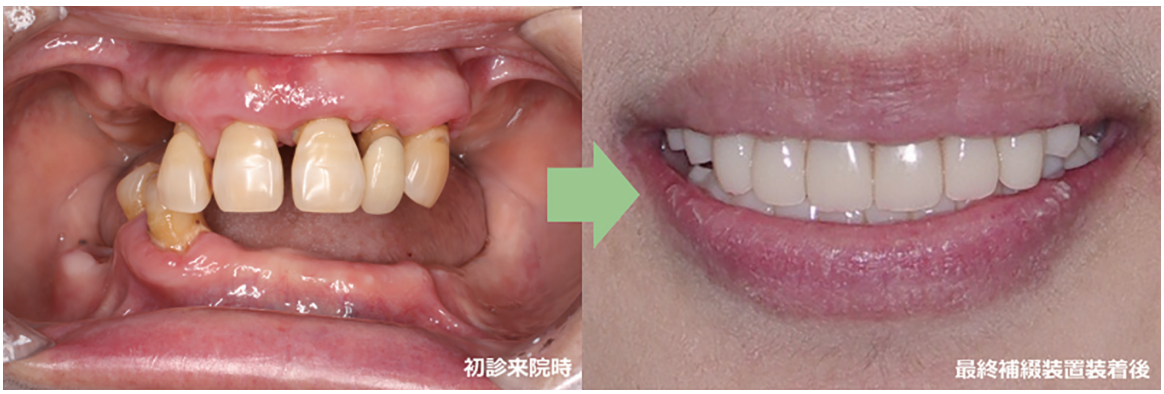
①総義歯を使用しているが、義歯を止めて取り外しの不要な歯を入れたい方
②抜かなくてはならない歯が多数あるが、入れ歯は絶対に入れたくない方
③むし歯や外傷（歯の破折）で前歯を抜かなくてはならない方
④永久歯が先天的に欠損していて、乳歯が残存している方
⑤義歯の使用は問題ないが、もう少し安定を良くしたい方




前歯即時荷重インプラント治療の例：上顎左側切歯先天欠如　20歳女性



下顎無歯顎即時荷重インプラント治療の例：２本のインプラントを総義歯の維持安定に利用　83歳男性




All-on-４(オールオンフォー)治療の例：上下無歯顎即時荷重　67歳女性

**All-on-４(オールオンフォー)/即時荷重インプラント治療**を安全に行うためには、十分な骨量が必要となります。そのため、十分な骨量が無い場合は、**All-on-４(オールオンフォー)/即時荷重インプラント治療**を行わない方が良い場合もありますので、受診時にご相談ください。昭和大学歯科病院インプラント歯科では、月～土曜日まで毎日予約制でインプラントに関するご相談をお受けしております。

**ご予約は、インプラント歯科予約受付 03-5498-1903よりお取りください。**

# 美容歯科

診療科長　真鍋 厚史



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
昭和58年卒

■所属している主要な学会
日本歯科保存学会／日本歯科審美学会
日本接着歯学会／日本デジタル歯科学会

## 診療体制

美容歯科では、ミニマルインターベンション（MI）を基本方針とし、カリエスリスクの診査や原因の除去など、予防を含めた齲蝕治療を行っています。また、コンポジットレジンやセラミックなどを用いた審美修復に力を入れています。
最新の機器や材料を導入するとともに、大学病院の特性を活かし、全身疾患を有する方や心因的要因を抱える方、口腔内以外の審美的要因の治療に関しても、他診療科との連携を行うことにより開業医では難しい症例にも対応しております。また当科では、患者さんのプライバシーに配慮した個室のユニットも設けております。

## 特徴的な診療領域

ミニマルインターベンション（MI）の考え方に基づいた齲蝕治療
コンポジットレジンを用いた審美性の高いダイレクトボンディング
セラミック修復
CAD/CAMシステムを用いた修復
ラミネートベニア修復
歯肉の色素沈着症に対するガムピーリング
歯のホワイトニング



## 紹介医療機関の先生方へ

美容歯科では診療前の問診をとても重要視しており、患者さんの審美的要求や心因的な要因を解決するため、時間をかけ、大学病院ならではの細かい配慮を心がけております。地域の中核を担う医療機関として、開業医の先生方やその他の医療機関からの紹介を受けることで、地域へ貢献していきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 齲蝕 | 3,417症例 | セラミック修復 | 142症例 |
| コンポジットレジン修復 | 1,475症例 | ラミネートベニア | 5症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 真　鍋　厚　史 | 教　授<br>（診療科長） | 日本歯科保存学会　歯科保存専門医・指導医<br>日本歯科審美学会　認定医 | なし | 月・金 |
| 小　林　幹　宏 | 准教授 | 日本歯科保存学会　歯科保存専門医<br>日本歯科審美学会　認定医 | なし | 月・火・金 |
| 新　妻　由衣子 | 講　師 | | 月 | 月・水・木・土 |
| 寺　島　実華子 | 助　教 | | 火 | 火・木・金・土 |
| 菅　井　琳太朗 | 助　教 | | 水 | 月・火・水・土 |

＊診療予定となっている曜日でも講義等で対応できない場合もあります。

## ホワイトニング外来

**●診療案内**

美容歯科では、2018年度よりホワイトニング専門の外来を設置しています。予約制となっており、歯科医師による診査診断後、歯科医師の管理のもと日本歯科審美学会認定のホワイトニングコーディネーターの資格を有する歯科衛生士が施術を行います。

**●特徴的な診療領域**

歯科病院で行うオフィスホワイトニング
ご自宅で行うホームホワイトニング
失活歯に対して行うウォーキングブリーチ
患者さん各々に合わせたホワイトニングプランを提案させていただきます。

## スタッフ

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） |
|---|---|---|---|
| 真　鍋　厚　史 | 教　授 | 日本歯科保存学会　指導医・専門医<br>日本歯科審美学会　認定医 | なし |
| 小　林　幹　宏 | 准教授 | 日本歯科保存学会　専門医<br>日本歯科審美学会　認定医 | 火・金 |
| 新　妻　由衣子 | 講　師 | | 月・水・木・土 |

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 |
|---|---|
| オフィスホワイトニング | 262症例 |
| ホームホワイトニング | 55症例 |
| ウォーキングブリーチ | 44症例 |

# 歯内治療科

診療科長　鈴木 規元



■卒業大学
東京医科歯科大学

■卒業年
平成６年卒

■所属している主要な学会
日本歯科保存学会／日本歯内療法学会
米国歯内療法学会／国際歯科研究学会

## 診療体制

当科では一般外来患者さんおよび近隣の歯科医院からの紹介患者さんに対し歯内治療（根管治療）を専門に行っています。
齲蝕が進行した歯であっても、根管治療によって歯根を保存した上で冠をかぶせることにより、もとの歯と同じ様に咬む力に耐え、永く機能させることができます。しかし、根管治療が適切に行われていない歯では、痛みを引き起こすだけでなく、周囲の骨や歯周組織が破壊され、抜歯になってしまう可能性があります。そのため、適切な根管治療を行うことは、歯を保存し永く機能させるために非常に重要ですが、根管は複雑な形態をしており、また直視することが困難なため、治療が難しくなることも少なくありません。
当科では、通常の根管治療に加え、根管治療をくり返しても治りにくい難治性根尖性歯周炎の治療や、歯の保存が可能かどうかの診断等の依頼を、近隣の歯科医院から受け入れ処置を行っています。特に、かかりつけ医で難治性根尖性歯周炎と診断された歯の多くは、治療期間や臨床症状が長期に渡っており、保存の可否を含めた正確な診断とその治療が必要となる場合が多くあります。その点、当科では歯科用実体顕微鏡（マイクロスコープ）や歯科用CTを併用することで、従来の方法では把握困難であった根管内外の問題を発見し、保存の可否の診断を含めた精細な治療が可能となっています。

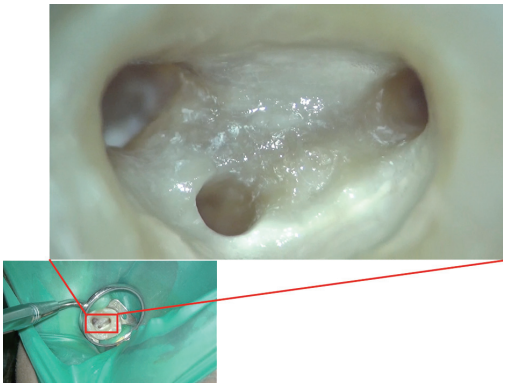
## 特徴的な診療領域

### 1）マイクロスコープを用いた歯内治療

マイクロスコープを使用した歯科治療、とりわけ歯内治療は、昨今注目を集めている分野の一つです。暗くて狭い環境にある根管内を、“光”と“拡大”により“可視化”することにより、肉眼では確認できなかった微細な解剖学的構造や感染源を明らかにし、より確実な治療を進めていけることが、マイクロスコープを使用した歯内治療の最大の特徴です。現在当科には９台のマイクロスコープが設置されており、すべての診療台でマイクロスコープを用いた歯内治療が可能です。かかりつけ医で難治性根尖性歯周炎と判断され、治療期間が長期に渡っているケースに対し、マイクロスコープの使用を難治性の原因究明の一助とし、確実な診断、処置を行うことが可能となりました。



マイクロスコープを用いた根管治療



拡大視野下での精細な治療が可能となる。

2）歯科用CTを併用した難治性根尖性歯周炎の診断

従前のデンタルX線写真を使用した画像診断では、詳細な構造の読影は困難でありました。歯科用CTを用いることにより得られる３次元画像から、周囲の骨の状態、病変の広がりや根管の形態を把握し、より詳細な診断を行うことが可能となりました。

3）X線CT画像診断に基づくマイクロスコープを用いた外科的根管治療

外科的根管治療とは、通常の根管治療では治癒しなかった歯や、通常の根管治療を行うことのできない歯に対して、外科的に根尖および周囲の感染部位を取り除く外科処置です。従来の方法と比較して、歯科用CTによる３次元的な診断の上でマイクロスコープを用いて処置を行うことにより、微細な構造を確認しながら、より精細で外科的侵襲の少ない処置ができるようになり、治癒率も格段に向上しました。歯肉を切開した痕も、ほとんど気にならない状態にまで回復します。

## 紹介医療機関の先生方へ

当科では通常の根管治療では治癒困難な症例につきまして、マイクロスコープを用いて精密な根管治療を行います。また必要に応じて歯科用CTによる精査も可能です。診断や治療にお困りの症例がございましたら、紹介状にこれまでの経緯およびご希望の治療内容をご記載の上、ご紹介いただければ幸いです。現在、大変予約が取りづらくなっており、治療期間が長くなってしまうことを何卒ご容赦ください。また自費診療による根管治療も行っておりますので、ご紹介いただく際には併せてご検討いただければ幸いです（巻頭のトピックスページ（p16～17）をご参照ください。）

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 |
|---|---|
| 歯髄炎に対する抜髄処置 | 287症例 |
| 根尖性歯周炎に対する根管治療 | 2,043症例 |
| マイクロスコープを用いた根管治療 | 2,300症例以上 |
| Ni-Tiロータリーファイルを併用した根管治療 | 1,800症例以上 |
| コーンビームCTを併用した難治性根尖性歯周炎の診断 | 633症例 |
| マイクロスコープ下での外科的根管治療 | 96症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 鈴　木　規　元 | 教　授<br>（診療科長） | 日本歯科保存学会　専門医・指導医 | | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>土（午前） |
| 浦　羽　真太郎 | 助　教 | 日本歯科放射線学会　准認定医<br>歯科用CBCT　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 | 金（午前） | 月（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前）<br>金（午後）<br>土（午前・午後） |
| 馬　場　　聖 | 助　教 | 日本歯科保存学会　認定医 | 土（午前） | 月（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前）<br>金（午前・午後）<br>土（午後） |
| 池　田　めぐみ | 助　教 | | 水（午前）、金（午後）<br>土（午後：ローテーション制） | 火（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前）<br>土（午前） |

＊診療予定となっている曜日でも、講義等で対応できない場合もあります。

# 歯周病科

診療科長　山本 松男



■卒業大学
東京医科歯科大学

■卒業年
平成４年卒

■所属している主要な学会
日本歯周病学会／日本歯科保存学会

## 診療体制

当科では、歯周病の予防や治療（再生治療・歯周形成外科）、歯周病により低下した咬合機能の回復と維持管理を行っています。初診は歯周病を専門とするスタッフが中心となって診察を行い、検査、診断の上、担当医を決定します。その後は担当医が歯周病の診療を担当します。担当医制になっていますが、スタッフ間で密に連携をとり、緊急時は担当医でなくとも対応できるような体制をとっています。

## 特徴的な診療領域

一口腔単位で、歯周病の治療を含めた包括的な歯科治療を行っています。患者さんの歯周病だけでなく、齲蝕・咬合状態・歯列不正・ブラキシズムなどの口腔内の状態や生活習慣病などの全身的な状態に応じて、予防・治療を行っています。また、近年歯周炎が全身疾患に影響を与えることが明らかになり、特に２型糖尿病患者または予備群の方には積極的な治療を行っています。

**歯周組織再生療法：**

リグロス®：歯周病治療を行う中で、歯周外科手術の際にリグロス®という歯周組織再生剤を歯槽骨の欠損部に塗布することで、歯槽骨の増加など、歯周組織の再生をはかる治療法です。保険診療が可能です。

エムドゲイン®ゲル：歯周病治療を行う中で、歯周外科手術の際に、歯周病に侵された歯根表面にエムドゲイン®ゲルという生物材料を用いて、破壊された歯周組織の再生を図る治療法です。保険外診療として行います。

どちらも低侵襲な治療法ですが、すべての患者さんに適応できるものではありません。手術が可能かどうかは、検査結果より総合的に判断するため電話でのお答えはいたしかねます。詳細につきましては、歯周病科または担当医にお尋ね下さい。また、保険外診療として各種骨補填材を併用した歯周組織再生療法も行っています。

**歯周審美外科治療（歯周形成手術）：**

歯周病により審美性が損なわれた歯肉の形態や矯正治療後の歯根露出を改善するための外科処置を行っています。従来、保険診療で行っていた遊離歯肉移植術および歯肉弁側方移動術、歯肉弁歯冠側移動術に加え、保険外診療としてエムドゲインを併用した歯周形成手術も行います。

**歯周補綴治療：**

歯周病により低下した咬合機能を回復させるための補綴物や義歯を作る処置を行っています。光学印象を導入し、患者さんへの負担を減らす配慮を心がけています。

**メインテナンス/SPT（Supportive periodontal therapy）：**

歯周病の再発予防と治療により回復した歯周組織や咬合機能の維持管理を行っています。

## 紹介医療機関の先生方へ

紹介状の封筒の宛先に「歯周病科」と必ず明記してください。事前に担当医の了承のない限り、原則、初診担当医が患者さんの病状や通院可能な曜日を考慮した上で、担当医を決めさせていただきます。
緊急の対応が必要な場合や特別な配慮を有する場合は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。
原則として、検査、診断、歯周基本治療から行わせていただきます。歯周外科のみご依頼の場合は、事前にご相談下さい。
紹介患者さんの受診結果は、来院後速やかに地域歯科医療連携室もしくは初診担当医からご報告します。紹介患者さんの受診状況に関する照会は、担当医に直接問い合わせて下さい。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| フラップ手術 | 116症例 | エムドゲイン | 2症例 |
| GTR法 | 1症例 | 歯周形成手術（歯肉弁側方移動術、歯肉弁歯冠側移動術、遊離歯肉移植術） | 26症例 |
| リグロス | 99症例 | 骨補填材（Bio-oss、サイトランス等） | 9症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 山　本　松　男 | 教　授 | 日本歯周病学会　専門医・指導医<br>日本歯科保存学会　専門医・指導医 | | 火（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前・午後） |
| 滝　口　　尚 | 准教授 | 日本歯周病学会　専門医・指導医<br>日本歯科保存学会　認定医 | 木(午前) | 水（午前）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 小　出　容　子 | 講　師 | 日本歯周病学会　専門医・指導医<br>日本歯科保存学会　認定医・専門医<br>日本歯科人間ドック学会　認定医 | 火(午後) | 火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 三　森　香　織 | 助　教 | 日本歯周病学会　専門医<br>日本歯科保存学会　認定医 | 木(午後) | 水（午前）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 相　澤　　怜 | 助　教 | 日本歯周病学会　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 | 金(午前) | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>金（午前）<br>土（午前・午後） |
| 菅　野　真莉加 | 助　教 | 日本歯周病学会　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 | 水(午前) | 月（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 大　谷　貴　之 | 助　教 | | 火(午前) | 火（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前）<br>土（午前・午後） |
| 清　田　萌　美 | 助　教 | | 金(午後) | 火（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 今　　美　乃 | 助　教 | | 月(午後) | 月（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 鈴　木　七　海 | 助　教 | | 月(午前) | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午前）<br>土（午前・午後） |

＊診療予定となっている曜日でも、講義等で対応できない場合もあります。

# 補綴歯科

診療科長　馬場 一美



■卒業大学
東京医科歯科大学

■卒業年
昭和61年卒

■所属している主要な学会
日本補綴歯科学会／日本口腔インプラント学会
日本デジタル歯科学会／日本顎関節学会

## 診療体制

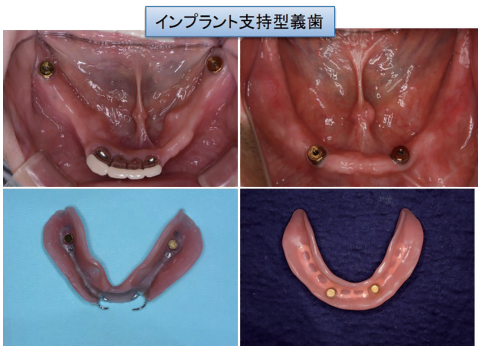
補綴歯科では補綴系の学会（日本補綴歯科学会・日本口腔インプラント学会・日本顎関節学会）の指導医・専門医を中心としたスタッフが診療にあたっています。予約制・担当医制をとり、一人のドクターが時間をとって継続的に一人の患者さんを治療しています。また緊急時には診療スタッフ間で情報を共有し、担当医ではなくとも対応できる体制をとっています。欠損補綴・審美修復のための歯冠修復・有床義歯(先進義歯)・インプラント補綴・顎補綴などのさまざまな治療オプションを組み合わせた補綴治療を提供できるよう日々努めています。

## 特徴的な診療領域










当科は冠橋義歯と有床義歯のみならず、インプラント補綴や顎補綴も含めた総合的な補綴診療を扱っています。その特徴を生かし、それぞれの専門性を維持しつつ、高度かつ先進的で、包括的な診療体系を提供できるよう努めております。持続的な『変化』と『進歩』をモットーとし、常に最新技術を導入し最先端の医療を提供することを使命としています。当科では特に光学印象・CAD／CAMといったデジタル・デンティストリーを得意としており、これにより治療中の患者さんのストレスを少なくし、時間的・経済的・環境コストを下げつつ従来以上のクオリティの治療を達成しています。また近年増加している歯科用金属アレルギーへの対策や審美的な補綴装置へのニーズに対応すべく、審美的なジルコニアをモノリシックで用いたクラウン・ブリッジを中心にメタルフリーの補綴治療を推進しております。さらに可撤性の補綴についても、先進義歯外来を併設しており、デジタルを利用したジルコニアやテレスコープ冠を応用した先進義歯を製作しています。インプラント補綴の治療においても、可撤性の義歯か固定型のインプラントのいずれかを選択するという旧来の臨床判断ではなく、患者さんに負担の少ない最小本数のインプラントを組み込むインプラント支持型義歯（インプラント・オーバーデンチャー、インプラント・アシステッド・パーシャルデンチャー）を積極的に推進しております。また、補綴治療の予後を悪化させるブラキシズムのコントロールや補綴装置の衛生面での管理も積極的に取り組んでいます。

## 紹介医療機関の先生方へ

全顎的に咬合の再構成が必要になるような複雑なケース、審美的に高いレベルが求められるケースなど、すれ違い咬合など、個人医院では対応にご苦労されるような症例についてお手伝いできるよう地域との連携を取ることが我々の努めと考えております。

歯の欠損があるすべての患者さん一人ひとりに合った補綴歯科治療をできるだけ少ない負担で提供し、歯を失うことによって損なわれた生活の質を向上させることを目標としております。さまざまな要望を考慮して、他の診療科と連携を図りながら最適な治療を提供しています。一口腔単位での治療を基本とし、高頻度治療から審美症例、咬合再構築などの補綴的難症例、治療方針におけるセカンドオピニオンまで幅広く対応しております。

## 2022年度主な症例・症例数（保険診療外）

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| クラウン・ブリッジ | 608症例 | 有床義歯 | 54症例 |
| インプラント補綴 | 186症例 | 光学印象 | 300症例以上 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 馬　場　一　美 | 教　授<br>（診療科長） | 日本補綴歯科学会専門医・指導医<br>日本顎関節学会専門医・指導医<br>日本口腔インプラント学会専門医 | | 水（午前）<br>金（午前）<br>（先進義歯外来） |
| 岩　佐　文　則 | 准教授 | 日本補綴歯科学会専門医・指導医 | 火（午前・午後）<br>（先進義歯外来） | 月（午前）<br>火（午前・午後）<br>金（午前・後）<br>土（午前）<br>（先進義歯外来） |
| 田　中　晋　平 | 准教授 | 日本口腔インプラント学会専門医 | 月（午前・午後） | 月（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前・午後）<br>金（午前）<br>土（午前） |
| 高　場　雅　之 | 講　師<br>（診療科長補佐） | 日本補綴歯科学会専門医・指導医<br>日本口腔インプラント学会専門医 | 金（午前・午後） | 月（午前）<br>水（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午後）<br>土（午前） |
| 安　部　友　佳 | 講　師 | 日本補綴歯科学会専門医 | 木（午前・午後） | 月（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前・午後）<br>金（午後）<br>土（午前） |
| 松　本　貴　志 | 助　教 | | 水（午前・午後） | 火（午前）<br>水（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>土（午前） |
| 浦　野　絵　里 | 助　教 | 日本補綴歯科学会専門医 | | 月（午前・午後）<br>火（午前）<br>木（午前・午後）<br>土（午前） |
| 三　田　　稔 | 助　教 | | | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>木（午後）<br>土（午前） |
| 池　谷　賢　二 | 助　教 | 日本補綴歯科学会専門医 | | 月（午前）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前） |
| 原　　真央子 | 助　教 | 日本補綴歯科学会専門医<br>日本口腔インプラント学会専修医 | | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>木（午前）・土（午前） |
| 楠　本　友里子 | 助　教 | 日本補綴歯科学会専門医 | | 月（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前）<br>土（午前） |

＊講義などの際は不在の時もあります。

# 顎顔面口腔外科

診療科長　代田 達夫



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
昭和61年卒

■所属している主要な学会
日本口腔外科学会／日本口蓋裂学会／日本顎変形症学会
日本顎顔面インプラント学会／頭頸部癌学会
日本口腔腫瘍学会／日本歯科薬物療法学会

## 診療体制

当科では智歯などの抜歯やインプラント手術などの他、炎症、外傷、顎関節疾患、顎嚢胞、顎骨腫瘍、口腔粘膜疾患、顎変形症および先天異常など歯・口・顎領域に生じる疾患の診断と治療を行っています。
当院は特に顎変形症と口唇口蓋裂などの先天異常の治療に関し全国でも有数の施設であり、多くの症例数を有しています。これらの疾患の治療は口腔外科と矯正歯科とのチーム医療が必須ですが、その集学的治療は国内外で高い評価を得ています。顎変形症に対する顎矯正手術では術前に採血し術中に自己血輸血を行うことが一般的ですが、当院では術中の出血量を極力少なくすることで上下顎骨形成術においても自己血輸血はほとんど行っていません。また、術前のコンピューターシミュレーションを基に作製したCAD/CAMスプリントとナビゲーションシステムを併用することで安全かつ正確な上下顎骨形成術を行っています。さらに、私たちが得意とし力を入れているのが、保険適用のインプラント治療である広範囲顎骨支持型補綴です。具体的には、口腔癌の切除手術などによって顎骨、歯肉や舌を含めた口腔内の広範な組織欠損が生じることで重篤な口腔の機能障害をきたした患者さんが適応となります。このインプラント治療は一般のインプラント治療には無い、より高度で専門的な知識と技術を結集することで初めて実現が可能となる先進的な歯科医療です。
私たちは、単に疾患を治療するのではなく、口腔・顎・顔面の形態や機能を回復させて、患者さんの社会復帰をサポートすることが大切であると考えています。

## 特徴的な診療領域

・智歯の抜歯・全身疾患を有する患者さんの抜歯・顎骨炎や蜂窩織炎・嚢胞性病変
・口腔粘膜疾患・腫瘍(悪性・良性)・口蓋裂などの先天異常・顎関節症・顎骨の骨折や口腔粘膜の裂傷などの外傷性疾患・顎変形症・インプラント治療

さらに以下のような先進的な医療への取り組みを行っています。

1）**顎変形症に対する顎矯正手術や腫瘍切除後の顎骨再建手術へのコンピュータシミュレーションおよびナビゲーション支援手術の導入**
当院の矯正歯科と共同開発した方法で、CTの撮像データから骨格形態だけでなく歯列形態まで再現した三次元頭部骨格モデルを作製し、より正確で安全な手術を行うためさまざまな手術に対するコンピュータシミュレーションを行っています。

2）**保険適用のインプラント治療（広範囲顎骨支持型補綴）**
さまざまな疾患によって生じた広範囲の顎骨欠損症例に対するインプラント治療であり、本学医学部形成外科からも患者の紹介を受け入れています。

3）**顕微鏡下手術への取り組み（顕微鏡の歯科応用）**
顕微鏡を用いることで歯根嚢胞や顎骨嚢胞などに対して、より精密で確実な手術に取り組んでいます。

## 紹介医療機関の先生方へ

当科の初診受付は月曜日～土曜日８：30～12：00（午前中のみ）となっております。
ご紹介患者さんの初回受診時は、緊急時を除き、原則診察のみとさせていただきます。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 顎変形症 | 106症例 | 炎症 | 20症例 |
| 嚢胞・顎骨腫瘍 | 165症例 | 埋伏歯 | 488症例 |
| 粘膜疾患 | 13症例 | 広範囲顎骨支持型補綴 | 28症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格<br>（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日<br>（初診） | 外来診療日<br>（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 代　田　達　夫 | 教　授 | 日本口腔外科学会専門医・指導医<br>更生医療担当医師<br>日本がん治療認定機構　がん治療認定医（歯科口腔外科）<br>日本顎顔面インプラント学会　指導医<br>日本歯科薬物療法学会　臨床治験担当者 | | |
| 鎌　谷　宇　明 | 准教授<br>（江東豊洲病院） | 日本口腔外科学会指導医<br>日本歯科薬物療法学会　臨床治験担当者<br>日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）<br>インフェクションコントロールドクター（ICD）<br>日本化学療法学会抗菌化学療法認定歯科医師 | | |
| 安　田　有　沙 | 講　師<br>（横浜市北部病院） | 日本口腔外科学会専門医 | | |
| 佐　藤　　仁 | 講　師 | 日本口腔外科学会指導医<br>日本顎関節学会指導医<br>日本口腔顔面痛学会指導医<br>国際口腔顎顔面外科専門医（FIBCSOMS）<br>日本顎顔面インプラント学会認定専門医<br>いたみ専門医<br>インフェクションコントロールドクター（ICD） | | |
| 椋　代　義　樹 | 講　師 | | | |
| 守　谷　　崇 | 助　教 | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 稲　田　大佳暢 | 助　教 | 日本口腔外科学会専門医 | | |
| 小　橋　　舞 | 助　教 | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 笹　間　雄　志 | 助　教<br>（山梨赤十字病院） | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 田　中　元　博 | 助　教 | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 堅　田　凌　悟 | 助　教<br>（横浜市北部病院） | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 天　田　かおり | 助　教<br>（江東豊洲病院） | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 宮　本　裟　也 | 助教（歯科）<br>（横浜市北部病院） | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 朝　倉　眞莉子 | 助教（歯科）<br>（江東豊洲病院） | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 佐　藤　有里子 | 助教（歯科） | 日本口腔外科学会認定医 | | |
| 根　本　結　基 | 助教（歯科） | | | |
| 伊　藤　美　莉 | 助教（歯科） | | | |
| 生　川　真希帆 | 助教（歯科） | | | |
| 今　野　瑤　士 | 助教（歯科） | | | |
| 須　賀　万　貴 | 助教（歯科） | | | |
| 名　取　美　里 | 助教（歯科） | | | |
| 山　田　理　功 | 助教（歯科） | | | |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義などで対応できない場合もあります。

# 口腔腫瘍外科



診療科長補佐　**齊藤 芳郎**

診療科長代行　昭和大学病院長　**槇 宏太郎**

■卒業大学
昭和大学

■卒業年
平成22年卒

■所属している主要な学会
日本口腔外科学会／日本頭頸部癌学会
日本口腔腫瘍学会

## 診療体制

口腔腫瘍外科は、頭頸部癌専門の頭頸部外科医１名と口腔癌専門の歯科口腔外科医６名で頭頸部外科医師だけの治療と歯科口腔外科医師だけの治療の欠点を補い安全で確実な医療を提供しています。再建の必要な手術、(化学)放射線療法に関しては、昭和大学病院頭頸部腫瘍センターで行うことで他診療科との連携を行い、高度で安全な医療を提供しています。

## 特徴的な診療領域

・口腔の良性、悪性腫瘍や唾液腺腫瘍を対象としています。
・外来診療ではNBI内視鏡を使用した口腔内診療を行うことにより、口腔癌の早期発見や口内炎との鑑別が可能になっています。
・手術では一般的な切除から切除と遊離皮弁による再建術まで幅広く対応しています。
・口腔から鼻、副鼻腔などの周辺領域にまたがる腫瘍もスタッフに頭頸部外科医がいるため、鼻科内視鏡やナビゲーションシステムを使用することで低侵襲な手術が行える場合もあります。
・放射線療法、化学放射線療法、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬などの治療経験は、頭頸部癌（昭和大学病院頭頸部腫瘍センター）も扱っているため経験豊富です。

## 紹介医療機関の先生方へ

当科のスタッフは昭和大学病院頭頸部腫瘍センターを兼務していますので、当科にご紹介いただければ患者さんの状態にあった病院で治療を行うことができます。両病院で連携を取りながら患者さんそれぞれに適した最善の医療を提供してまいります。また口腔腫瘍外科では、地域の先生方と密に連携を取りながら診療を進めてまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 |
|---|---|
| 舌癌手術（舌部分切除） | 4例 |
| 頬粘膜癌手術（頬粘膜部分切除） | 1例 |
| 舌白板症手術（舌部分切除） | 4例 |
| 歯肉白板症手術（歯肉切除） | 1例 |
| 口腔底腫瘍 | 2例 |
| 頬粘膜腫瘍手術 | 3例 |
| 口唇腫瘍 | 1例 |
| 顎骨腫瘍手術 | 6例 |
| 合計 | 22例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格<br>（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日<br>（初診） | 外来診療日<br>（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 嶋　根　俊　和 | 兼担教授<br>耳鼻咽喉科<br>頭頸部外科学講座<br>教　授 | 日本耳鼻咽喉科学会　専門医<br>日本耳鼻咽喉科学会　専門医研修指導医<br>日本頭頸部外科学会　頭頸部がん専門医<br>日本頭頸部外科学会　頭頸部がん指導医<br>日本がん治療認定医機構　がん治療認定医<br>日本気管食道科学会　専門医<br>医療系大学間共用試験実施評価者機構外部評価認定医<br>身体障害認定指定医 | 水（午前） | 水（午前） |
| 勝　田　秀　行 | 准教授 | 日本口腔外科学会　専門医<br>日本口腔外科学会　指導医<br>日本がん治療認定医機構　がん治療認定医（歯科口腔外科） | 金（午前） | 金（午前） |
| 齊　藤　芳　郎 | 講　師<br>（診療科長補佐） | 日本口腔外科学会　専門医<br>日本がん治療認定医機構　がん治療認定医（歯科口腔外科） | 月（午前） | 月（午前） |
| 筑　田　洵一郎 | 助　教 | 日本口腔外科学会　認定医 | 水（午前） | 水（午前） |
| 倉　澤　侑　也 | | | | |
| 安　部　勇　蔵 | 助　教 | 日本口腔外科学会　認定医 | | |
| 菅　　舞　子 | 助　教（歯科） | | | |
| 張　替　彩記子 | 助　教（歯科） | | | |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義等で対応できない場合もあります。

# 矯正歯科

診療科長　中納 治久



■卒業大学
神奈川歯科大学

■卒業年
平成３年卒

■所属している主要な学会
日本矯正歯科学会／日本口蓋裂学会
日本顎変形症学会／日本顎関節学会

## 診療体制

歯科医師43名歯科衛生士４名の体制で、歯科ユニット20台の歯科診療室で診察を行っています。
初診相談は毎日、月～土（８：30～11：30、13：00～15：00）に行っており常時２名以上の歯科医師で担当しています。診療時間は月～土（８：30～17：00）で、2017年12月より土曜日の午後診療も開始しました。当科は一般的な小児矯正や成人矯正のみならず、専門的な手術を伴う顎変形症や唇顎口蓋裂などの不正咬合を伴う、厚生労働大臣が定める疾患の矯正治療も行っております。

## 特徴的な診療領域

**①他診療科との連携治療の実施**

当科における矯正治療の特色の一つに、矯正治療が保険適応となっている唇顎口蓋裂を含めた不正咬合を呈する先天性疾患や、顎変形症の患者さんが多いことです。これは『先天異常の治療」を一つの研究テーマとしてきた、当矯正歯科の歴史でもあります。また、昭和大学の特徴である医療系総合大学としての学部を越えた横の繋がりを活かし、昭和大学藤が丘病院口唇口蓋裂センター『形成外科』、歯科病院『顎顔面口腔外科』などの各診療科とチーム医療の一環として、毎月１回、カンファレンスを行い、相互治療に役立てています。

**②治療への裏付けである先進的検査機器による矯正治療診断**

矯正治療を始めるにあたって治療方針を決定する『的確な診断』が重要です。その為、低被爆歯顎顔面用コーンビームCTを主とする先進的検査機器を用いて３次元的に資料を解析し、診断計画の立案を行っています。コーンビームCTなどを使用して、患者さんへ治療方法を分かり易く丁寧に納得のいくよう説明する事を心がけています。

**③アライナー型矯正装置（マウスピース矯正）を用いた矯正治療**

近年、可撤式で透明なアライナー型矯正装置（以下、アライナー）を用いたマウスピース矯正が一般化しています。当科でも、2003年に導入した『インビザライン®』を始め、『クリアコレクト®』などのアライナー矯正を行っています。アライナーのメリットは、他人から見えない、取り外し可能でプラークコントロールが行いやすい、金属アレルギーの患者さんにも適応可能などの利点が挙げられます。従来の歯科矯正治療の短所であった「装置が目立つ」、「口内炎が出来やすい」等の改善になると考えています。

**④予防歯科医学を併用した矯正歯科（検査・診断・治療）**

当科では、2018年４月から歯科大学病院として日本初となる「矯正歯科治療に齲蝕の予防管理プログラム CAMBRA™（Caries Management By Risk Assessment）」を導入いたしました。このプログラムによって、矯正装置装着前・矯正装置装着中・矯正装置除去後の一連の中で矯正治療患者の齲蝕リスクに及ぼす影響を患者と歯科医師・歯科衛生士間で把握、共有できるようになりました。加えて、同年４月の診療報酬改定において、『口腔機能発達不全症』が保険導入されました。患者さん自身では自覚症状があまりない場合が多く、「咀嚼や嚥下がうまくできない」、「舌足らずなしゃべり方」、「口呼吸」などが認められます。これらの症状は、不正な顎顔面の発育を惹起する恐れがあるとされています。当科では、『専門的な研修を受けた歯科衛生士』による『筋機能訓練』を行い、口唇閉鎖力測定、動画による動きの評価など、積極的な予防歯科治療にも努めております。

## 紹介医療機関の先生方へ

近年、デジタル技術の発達により素晴らしい矯正装置が開発されています。一方、歯列の拡大のしすぎで口唇閉鎖が出来ない、不用意に歯を移動して、前歯や小臼歯の歯根吸収や埋伏を招いてしまった、抜いた歯のスペースが閉じなくなってしまったなど、トラブルも発生しています。医療として矯正治療を行うためには、検査・診断が重要です。当科では最先端の検査機器を用いて『的確な診断』を行い、安心で安全な矯正治療を提供出来るよう努力しております。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 一般矯正治療（新患） | 895名 | 一般矯正治療（延再来数） | 16,793名 |
| 顎変形症、唇顎口蓋裂他（新患） | 96名 | 顎変形症、唇顎口蓋裂他（延再来数） | 16,802名 |
| マウスピース型矯正装置による治療（新患） | 12名 | マウスピース型矯正装置による治療（再来） | 44名 |

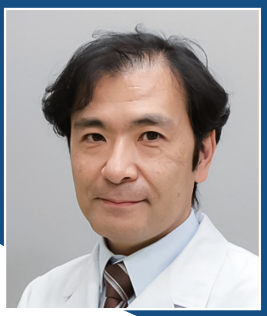
## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 中　納　治　久 | 教　授<br>（診療科長） | 日本矯正歯科学会　管理指導医・認定医・指導医・臨床指導医<br>日本顎関節学会　専門医<br>日本口蓋裂学会　認定師 | なし | 水（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（第1・3週 午前） |
| 槇　　宏太郎 | 特任教授<br>歯科病院長 | 日本矯正歯科学会　認定医・指導医・臨床指導医<br>日本歯科審美学会　認定医<br>日本口蓋裂学会　認定師 | なし | 不定期 |
| 芳　賀　秀　郷 | 准教授 | 日本矯正歯科学会　認定医・指導医<br>日本スポーツ歯科医学会 認定医・認定MGテクニカルインストラクター<br>日本口蓋裂学会　認定師 | 水（午前・午後）<br>木（5・8・11・2月<br>第1週 午前・午後） | 月（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（第3・4週 午前・<br>第4週 午後） |
| 長　濱　　諒 | 講　師<br>（診療科長補佐） | 日本矯正歯科学会　認定医<br>日本口蓋裂学会　認定師 | 木（5・8・11・2月<br>第2週 午前・午後）<br>土（第2週 午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午後）<br>水（午後）<br>金（午前・午後）<br>土（第3週 午前） |
| 吉　田　　寛 | 講　師 | | 月（午前・午後）<br>木（6・9・12・3月<br>第1週 午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前）<br>金（第1・2・4週<br>午前・午後）<br>土（第2・4週 午前・<br>第4週 午後） |
| 鬼　丸　美奈子 | 助　教 | | 木（6・9・12・3月<br>第4週 午前・午後）<br>土（第3週 午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（第4週 午前） |
| 北　　はるな | 助　教 | | 木（4・7・10・1月<br>第2週 午前・午後）<br>土（第4週 午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午後）<br>水（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（第2週 午前） |
| 小　松　麻衣子 | 助　教 | | 木（4・7・10・1月<br>第3週 午前・午後）<br>土（第1週 午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（第3週 午前） |
| 丹　澤　　史 | 助　教 | | 木（4・7・10・1月<br>第2週 午前・午後）<br>金（午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>土（第1・2週 午前・<br>第2週 午後） |

＊診療予定となっている曜日でも、講義等で対応できない場合もあります。

# 小児歯科

診療科長　船津 敬弘



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
平成８年卒

■所属している主要な学会
日本小児歯科学会／日本障害者歯科学会
日本小児口腔外科学会

## 診療体制

小児歯科は、歯科病院４階にあり、文字通り「子どものための診療」を行う診療科です。
当科は常勤歯科医師11名、非常勤歯科医師10名、歯科衛生士３名で診療を行っています。患者さんの内訳としては低年齢児において外傷や齲蝕が多く、学童期以上では永久歯の萌出障害（萌出異常）や歯列・咬合に関する相談が多く認められます。当科での診療は基本的に担当制をとっておりますが、緊急時は担当医でなくとも対応できるような体制をとっております。また、齲蝕や予防処置以外に口腔機能発達に関しても総合的に診断・診療を行っております。

## 特徴的な診療領域

齲蝕の治療や予防ばかりでなく、歯の生え方や歯並びの相談をはじめとして、習癖や食べ方の問題など、より良い口腔環境を整えるための治療計画を立て、それに則り診療をしています。齲蝕治療が終了した子どもの口腔内は変化をしていくため、歯科衛生士と協力し成長に合わせた口腔ケアプランの作成や予防処置を行って参ります。

## 紹介医療機関の先生方へ

当科では、齲蝕や歯肉炎などの予防・治療、外傷の治療を含め総合的な口腔管理を中心に行っています。
その他、全身疾患をお持ちの患者や障害児の来院もみられます。嚢胞、歯牙腫などの症例では必要に応じてCTによる解析を行い、病変の摘出だけではなく、その後の成長にも配慮しながら外来小手術または全身麻酔下での手術を施行しております。
また当科単独での診療では対応することが困難な基礎疾患や先天疾患を有し、総合的な治療を要する小児の場合は他診療科や医科の連携を取り、安全に治療ができる配慮を行っております。
そして、歯科治療に対して適応が困難な小児に対しても対応や治療を実施しております。主に外来での治療を行っておりますが、必要な小児に対しては全身麻酔下での集中治療も行っております。
さらに早期からの口腔疾病の予防が重要であると考えられるため、妊娠期からの歯科的知識の啓発と口腔管理が非常に重要となってきます。そこで昭和大学横浜市北部病院・江東豊洲病院において、マタニティー歯科学級･マタニティー歯科検診、赤ちゃん歯科学級を開設して、マイナス１歳からの予防を行っております。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 |
|---|---|
| 外傷の治療 | 384症例 |
| 全身麻酔下での外科処置 | 130症例 |
| 全身麻酔下での齲蝕処置 | 13症例 |
| 摂食機能療法 | 35症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 船　津　敬　弘 | 教　授 | 日本小児歯科学会　専門医・指導医<br>日本障害者歯科学会　専門医・指導医<br>日本小児口腔外科学会　認定医・指導医<br>日本口蓋裂学会認定師 | 水（午前） | 火（午前）<br>水（午前）<br>土（午前） |
| 浅　川　剛　吉 | 准教授 | 日本小児歯科学会　専門医・指導医<br>日本障害者歯科学会　認定医 | 月（午前・午後）<br>土（午前・午後） | 水（午前・午後）<br>木（午前・午後） |
| 杉　山　智　美 | 講　師 | 日本小児歯科学会　専門医・指導医<br>日本障害者歯科学会　認定医<br>日本口蓋裂学会認定師 | 火（午前・午後）<br>土（午前・午後） | 木（午前・午後）<br>金（午前・午後） |
| 下　村　直　史 | 助　教 | 日本障害者歯科学会　認定医 | 木（午前・午後）<br>土（午前・午後） | 月（午前・午後）<br>金（午前・午後） |
| 新　田　雅　一 | 助　教 | 日本障害者歯科学会　認定医<br>マウスガードテクニカルインストラクター | 水（午前・午後）<br>土（午前・午後） | 木（午前・午後）<br>金（午前・午後） |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義等で対応できない場合もあります。

# 口腔機能管理科

診療科長　古屋 純一



■卒業大学
東京医科歯科大学

■卒業年
平成８年卒

■所属している主要な学会
日本老年歯科医学会／日本補綴歯科学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会
日本咀嚼学会

## 診療体制

口腔機能管理科では、オーラルフレイルになりやすく、口腔機能が低下しやすいご高齢（65歳以上）の方を中心に担当しております。年齢を重ねると、齲蝕・歯周病・義歯などの口腔の「形」の問題だけではなく、「働き」の問題が生じやすくなります。こうした口腔の形と働きを「口腔機能」と呼びます。
最近の研究で、口腔の健康は全身の健康と関連することがわかってきました。口腔は消化管と気道の入り口ですから、低栄養や誤嚥性肺炎のみならず、糖尿病、心疾患、認知症、脳血管疾患などの全身疾患との関連も考えられています。また、口腔機能の低下は、将来的なフレイル（全身の虚弱）・要介護のリスクを高めることもわかっています。
ご高齢になると、加齢変化や廃用、全身疾患、口腔疾患を原因として、咬合力、舌や口唇の動き、舌の筋力、口腔乾燥、口腔衛生、咀嚼・嚥下などの複合的な口腔機能の問題が生じて、食事などの日常生活に支障が生じることがあります。これを口腔機能低下症と言います。現在、50歳以上の方を対象に口腔機能低下症の検査を公的保険の給付で実施することが可能となりました。これにより、患者さんが自ら口腔機能に対して自覚的になり、定期的な歯科受診によって、積極的にオーラルフレイル対策に取り組むことが推奨されています。
口腔機能管理科では、こうした複合的なニーズに応えるために、老年歯科医学会、補綴歯科学会、摂食嚥下リハビリテーション学会の専門医・認定医を中心としたチーム診療を外来と訪問で行っております。また、必要に応じて医科の担当医と連絡をとり、院内の専門科と連携して最善の診療を行えるよう取り組んでいます。

## 特徴的な診療領域

健康長寿の延伸は歯科にとっても大変重要な課題です。オーラルフレイル、口腔機能低下症、そして摂食嚥下障害と続く一連の口腔機能の低下に対しては、特にご高齢の方のライフステージや生活環境にあわせて、歯科治療、食事支援、多職種連携による生活支援を統合的に行うことが重要です。
当科では、義歯と口腔機能を通じた食支援によって、「その人らしさを引き出す」統合的診療によって、ご高齢の方の健康と生活をサポートします。近隣にお住まいの方で当科がかかりつけの場合には、外来に通院できなくなった場合にも訪問診療によって対応できることがありますのでご安心ください。

## 推進したい先進性のある治療法について

・口腔機能低下症、オーラルフレイル
・有床義歯治療
・高齢期の摂食嚥下障害
・金属床義歯・特殊な義歯
・全身疾患（脳血管疾患、神経疾患）を有する高齢者の歯科治療
・歯科訪問診療
・要介護高齢者・フレイル高齢者の口腔機能管理

## 紹介医療機関の先生方へ

口腔機能管理科で担当させていただく方は、一見お元気に見えても潜在的な病気を抱えている場合も多いものです。当科では、ご高齢の方に多い疾患や心身の変化に配慮しながら、健やかで豊かな生活のために、高度な歯科医療を総合的に提供します。
当科の特徴は、義歯などの歯科治療に加えて、口腔機能や咀嚼・嚥下機能の評価、摂食嚥下リハビリテーション、食事指導も含めた統合的診療をご高齢の方に行うことです。また、通院が困難な方には、施設や在宅への訪問診療も他の専門外来や地域の歯科医院と連携して行っております。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 口腔機能低下症 | 397症例 | 金属床義歯 | 36症例 |
| 訪問歯科診療 | 730症例 | インプラント補綴 | 19症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 古　屋　純　一 | 教　授 | 日本老年歯科医学会　専門医・指導医・<br>摂食機能療法専門歯科医師<br>日本補綴歯科学会　専門医・指導医<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本臨床栄養代謝学会TNT修了 | | 火・水・木 |
| 下　平　　修 | 講　師 | 日本老年歯科医学会　専門医<br>日本補綴歯科学会　専門医・指導医 | 水 | 月・火・水・金 |
| 大　澤　淡紅子 | 助　教 | 日本口腔インプラント学会　専門医<br>日本補綴歯科学会　専門医 | 月 | 水・木・金 |
| 畑　中　幸　子 | 助　教 | 日本老年歯科医学会　認定医<br>日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター | 木 | 月・火・水 |
| 内　田　淑　喜 | 助　教 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター | 火 | 月・火・木・金 |

＊診療予定となっている曜日でも講義等で対応できない場合もあります。

## トピックス

・口腔機能低下症の検査と管理
・全部床義歯難症例への対応
・咀嚼・嚥下障害を有する要介護高齢者の診療

# 医科歯科連携診療歯科

診療科長　マイヤース 三恵（田代）



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
平成６年卒

■所属している主要な学会
日本口腔外科学会／有病者医療学会

## 診療体制

医科歯科連携診療歯科は、医系総合大学である昭和大学の利点を最大限に生かし、全身疾患をお持ちで、歯科治療の際に何かしらの医学的な配慮を必要とする患者さんに対し安心安全な治療を提供することに特化した診療科です。また、当科は昭和大学歯科病院の初診患者さんの窓口の役割も担っており、特定の診療科が指定されていない紹介状をお持ちの患者さんおよび紹介状をお持ちでない患者さんも拝見しています。診療依頼内容を確認、問診、口腔内診査を行った後、患者さんが最適な治療を受けられるように適切な診療科を決定します。全身的なご病気のある患者さんに対しては、医科主治医と連携を図りながら複数の診療科に移動することなく、むし歯治療から入れ歯、抜歯、小手術に至るまでの包括的治療を行います。患者さんがよりスムーズに、スピーディーに最適・最良な医療が受けられるように地域連携・院内連携・病診連携を強化しています。

## 特徴的な診療領域

・全身疾患をお持ちで、歯科治療の際に何かしらの医学的な配慮を必要とする患者さんに対し安心安全な治療を提供することに特化した診療科です。
　がん治療中（手術前後・抗がん剤治療中、緩和医療期など）の周術期口腔機能管理、抗血栓薬、骨粗鬆症の薬をお飲みの方、薬剤アレルギーをお持ちの方など、地域の歯科医院では治療が難しい全身疾患をお持ちの患者さんに対し、歯科疾患の診断をするだけではなく、医科主治医やかかりつけ歯科主治医と連携を図りながら、歯科治療に影響する全身状態のリスク診断を行い、最適・最良な管理下で包括的治療を行います。全身状態により歯科麻酔科と連携して、血圧や心電図をモニターしながら治療を行なったり、笑気麻酔、静脈内鎮静法、全身麻酔を併用した治療も行っております。
・歯科恐怖症の方々へ痛くなく快適な治療を提供いたします。
　歯科と聞いただけで冷や汗が出る方、口腔内に治療器具が入っただけで嘔気反射になってしまう方、歯科麻酔科と連携して状況に応じて、静脈内鎮静法・全身麻酔などを併用して、快適に治療いたします。

## 紹介医療機関の先生方へ

歯科口腔の治療全般に対応いたしますが、特に有病者（心臓病、糖尿病、抗血栓薬服用中、がん治療中の方をはじめとした重篤な全身疾患をお持ちの方々）、歯科恐怖症、睡眠時無呼吸症候群、舌痛症など、地域の歯科医院では対応が困難な患者さんについては力を入れています。スタッフは昭和大学附属病院の麻酔科や救命救急科で研修しており、全身的リスクに対する実践的な経験と知識を有しておりますので、安心して歯科治療を受けられる体制を整えております。医科の先生方には、日常の診療でご苦慮されている歯科口腔疾患の患者さんがおりましたら、ご紹介の程宜しくお願い申し上げます。

## 2022年度主な症例・症例数　以前の症例を参考までに残してあります。

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 有病者 | 1,207 | 異常絞扼反射 | 38 |
| 下顎埋伏歯抜歯 | 529 | 薬剤アレルギー既往 | 122 |
| その他の埋伏歯抜歯 | 67 | 全身麻酔下での治療 | 99 |
| 歯性感染症 | 36 | 静脈麻酔下での治療 | 486 |
| 粘膜疾患 | 97 | 静脈内鎮静法下での治療 | 60 |
| 歯科恐怖症 | 83 | | |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| マイヤース<br>（田代）三恵 | 准教授<br>（診療科長） | 一般社団法人　日本有病者歯科医療学会認定　有病者歯科認定医<br>インフェクションコントロールドクター協議会認定ICD<br>公認心理師 | 月（午前）<br>水（午後） | 月（午後）<br>火（午前）<br>水（午前）<br>金（午前・午後）<br>土（午前） |
| 伊佐津　克　彦 | 准教授 | 特定非営利活動法人　日本歯周病学会認定　歯周病専門医<br>一般社団法人　日本総合歯科学会　認定総合歯科医・指導医 | 月（午後）<br>木（午前） | 月（午前）<br>火（午前）<br>木（午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前） |
| 松　浦　光　洋 | 講　師 | 公益社団法人　日本口腔外科学会認定　口腔外科専門医<br>特定非営利活動（NPO）法人　日本口腔科学会認定　口腔科学会認定医<br>一般社団法人　日本抗加齢医学会認定　抗加齢医学会専門医<br>スポーツデンティスト | 火（午後）<br>金（午後） | 月（午前・午後）<br>火（午前）<br>水（午前・午後）<br>金（午前）<br>土（午前） |
| 松　井　庄　平 | 助　教<br>（診療課長補佐） | 公益社団法人　日本口腔外科学会認定　口腔外科認定医<br>一般社団法人　日本有病者歯科医療学会認定　有病者歯科専門医 | 火（午後）<br>水（午前） | 火（午前）<br>水（午後）<br>木（午前）<br>金（午前・午後）<br>土（午前） |
| 阿部（勝又）　桂子 | 助　教 | 一般社団法人　日本総合歯科学会　認定総合歯科医 | | |
| 森　　美　菜 | 助　教 | 一般社団法人　日本有病者歯科医療学会認定　有病者歯科認定医 | 月（午後）<br>金（午後） | 月（午前）<br>水（午前・午後）<br>木（午前）<br>金（午前） |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義等で対応できない場合もあります。

# 口腔機能リハビリテーション科



診療科長補佐　伊原 良明
診療科長代行　昭和大学病院長　槇 宏太郎

■卒業大学
昭和大学

■卒業年
平成20年卒

■所属している主要な学会
日本摂食嚥下リハビリテーション学会／日本老年歯科医学会
日本障害者歯科医学会／日本口腔科学会
口腔リハビリテーション学会／日本睡眠歯科医学会
顎顔面補綴学会

## 診療体制

歯科医師15名（大学院生８名含む）と言語聴覚士２名が常勤のスタッフで、そのほかに非常勤講師の歯科医師８名と筋機能療法担当者１名が月１、２回診療に参加しています。言語訓練の患者さんはまず歯科医師が口腔内の状態と言語に関連する器官の動きと感覚を検査し、その後は言語聴覚士が訓練指導を担当し、機能改善装置が必要な患者さんなどは歯科医師と言語聴覚士が協働して診療にあたります。歯科病院内科クリニックとの連携をはじめとし、本学医学部病院各診療科、他大学病院、癌専門病院、地区歯科医師会、地区医師会とも積極的に連携医療を展開しています。東京近郊のみならず、遠方の医療機関から当科を紹介され受診されている患者さんもおります。また、外来診療だけではなく、さまざまな理由で当院に通院できない摂食嚥下障害の患者さんには訪問診療を行っております（往診可能な範囲は当院より直線距離で16km以内です。また病状によっては訪問診療できない場合もあります）。さらに患者さんによってはリハビリテーションの方法を短期間で正確に習得していただくため、３日～５日程度の入院下で集中訓練を行う場合もあります。実際の診療では各種機能評価装置、当科独自の嚥下機能検査システムである患者さんの検査時状況画像・呼吸音と嚥下音の音響情報・嚥下機能検査画像の同時記録システムなどを用いて可能な限り詳細で正確な診断を行い、この診断から治療プログラムを立案します。治療では神経筋刺激装置をはじめ従来の治療法に加え、当科で工夫した独自の治療法を実施することにより、患者さん毎に適切なリハビリテーションプログラムを立案できるよう努めております。また治療結果を客観的に判定するために治療前から患者さんの感覚機能と運動機能を各種評価装置を用いて定量評価しています。リハビリテーションは楽に行えるものはほとんどありません。当科では患者さんならびにご家族の訓練に対する意欲（アドヒアランス）を高めるために検査結果やリハビリ訓練について患者さんならびにご家族に丁寧にご説明するとともに、患者さんの検査時の状態、リハビリ訓練の様子などの動画像を提供しています。

## 特徴的な診療領域

1．**食べる・飲み込む機能の障害（摂食嚥下障害）に対する治療・訓練**
脳卒中や頭頸部癌、神経疾患、先天性疾患などにより摂食嚥下障害を有する患者さんに対し、既存の機能訓練法に加え、患者さんに応じて嚥下補助装置（飲み込みを助けるための口腔内装置）、顎義歯（術後に口腔内に大きな欠損ができた方に適用する特殊な義歯）、当科独自の下顎復位装置（術後に下顎の位置がずれてしまった方に適用）や熱可塑性レジン性開口訓練器を適用することにより、早期に確実な改善が得られています。

2．**ことばの障害（発音障害）に対する治療・訓練**
脳卒中や頭頸部癌の術後、先天性疾患などにより上手に話せない方や、口の中に異常はないが発音しにくいことばがある方へ、言語の専門家（言語聴覚士）がマンツーマンで言葉の訓練を行うことに加え、発音補助装置（発音を助けるための口腔内装置）を歯科医師が作製し、その調整を言語聴覚士と協働で行うことによって、効率的に改善効果が得られています。

3．**いびきや夜間の無呼吸（睡眠時無呼吸低呼吸症候群：OSAHS）の治療**
いびきや睡眠中に無呼吸になる患者さんに対し、口腔内装置（睡眠中の呼吸をしやすくするマウスピース）を作製します。なお、OSAHSの診断や口腔内装置の効果判定は紹介元医療機関あるいは当院内科クリニックで行います。

4．口腔筋機能療法（MFT）、フェイスニング

指しゃぶりや舌癖などの異常習癖に対するトレーニング（MFT)や、より魅力的な笑顔をつくるためのトレーニング（フェイスニング）を行います。

## 紹介医療機関の先生方へ

当科の診察は予約制で行っております。
患者さんの状態や治療内容によっては、診察時間を2時間以上必要とする場合もございます。
ご紹介いただきます患者さんには、初診時から予約をお取りいただきますようご案内下さい。
当科の予約はお電話にて受け付けております。
昭和大学歯科病院　地域歯科医療連携室　電話：03-5498-1954

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 嚥下造影検査（VF検査） | 143症例 | 顎補綴物・機能改善装置作製数 | 315症例 |
| 嚥下内視鏡検査（VE検査） | 98症例 | 訪問診療 | 239症例 |
| 構音障害診断・訓練症例 | 1618症例 | | |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 伊　原　良　明 | 准教授 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会専門医、摂食機能療法専門歯科医師<br>日本障害者歯科医学会認定医<br>日本口腔科学会認定医<br>日本口腔リハビリテーション学会暫定指導医 | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午後）<br>土（午前・午後） | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午前）<br>土（午前・午後） |
| 野　末　真　司 | 講　師 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会専門医、摂食絹雄療法専門歯科医師<br>日本障害者歯科医学会認定医 | 月（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） | 月（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 中　道　由　香 | 助　教 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会専門医<br>日本有病者歯科医学会専門医 | 火（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>土（午前・午後） | 月（午後）<br>火（午前・午後） |
| 田　下　雄　一 | 助　教 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本口腔外科学会認定医<br>日本老年歯科医学会認定医<br>日本口腔科学会認定医 | 木（午前・午後） | 木（午前・午後） |
| 武　井　良　子 | 言語聴覚士 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 | | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |
| 山　田　紘　子 | 言語聴覚士 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 | | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後） |

＊診療予定となっている曜日でも、講義等で対応できない場合もあります。

# 障がい者歯科



診療科長補佐　**馬目 瑶子**

診療科長代行　昭和大学病院長　**槇 宏太郎**

■卒業大学
岩手医科大学

■卒業年
平成25年卒

■所属している主要な学会
日本障害者歯科学会／日本小児歯科学会

## 診療体制

初診・再診ともに予約制としており、歯科医師８名、歯科衛生士２名で診察を担当しております。４台あるユニットは全て障害者専用で、さまざまな体位にて対応が可能であり、ユニットへの移動が困難な場合車いすやバギーのままでも対応できるようになっております。３台は開放型（パーテーションによる半個室可能）で１台は個室型となっております。全身麻酔下歯科治療は月曜日と木曜日に行っております。

## 特徴的な診療領域

知的能力障害、身体障害、精神障害だけでなく、歯科恐怖症や重度の認知症等、歯科診療に特別な配慮が必要とされる方々は障害の種類、程度、年齢等で受診の制限はなく、全て当科の対象としております。障害のある方が安全に歯科治療を受けられるよう個人の特性や障害の特徴に配慮し、ご家族や支援されている方々にとっても最も良いと考えられる診療を心がけております。外来診療においては各種の行動調整法（リラクセーション法、TEACCH法、カウント法など）を用いて対応しております。歯科への恐怖心が強い方、落ち着いていられない方、嘔吐反射の強い方などには静脈内鎮静法（静脈麻酔）を使用して歯科治療を行っております。また、全身麻酔による集中治療も行っており、個人の特性やご家族の負担等を考慮し、日帰りによる全身麻酔下歯科治療を基本としておりますので、環境の変化に対応の難しい方でも治療を受けることが可能となっております。日帰りの際には麻酔時間が限られますので、治療本数が多い場合などには複数回にわたることもございます。特別な配慮が必要な方にとってスムーズに診療が行えるよう、歯科麻酔科、医科歯科連携診療歯科、口腔機能管理科、顎顔面口腔外科など各専門診療科と密に連携をとっております。

## 紹介医療機関の先生方へ

障がい者歯科を受診される方々の特性に配慮し、お待ちいただくことなくご案内できるよう、初診、再診共に予約制としております。初診の際もご予約をお取りいただくようご案内いただきたく存じます。

## 2022年度主な症例・症例数（重複あり）

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 知的能力障害 | 4,611症例 | 自閉スペクトラム症 | 1,179症例 |
| 脳性麻痺 | 715症例 | ダウン症候群 | 699症例 |
| 四肢体幹障害 | 59症例 | 統合失調症 | 116症例 |
| 脳血管障害 | 55症例 | 筋ジストロフィー | 18症例 |
| 認知症 | 12症例 | | |
| | | | |
| 全身麻酔法 | 75症例 | 静脈麻酔法 | 66症例 |
| 静脈内鎮静法 | 70症例 | 経口投与鎮静法（前投薬） | 17症例 |
| 笑気吸入鎮静法 | 8症例 | | |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 嘉手納　未　季 | 講　師 | 日本障害者歯科学会　認定医<br>日本小児歯科学会　専門医 | 木・土 | 木・土 |
| 馬　目　瑶　子 | 助　教<br>診療科長補佐 | 日本障害者歯科学会　認定医 | 月・火・木・金・土 | 月・火・木・金・土 |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義等で対応できない場合もあります。

# 顎関節症治療科

診療科長　菅沼 岳史



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
昭和60年卒

■所属している主要な学会
日本補綴歯科学会／日本顎関節学会／口腔顔面痛学会

## 診療体制

常勤歯科医師３名、非常勤歯科医師３名の体制で、初診および再診は１～２名の歯科医師で診察を担当しております。初診は原則として当日に検査、診断、治療方針の決定を行いますので、診察時間が長くなります。主に顎関節症や歯ぎしりの診療を行いますが、咬み合わせの違和感および神経の障害による疼痛を有する患者など一般の歯科医院では診療困難な診療も行っています。担当医制ではありますが、診療スタッフ間で情報を共有し、緊急時には担当医ではなくとも対応できる体制をとっております。

## 特徴的な診療領域

当科では保存的かつ可逆的な医療を提供することを原則としております。従って、診療の初期段階で咬み合わせの調整ならびに外科的治療を選択することはなく、患者さん自身によるセルフケアが中心となります。また、心身医学的側面も顎関節症の発症との関連において重要と考えておりますので、精神神経科および心療内科との併診をお願いすることがあります。

1）習癖是正認知行動療法
顎関節症の原因として、睡眠時の「歯ぎしり」や覚醒時の「食いしばり」のような無意識下での顎の運動が注目を集めています。特に覚醒時の上下の歯の接触癖は、顎関節症患者さんの６割近くに認められることから、その是正は顎関節症の治療に必須の事項となってきています。この癖は、弱い咬む力でも長時間にわたり顎関節や咀嚼筋に負担を与えます。当科ではこの癖に関する研究から得られた成果を元に、「習癖是正認知行動療法」を積極的に患者さんに指導しています。

2）理学療法
顎関節症の疼痛のうち咀嚼筋痛に対しては、筋肉のコリをほぐすための筋マッサージ、ストレッチを目的とした開口訓練、血行改善を目的とした温冷庵法が有効です。また、顎関節の動きが悪くなっている方も下顎を十分に運動させる必要がありますので、開口訓練を指導することがあります。セルフケアとして「理学療法」を行ってもらうことで、治療期間の短縮という成果が得られております。

3）薬物療法
咀嚼筋や顎関節の疼痛に対して非ステロイド性消炎鎮痛薬やアセトアミノフェンを用いることがあります。神経の痛みや慢性疼痛には神経障害性疼痛治療薬、三環系抗うつ薬、弱オピオイドを用いることもありますが、これらの薬剤には副作用も伴いますので当科のような専門機関での応用をおすすめします。

4）スプリント療法
顎関節症や歯ぎしりに対して、加熱重合レジンによるハードタイプの口腔内装置（スプリント、マウスピース、ナイトガード）を用いることがあります。ソフトタイプのスプリントは食いしばり等の習癖が誘発されやすいため、患者さんが既にお使いの場合も使用の中断をお願いすることがあります。

5）トリガーポイント注射
強い咀嚼筋の痛みが認められる場合には、筋マッサージや開口訓練をしやすくするために、一般歯科医院では施行しにくいトリガーポイントへの局所麻酔薬の注射により疼痛軽減を図っております。

6）パンピングマニピュレーション
顎関節円板の位置がずれたことによる開口障害や顎の位置のずれが認められる場合には、初期の段階に限り、局所麻酔下で関節円板の引っ掛かりの解除を図ります。

## 紹介医療機関の先生方へ

- 必要に応じてCT検査およびMRI検査を行いますが、緊急の場合を除き予約制になっております。MRI検査は昭和大学病院（旗の台）に依頼しますので、検査の約１週間後に当科で画像の説明を行います。
- スプリントをお持ちの患者さんには、当科受診時に持参されますようお伝えください。
- 土曜日は多くの患者さんが来院されますため、通常よりも長くお待ちいただくことがあります。新患の方も予約を取得できますので、電話で診療時間帯などの確認をされることを患者さんにおすすめください。
- 昭和大学歯科病院は、高度な医療を行うと同時に、本学の学生、臨床研修歯科医師等の教育病院としての機能を併せ持っております。診療への参加・見学等にご理解とご協力をお願いいたします。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 顎関節症 | 725症例 | 習癖是正認知行動療法 | 709症例 |
| 歯ぎしり | 18症例 | 理学療法 | 640症例 |
| 咬合違和感症 | 8症例 | 薬物療法 | 100症例 |
| 顎関節脱臼 | 17症例 | スプリント療法 | 88症例 |
| 神経障害性疼痛 | 9症例 | トリガーポイント注射 | 2症例 |
| 舌痛症 | 2症例 | パンピングマニピュレーション | 10症例 |
| 咀嚼筋腱・腱膜過形成症 | 3症例 | スポーツマウスガード | 5症例 |
| 特発性下顎頭吸収（PCR） | 0症例 | | |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 菅　沼　岳　史 | 教　授<br>（診療科長） | 日本歯科補綴学会　専門医・指導医<br>日本顎関節学会　専門医 | 火（午後）<br>水（午前）<br>木（午前・午後）<br>土（午前・午後　シフト制） | 火（午後）<br>水（午前）<br>木（午前・午後）<br>土（午前・午後　シフト制） |
| 犬　井　知　美 | 助　教<br>（診療科長補佐） | | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後　シフト制） | 月（午前・午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後　シフト制） |
| 宮　本　佑　香 | 助教（歯科） | | 火（午前・午後）<br>水（午前・午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後　シフト制） | 火（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午前・午後）<br>金（午前・午後）<br>土（午前・午後　シフト制） |
| 渡　邊　友　希 | 兼任講師 | 日本顎関節学会認定　歯科顎関節症専門医<br>日本口腔顔面痛学会　口腔顔面痛専門医<br>日本慢性疼痛学会認定　専門歯科医<br>ドライマウス研究会　認定医 | 月（午前・午後　予約制） | 月（午前・午後） |
| 内　藤　貴美子 | 兼任講師 | | 水（午前　予約制） | 水（午前） |
| 佐　藤　多美代 | 兼任講師 | 日本口腔顔面痛学会　口腔顔面痛認定医<br>日本スポーツ歯科医学会認定　マウスガードテクニカルインストラクター | 月（午前・午後　予約制）<br>火（午前　予約制）<br>金（午前・午後　予約制） | 月（午前・午後）<br>火（午前）<br>金（午前・午後） |

＊診療予定となっている曜日でも、講義等で対応できない場合もあります。

# インプラント歯科（インプラントセンター）



診療科長（センター長）　宗像 源博

■卒業大学
東京医科歯科大学

■卒業年
平成11年卒

■所属している主要な学会
日本口腔インプラント学会
日本顎顔面インプラント学会
日本歯周病学会／日本骨粗鬆症学会

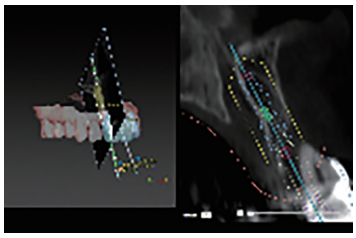
## 診療体制

インプラント歯科は診療科長の宗像源博以下15名の常勤スタッフで、患者さんの治療にあたらせていただいております。当科ではインプラント治療は言うまでもなく、インプラントが必要な部分以外にも、むし歯や歯周病の治療などの治療も他診療科と連携を取りながら、お口の中全体の治療を行っています。
かかりつけの歯科医院では対応が困難な症例（例えば骨幅が細い、大きな骨の移植が必要、インプラント部分の炎症・インプラント治療を行ったクリニックに通院できなくなってしまったなどのトラブル）であっても、患者さんの問題が解決できるように可能な限り対応させていただきます。

## 特徴的な診療領域

**①安全・安心なインプラント治療**

当院では、年間1,000本を超えるインプラント埋入手術の全てについて、５名の日本口腔インプラント学会口腔インプラント指導医を含めたインプラントセンター所属歯科医師全員が参加するカンファランスでの検討を行った上で治療方針を検討しております。全症例においてコンピュータシミュレーションを行い、安全で安心な手術を実施しています。
さらに、埋入手術は、院内で最も清潔な環境である中央手術室にて、静脈麻酔下での無痛的インプラント埋入手術を行っております。
また、必要に応じて、デジタル技術を応用したガイドサージェリーを併用して、より安全で確実なインプラント治療を行っています。



**②高度なインプラント治療**

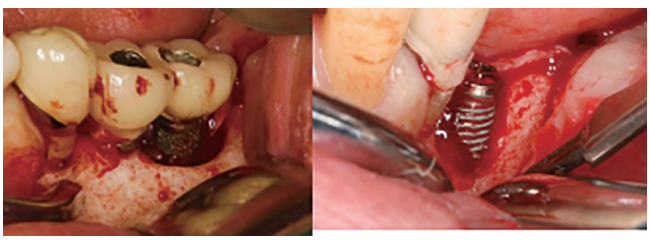
当院では、通法では治療困難な骨量の少ない症例に対しては骨造成を併用したインプラント治療を行っています。また、審美的な問題から必要が生じる骨造成や軟組織造成についても対応が可能です。
上顎臼歯部では、内視鏡を利用した安全なサイナスリフトや、骨移植材料を用いないサイナスリフトも行っております。全ての症例について、手術侵襲を最小限に抑えた医療を心がけています。
さらに、インプラント埋入と同日に歯の回復をおこなう、ALL on 4（オールオンフォー）や即時修復・即時荷重を実施しております。（トピックスP.20-21もご参照下さい。）





**③インプラントトラブルのリカバリー治療**

近年、インプラント治療が普及していく中で、他院で行われたインプラント治療について、インプラント周囲炎などトラブルが発生した場合のリカバリーが大きな課題となっています。当院では、インプラント周囲炎、補綴装置の修理、インプラント体や補綴用スクリューの破折、上顎洞への迷入等さまざまなインプラントにまつわるトラブルに関しても積極的に対応しております。



④広範囲顎骨支持型装置および広範囲顎骨支持型補綴（保険適用でのインプラント治療）

2012年より『「広範囲顎骨支持型装置」および「広範囲顎骨支持型補綴」』（インプラント治療の保険適用下での名称）として保険導入されています。当院は本治療の実施施設です。保険適用条件は以下のように限定されており、残念ながら全ての患者さんに適用はできませんが、初診時にご相談ください。

[保険適用条件（2023年５月現在）]

従来のブリッジや可撤性義歯（顎堤形成後の可撤性義歯を含む）では咀嚼機能の回復が困難なものが対象。

**適応①**：腫瘍、顎骨骨髄炎、外傷等により、広範囲な顎骨欠損若しくは歯槽骨欠損症例（歯周疾患及び加齢による骨吸収は除く）又はこれらが骨移植等により再建された症例。

＜適応される欠損範囲＞

上顎：連続した４歯相当以上の顎骨欠損症例､又は上顎洞または鼻腔への交通が認められる顎骨欠損症例。

下顎：連続した４歯相当以上の歯槽骨欠損、又は下顎区域切除以上の顎骨欠損症例。

**適応②**：外胚葉異形成症等又は唇顎口蓋裂等の先天性疾患であり、顎堤形成不全であること。

**適応③**：外胚葉異形成症等の先天性疾患であり、連続した３分の１顎程度以上の多数歯欠損であること。

**適応④**：６歯以上の先天性部分無歯症又は前歯及び小臼歯の永久歯のうち３歯以上の萌出不全（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る。）であり、連続した３分の１顎程度以上の多数歯欠損（歯科矯正後の状態を含む。）であること。

## 紹介医療機関の先生方へ

昭和大学歯科病院インプラント歯科では、月～土曜日まで毎日予約制でインプラントに関するご相談をお受けしております。ご予約は、インプラント歯科予約受付 03-5498-1903よりお取りください。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| インプラント埋入手術 | 775症例 | インプラント周囲炎治療 | 45症例 |
| （インプラント埋入本数） | （1262本） | サイナスリフト | 143 症例 |
| All-on- 4・即時荷重 | 40症例 | インプラントトラブルリカバリー | 40症例 |
| GBR（骨移植） | 321症例 | 広範囲顎骨支持型装置埋入手術 | 14症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診・再診） |
|---|---|---|---|
| 宗　像　源　博 | 准教授<br>（診療科長/センター長） | 日本口腔インプラント学会　専門医・指導医<br>日本顎顔面インプラント学会　専門医・指導医 | 金曜以外 |
| 佐　藤　大　輔 | 講　師<br>（診療科長補佐） | 日本口腔インプラント学会　専門医・指導医<br>日本補綴歯科学会　専門医・指導医<br>インフェクションコントロールドクター | 木曜以外 |
| 石　浦　雄　一 | 講　師 | 日本口腔インプラント学会　専門医・指導医<br>日本補綴歯科学会　専門医・指導医<br>日本歯科審美学会　認定医 | 火曜以外 |
| 山　口　菊　江 | 助　教 | 日本口腔インプラント学会　専門医・指導医 | 金曜以外 |
| 林　　泰　生 | 助　教 | 日本口腔インプラント学会　専修医 | 火曜以外 |
| 酒　井　隆太郎 | 助　教 | | 水曜以外 |
| 阿　部　　誉 | 助　教 | | 木曜以外 |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義等で対応できない場合もあります。

# 歯科麻酔科

診療科長　増田 陸雄



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
平成11年卒

■所属している主要な学会
日本歯科麻酔学会

## 診療体制

歯科麻酔科では、手術や歯科治療における全身麻酔や静脈内鎮静（静脈麻酔）を担当します。日本歯科麻酔学会認定の指導医、専門医、認定医を中心に日々の臨床にあたり、昨年度の管理症例件数は3,000件以上でした。また麻酔業務だけでなく、全身疾患をもつ患者さんの術前診察を行い、病状の把握や歯科治療における危険性を診断することで、患者さんが安全に治療を受けられるためのお手伝いもしています。

## 特徴的な診療領域

静脈内鎮静（静脈麻酔）とは、鎮静薬を静脈内に注射することにより、患者さんを鎮静し歯科治療中に感じる不安や緊張をやわらげてリラックスした状態で治療を受けていただく方法です。実際には、抜歯やインプラント埋入などの侵襲が大きな処置のときや、歯科治療恐怖症、嘔吐反射が強い患者さんに対して行っています。特にインプラントの手術は滅菌操作のため全て手術室で行い、静脈麻酔を併用した全身管理を行っています。静脈麻酔は基本的に手術終了後すぐに帰宅可能ですが、インプラント手術を受ける患者さんはご高齢の方も多く、以前から帰宅時のふらつきが問題視されていました。当院では、静脈麻酔を併用してインプラント手術を受ける患者さんはすべて日帰り入院として病棟での安全な回復時間を確保しています。
局所麻酔や静脈内鎮静ではできない手術、例えば歯肉に深く埋まった親知らずの抜歯や顎顔面骨骨折、腫瘍の手術などの時には全身麻酔を行います。全身麻酔の場合は基本的に入院していただきますが、症例により日帰りでの全身麻酔も可能です。障がいをお持ちの患者さんの全身麻酔下歯科治療症例では、ご家族の負担を軽減し患者さんの生活環境の変化を少なくするため、当日のみ入院したり日帰りで処置が行えるようにしたり患者さんごとに対応しています。

## 紹介医療機関の先生方へ

歯科麻酔科は、専門の麻酔研修を受けた歯科麻酔科医が多数勤務し、歯科外来や手術室で多くの患者さんが安全で快適な歯科治療が受けられるように麻酔の技術を使って取り組んでいます。また、さまざまな全身疾患をもった患者さんにとって、より良い治療や麻酔方法を治療担当医とともに考える診療科でもあります。さらに2020年度から局所麻酔薬にアレルギーが疑われる患者さんに対して、血液検査でのアレルギー検査が当院でも実施できるようになりました。これまで局所麻酔薬のアレルギー検査は検査そのものがアナフィラキシーなどの重篤なアレルギーを誘発する可能性があることから安全な検査の実施が困難でした。当院で実施している「好塩基球活性化試験」は、患者さん自身に被疑薬を直接投与することなく採血検査で実施できるアレルギー検査です。局所麻酔薬にアレルギーが疑われる患者さんへの対応でお困りの場合は、歯科麻酔科までご相談ください。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 全身麻酔（手術室） | 1,228 症例 | 外来での麻酔科管理件数 | 1,602 症例 |
| 静脈麻酔（手術室） | 753 症例 | | |

外来での麻酔科管理件数には静脈内鎮静（静脈麻酔）、笑気吸入鎮静およびモニタリングを含みます。

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 増　田　陸　雄 | 教　授 | 日本歯科麻酔学会　歯科麻酔科指導医 | 月 | 月 |
| 西　村　晶　子 | 講　師 | 日本歯科麻酔学会　歯科麻酔科専門医 | 木 | 木 |
| 立　川　哲　史 | 助　教 | 日本歯科麻酔学会　歯科麻酔科専門医 | 火 | 火 |
| 西　田　梨　恵 | 助　教 | 日本歯科麻酔学会　歯科麻酔科専門医 | 水 | 水 |
| 武　田　　恵 | 助　教 | 日本歯科麻酔学会　歯科麻酔科専門医 | － | － |
| 梶　原　里　紗 | 助　教 | 日本歯科麻酔学会　歯科麻酔科専門医 | 金 | 金 |

＊診療予定となっている曜日でも、手術や講義等で対応できない場合もあります。

# 歯科放射線科

診療科長　松田 幸子



■卒業大学
東京歯科大学

■卒業年
平成２年卒

■所属している主要な学会
日本歯科放射線学会／日本歯科保存学会／日本歯周病学会

## 診療体制

歯科放射線科は、放射線技術室と協同して歯科病院内各診療科および地域の歯科医院からの画像検査の依頼に対応しています。各診療科および各歯科医院からの依頼に応じた画像検査を実施し、必要に応じて歯科放射線専門医を中心に適切な画像診断報告書の作成を行っています。

## 特徴的な診療領域

当科での診療放射線技師と共同で画像検査を行い、できるだけ低被曝で有効な画像検査ならびに診断が行えるよう日々検討を重ねています。現在歯科病院にて実施している画像検査は、お口の中に小さなフィルムを入れて撮影する口内法X線検査、顎全体が一度に観察できるパノラマX線検査、矯正治療などでよく利用する頭部X線規格撮影（セファロ）などの一般X線撮影に加えて、医科用CT検査、歯科用コーンビームCT検査、超音波検査などの特殊検査を行っています。いずれもデジタル化しており、フィルムレスで検査を行っております。保険診療で認められている顕微鏡と歯科用三次元断層装置を用いた歯内治療のうち、歯科用三次元断層装置（歯科用コーンビームCT）による撮影の部分も担当しています。この内、口内法以外の検査は撮影後、必要なものに関しては歯科放射線専門医を中心に画像診断報告書を作成し、検査結果を有効に利用していただく手助けをしています。

また、地域の各医療機関からの頭部X線規格撮影（セファロ）などの一般X線撮影や医科用CTおよび歯科用コーンビームCTなどの画像検査もお引き受けしています。特にインプラントの術前検査、難治性根尖性歯周炎や歯根破折の確認では三次元的な画像検査が有効で、CT検査で得ることができます。当科には、医科用CT１台と歯科用コーンビームCT（モリタ社製3DA、KaVo社製3DeXam）２台を有し、顎顔面領域の疾患の画像検査に迅速に対応しています。このうち地域の医療機関からは医科用CTと歯科用コーンビームCT（モリタ社製3DA）の検査をお引き受けしております。これらの医科用CTおよび歯科用コーンビームCTの検査結果は、画像データに加えて歯科放射線専門医が画像検査報告書を作成しご報告しています。

## 紹介医療機関の先生方へ

医科用CTおよび歯科用コーンビームCT（モリタ社製3DA）は予約制になっています。予約なしで患者さんが来院されますとそこで予約を取って再度来院していただく必要が生じます。必ず担当の先生から電話で検査予約を取ってください。なお、頭部Ｘ線規格撮影法（セファロ）など一般X線検査は予約不要ですので、初診受付時間内にお越しください。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 |
|---|---|
| 口内法Ｘ線検査 | 25,573症例 |
| 顎関節４分割パノラマＸ線検査 | 30症例 |
| 一般口外法X線検査（頭部、胸腹部） | 1,560症例 |
| 歯科用コーンビームCT（3DAおよびKaVo 3D eXam） | 4,955症例 |
| パノラマX線検査 | 16,442症例 |
| 頭部X線規格撮影法 | 856症例 |
| 医科用CT | 883症例 |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） |
|---|---|---|
| 松　田　幸　子 | 教　授 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医・指導医 |
| 黒　田　　沙 | 助　教 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医 |
| 小清水　有里子 | 助　教 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医 |
| 荒　木　和　之 | 特任教授 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医・指導医 |
| 花　澤　智　美 | 兼任講師 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医・指導医 |
| 原　瀬　裕　一 | 兼任講師 | |

# 臨床病理診断科

診療科長　美島 健二



■卒業大学
徳島大学

■卒業年
平成３年卒

■所属している主要な学会
日本病理学会／日本臨床口腔病理学会
日本再生医療学会／日本癌学会／日本分子生物学会

## 診療体制

臨床病理診断科は、診療科長を美島健二（口腔病態診断科学講座口腔病理学部門・教授と併任）が務め、当科専任スタッフに加えて歯学部口腔病態診断科学講座・口腔病理学部門のスタッフが兼任となる協力体制を構築し診断業務に従事しています。当診療科スタッフの歯科医師は口腔病理専門医を有し、専門の技術と知識を備えています。加えて細胞診歯科専門医は安原、行森が有しています。また、分子病理専門医は美島、安原、行森、石田が有しています。
臨床病理診断科では歯科病院に加えて頭頸部腫瘍センター（昭和大学病院）における病理診断にも従事し、その業務の内訳は病理組織・細胞診、術中迅速病理診断および病理解剖です。他院で診断された症例に対しても客観的に評価し説明させていただく、いわゆる“セカンドオピニオン”の相談にも対応しております。
病理診断は疾患の確定診断であり、疾患の予後の予測や治療法の選択などにかかわる極めて重要な情報を含んでいます。この点に留意し当科では各診療科と十分に連携をとり、つねに質の高い医療を患者さんに提供すべく診断業務に従事しています。また、医学部臨床病理診断学講座との十分な連携のもと、診断の精度向上を図っています。

## 特徴的な診療領域

当科の業務には病理組織診断、細胞診、術中迅速病理診断、病理解剖があります。
病理組織診断は病気・病変の確定診断であり、その結果は治療法の選択、予後の予測にも関連し、患者さんの健康・生命等に直接関与します。そのため各診療科と連携のもと質の高い医療を患者さんに提供する業務です。
細胞診は、粘膜から擦過細胞、唾液腺腫瘍からの穿刺細胞などを直接プレパラートに塗沫し染色後、細胞や核の形態、染色性などから診断を行っています。近年、口腔細胞診の件数が増加し、一般に普及しつつある傾向です。術中迅速病理診断は術中に組織の一部を採取し、十分に病変が取り切れているかの確認や術前臨床検査で把握し難かった病変の広がりなどを速やかに診断しています。
一般の治療行為と比べて、患者さんと直接接することはありませんが、患者さんから採取された組織から診断を行うことは治療行為にきわめて近く､確定診断を伝えることは治療方針を決定する一助となっています。また病理診断はダブルチェックやトリプルチェックを行って精度管理を行っています。
近年では疾患に関する分子病理学的検査の進歩も著しく、当科では免疫染色、遺伝子診断、タンパク質解析など分子病理学的な検索にも対応できる体制を整えています。病理診断の向上、および病理学的な病態解明を中心とした研究活動にも積極的に取り組んでいます。

## 紹介医療機関の先生方へ

臨床病理診断科は診療科長を美島健二（口腔病態診断科学講座口腔病理学部門教授と併任）が務め、診療科長補佐の安原理佳講師・専任スタッフの石田尚子助教に加えて口腔病態診断科学講座口腔病理学部門のスタッフが兼任となり診療体制を構築し、ダブルチェック・トリプルチェックを行い病理診断の精度管理に努めています。
当科では歯科病院に加えて頭頸部腫瘍センター（昭和大学病院）における病理診断にも従事しています。病理診断は疾患の確定診断であり、疾患の予後の予測や治療法の選択などにかかわる極めて重要な情報を含ん

でいます。この点に留意し当科では各診療科と十分に連携をとり、つねに質の高い医療を患者さんに提供すべく診断業務に従事しています。また、医学部臨床病理診断科学講座との十分な連携のもと、診断の精度向上を図っています。

## 2022年度主な症例・症例数

| 症　例 | 症例数 | 症　例 | 症例数 |
|---|---|---|---|
| 粘膜・軟部組織病変／悪性腫瘍 | 23症例 | 顎骨内病変／その他 | 88症例 |
| 粘膜・軟部組織病変／良性腫瘍 | 38症例 | 唾液腺腫瘍／悪性・良性 | 4症例 |
| 粘膜・軟部組織病変／その他 | 86症例 | 唾液腺病変／腫瘍以外 | 18症例 |
| 顎骨内病変／歯原性腫瘍 | 30症例 | 術中迅速病理診断 | 12症例 |
| 顎骨内病変／非歯原性腫瘍 | 0症例 | 細胞診 | 230症例 |
| 顎骨内病変／嚢胞性病変 | 194症例 | | |

## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） |
|---|---|---|
| 美　島　健　二 | 教　授<br>（診療科長） | 日本口腔病理専門医・指導医<br>死体解剖資格<br>分子病理専門医 |
| 安　原　理　佳 | 講　師<br>（診療科長補佐） | 日本口腔病理専門医・指導医<br>細胞診歯科専門医・指導医<br>死体解剖資格<br>分子病理専門医 |
| 田　中　準　一 | 講　師 | 日本口腔病理専門医<br>死体解剖資格 |
| 石　田　尚　子 | 助　教（専任） | 日本口腔病理専門医<br>死体解剖資格<br>分子病理専門医 |
| 行　森　　茜 | 助　教 | 日本口腔病理専門医<br>細胞診歯科専門医<br>死体解剖資格<br>分子病理専門医 |

## トピックスについて

唾液腺は口腔内に唾液を分泌する組織です。唾液は消化作用、抗菌作用および口腔粘膜の保護作用などを有し、口腔内環境の維持に重要な役割を果たしています。近年、唾液分泌低下による口腔乾燥症患者の増加が指摘され、症状の重篤な場合には、著しいQOL（Quality Of Life）の低下をもたらすことが懸念されています。

当科ではヒトiPS細胞から誘導した口腔粘膜上皮から唾液腺の分化過程を段階的に再現し、三次元的な唾液腺器官の再生に成功しました。今回、iPS細胞から誘導した唾液腺原基（唾液腺オルガノイド）は、形態学的な特徴や遺伝子発現解析からもヒト胎生期の唾液腺原基に類似していました。また、大唾液腺の１つである耳下腺を摘出した免疫不全マウスに、唾液腺オルガノイドを同所性移植することにより、誘導唾液腺の導管と残存唾液腺の導管が接続することが確認されました。

今回得られた唾液腺オルガノイドは、唾液腺発生メカニズムの解析はもとより、唾液分泌障害に対する再生医療や唾液腺疾患解析、創薬スクリーニングの有用なツールとなることが期待されます。

# 内科クリニック

診療科長　木庭 新治



■卒業大学
昭和大学

■卒業年
昭和63年卒

■所属している主要な学会
日本内科学会／日本循環器学会／日本老年医学会
日本心臓リハビリテーション学会／日本動脈硬化学会／日本心臓病学会
日本心不全学会／日本血管不全学会／日本高血圧学会
日本腎臓リハビリテーション学会／日本臨床運動療法学会
和温療法学会／国際心血管薬物療法学会日本部会
日本糖尿病学会／日本臨床生理学会

## 診療体制

昭和大学歯科病院に併設された医科領域の診療科として広範囲な疾病に対応しています。診療対象は原則として就学児童から後期高齢者までとさせていただいています。

## 治療方針

さまざまな重複疾患を有する患者さんが安心して歯科治療ができるように診療しています。昭和大学病院と連携し、種々の検査を行っています。高齢者に対しては、口腔機能管理科と連携し、口腔および身体機能を包括的に診療しています。状況に応じて昭和大学病院や他の医療機関を紹介することも適宜考慮しています。

## 診療内容・診療領域

木庭診療科長は循環器疾患を中心に、高血圧、脂質異常症、糖尿病、動脈硬化性心血管疾患、老年症候群を含む全身疾患を、安藤講師は呼吸器・アレルギー疾患を主な診療対象に、禁煙外来や呼吸機能検査を実施して病態に合わせた治療を行います。木庭診療科長、安藤講師ともに、睡眠時無呼吸症候群（SAS）の診断と治療（CPAP療法など）、慢性心不全・呼吸不全例に対する在宅酸素療法(HOT)を行います。また、井上、橘各客員教授は循環器疾患を中心に、診療を担当します。

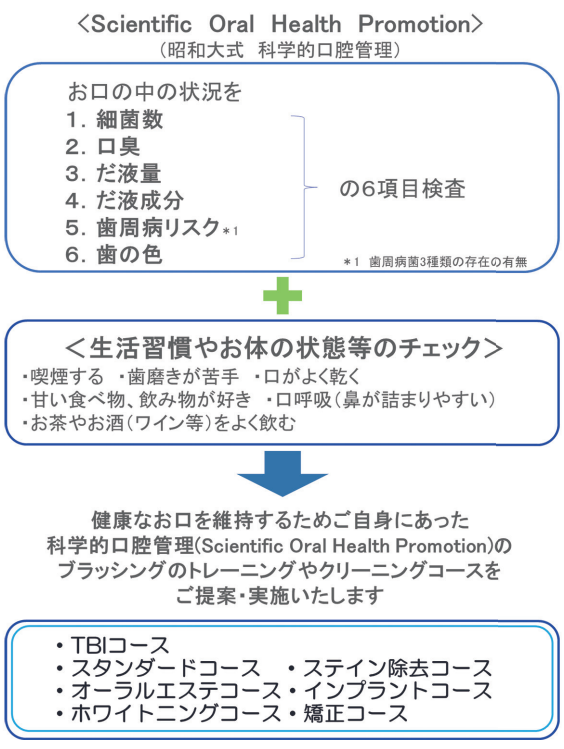
## スタッフ（教授・准教授・講師・助教）

| 歯科医師名 | 役職 | 資格（専門医・認定医・指導医） | 外来診療日（初診） | 外来診療日（再診） |
|---|---|---|---|---|
| 木　庭　新　治 | 教　授 | 日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医<br>日本循環器学会認定循環器専門医<br>日本老年医学会認定老年科専門医・指導医<br>日本動脈硬化学会認定動脈硬化専門医・指導医<br>日本心臓リハビリテーション学会認定医<br>日本腎臓リハビリテーション学会認定指導士<br>難病指定医・身体障害者診断指定医（心臓機能障害の診断）<br>日本医師会認定産業医・健康スポーツ医 | 月（午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前） | 月（午後）<br>火（午前・午後）<br>水（午前）<br>木（午前） |
| 安　藤　浩　一 | 講　師 | 日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医<br>日本呼吸器学会専門医・指導医<br>日本アレルギー学会専門医・指導医<br>難病指定医・身体障害者福祉法指定医・産業医<br>日本呼吸器内視鏡学会専門医<br>がん治療認定医<br>インフェクションコントロールドクター（ICD） | 月（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午後）<br>金（午前・午後） | 火（午前・午後）<br>水（午後）<br>木（午後）<br>金（午前・午後） |

＊講義などの際は不在の時もあります。

# お口の健康センター

お口の健康センターは、「口元からより美しく、健康に！」をスローガンに、口腔内の健康維持・増進を目的とした“SOHP（Scientific Oral Health Promotion）”を行っています。SOHPは、科学的根拠に基づいた口腔内におけるリスク検査をもとにトレーニングメニュー（TBI）またはクリーニングコースの中から患者さんに合ったプランを提供するプログラムです。（図）
口腔の健康を守るための方法は、これまでの「歯科疾患を予防する」から「口腔内環境を管理する」ことへと変わりつつあります。口腔内環境は各個人によって大きく異なり、さまざまな要因が絡み合い時間と共に変化しています。
そこで、口腔内環境の検査結果を数値化して、個人にあった“口腔の管理”を行うことが重要になります。
当センターは、歯科医師による口腔内の診査後に、担当の歯科衛生士が施術します。
受診の流れとしては、むし歯や歯周病などの歯科治療が終了した患者さんに対し、現在の健康な状態を維持・増進していくための 口腔管理の方法や費用、時間等について、歯科医師または歯科衛生士から説明し、当センターの予約をお取りしています。（保険外診療となります）
各診療科にて予約を承っていますので、お気軽にご相談ください。
※2022年度受診患者数：延べ3,026人




【ステイン除去コースの様子】






【SOHP検査の様子】

# 歯科ドック

## 1．受診方法について

歯科ドックは、月曜日と火曜日の午前中を健診日としており、所要時間は、基本メニューでおよそ２時間程度です。また、健診結果のご報告は、健診２週間後を予定しています。
お申し込みに関しましては、４階歯科ドック受付（美容歯科併設）、もしくは１階総合受付に書類（申込書含む）がございますのでスタッフへお申し付けください。詳しくは、歯科医師、歯科衛生士へお尋ねいただければご案内いたします。

## 2．特徴

2002年９月から開設された「歯科ドック」では、さまざまな健診項目があります。基本の検査項目として、齲蝕･歯周病の有無、唾液･口臭検査、咬合状態、咬合力、開口量測定、舌口腔粘膜の診査、X線検査があり、他にも歯の汚れの状態やお手入れ方法などのアドバイスもしています。その他、ブラキシズム・歯並び・いびき（睡眠時無呼吸症候群を含む）・発音などについても相談を受けています。オプションで歯の色の検査なども追加できます。
当院の歯科ドックの特徴としては、各専門分野の歯科医師および歯科衛生士が健診を担当しており、各種検査については、特殊な機器を用いて化学的に判定をしています。健診終了後は全ての検査結果を総合的にみて、検診結果の説明とアドバイスを行なっています。
歯科ドックは、お口の健康状態を観察することを目的としており、受診対象者は、ご自分で健康と思っている方 、あるいは、治療が終了し健康な状態を維持・増進したいと考えている方です。
なお、歯科ドックでは、健康相談・健康指導は行っておりますが、応急処置も含めて治療は行っておりません。治療が必要と判断された場合は、院内の他診療科への紹介など受診の相談も可能です。

### 歯科ドックの流れ

1.お申し込み

4階 歯科ドック受付、1階 総合受付に申込書がございます。
申込用紙に必要事項をご記入の上、受付にお出しになるか郵送してください。
健診は完全予約制です。

2.健康診断　当日

健診基本メニューはおよそ2時間～2時間半程度かかります。

3.健康診断　結果報告

後日（約2週間後）に来院していただき、歯科医師から健診結果のご説明および相談をお受けします。

### 健診項目

<メニューA：基本的な健診>
1. むし歯（う蝕の有無と進行程度、かかりやすさ）
2. 唾液（唾液量、pH、細菌数）
3. 潜血反応（歯周病や粘膜からの出血の有無の判定）
4. 歯周病（歯周病の有無）
5. 口臭（う蝕や歯周病、清掃状態にも関係）
6. 舌・口腔粘膜（粘膜の状態）
7. 噛み合わせ状態・噛む力（左右の均等性の判定も含む）
8. 開口料測定
9. エックス線検査（パノラマエックス線写真）
10. 口腔内カラー写真撮影
11. お口の汚れ程度
（汚れの評価、清掃用具の選択、お口のお手入れ法）

（相談項目）
1. ブラキシズム（歯ぎしりや強く食いしばる癖）
2. 歯並び（歯並びが気になる、治したい）
3. いびき
4. 発音
5. 飲食物の飲みこみ困難など
6. 子どもの歯（生えない、むし歯、歯並び、歯肉の病気）
7. 金属アレルギー（お口の中の症状でお困りの方）
8. インプラントの適応
9. スポーツ用マウスピース

<メニューB：オプション>
1. 歯の色の検査（歯の色が気になる）
2. 細菌検査（PCR法：むし歯、歯周病）

<メニューC：オプションによる予防実践項目>
口腔の予防コース：健診で健康と評価された方で、
その健康状態を維持するためのコースです。
歯磨き指導、PMTC、入れ歯の清掃指導、
フッ素の応用

# 歯科衛生室

## 特　色

歯科衛生室には35名の歯科衛生士が在職しております。昭和大学の建学の理念である『至誠一貫』の精神を基盤に、患者の立場に立った医療の実践、予防と術後の管理を重視した医療の推進、安全かつ質の高い医療の提供、社会に求められる医療人の育成など歯科病院の基本方針に則り、日々歯科衛生士業務に当たっています。また、昭和大学の特色である、多職種連携にも力をいれ、院内活動や高齢者施設訪問歯科衛生指導、地域在宅高齢者等訪問相談事業など、患者さんのお口の健康の維持・増進のためのサポートを行っています。
院内での主な業務は、診療補助業務、歯科保健指導、歯科予防処置、管理業務、環境整備、学生教育など多岐にわたっています。歯科衛生実地指導、周術期等口腔機能管理、口腔筋機能療法（MFT）、摂食機能療法、ホワイトニング施術など、歯科保健指導や歯科予防処置のあらゆる分野の指導を行っています。より高度で専門性を求められる業務においては、各種認定歯科衛生士が担当しています。

## 教育プログラム

当院歯科衛生士の知識・技術の均一化と業務に関する基礎教育を目的として、歯科衛生士の業務範囲の中で必須と思われるプログラム内容となっています。専門性の高い環境での多岐にわたる業務の場が広がっている昨今、技術・知識や人間力が優れている人材を育成するために、各学会の認定取得だけではなく、当院歯科衛生室独自の教育プログラムを確立し実施しています。内容は、新入職員教育プログラム、感染管理、医療安全管理、口腔衛生管理、口腔筋機能療法(MFT)、審美歯科、有病者歯科、救急蘇生・AED演習などがあり、伝達講習を行っています。実際の業務に関わる者や認定取得者が主体的に教育内容等を立案し、アットホームな環境の中で、各自の自主性を尊重しながら研鑽を積んでいます。また毎年、個人目標の設定や臨床実践能力評価、職務評価、社会人基礎力評価も行い、個人のキャリアアップも支援しています。


〈口腔衛生管理実習の様子〉


〈歯周病症例検討会の様子〉




〈救急蘇生講習会の様子〉

## スタッフ認定士一覧

### 取得者がいる認定および資格

・治験コーディネーター　・介護支援専門員　・日本歯周病学会認定歯科衛生士
・日本小児歯科学会認定歯科衛生士　・日本老年歯科医学会認定歯科衛生士　・日本障害者歯科学会認定歯科衛生士
・日本歯科保存学会認定歯科衛生士　・日本歯科審美学会認定士
・日本口腔感染症学会院内感染予防対策認定歯科衛生士　・日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士
・日本口腔リハビリテーション学会認定歯科衛生士　・日本有病者歯科医療学会認定歯科衛生士
・ジャパンオーラルヘルス学会予防歯科認定歯科衛生士　・日本スポーツ歯科学会認定スポーツデンタルハイジニスト
・日本歯科衛生士会認定歯科衛生士　認定分野A＜在宅療法指導・口腔機能管理＞
・日本歯科衛生士会認定歯科衛生士　認定分野A＜摂食嚥下リハビリテーション＞
・日本歯科衛生士会認定歯科衛生士　認定分野A＜医科歯科連携・口腔機能管理＞
・日本歯科審美学会ホワイトニングコーディネーター　・ジャパンオーラルヘルス学会ドックコーディネーター
・健康咀嚼指導士

## 2022年度主な活動（診療科と連携を取って行っている業務）

### 歯科保健指導

※2022年度歯科衛生実地指導件数　計11,539件

| | | | |
|---|---|---|---|
| 矯正歯科 | 58件 | 歯周病科 | 745件 |
| 歯内治療科 | 54件 | 美容歯科 | 365件 |
| 小児歯科 | 4,246件 | 補綴歯科 | 735件 |
| 高齢者歯科 | 401件 | インプラント歯科 | 53件 |
| 顎関節症治療科 | 39件 | 医科歯科連携診療歯科 | 325件 |
| 口腔機能リハビリテーション科 | 802件 | 顎顔面口腔外科・口腔腫瘍外科 | 164件 |
| 障がい者歯科 | 3,552件 | | |

### 周術期等口腔機能管理（入院術前術後の口腔衛生管理）

入院下（日帰り除く）で手術予定の患者に対して、術後感染予防を目的に術前･術後に歯科衛生士が口腔衛生管理を行います。頭頚部腫瘍などの器質的欠損や口腔機能低下を伴う患者には術後の退院支援を含めた口腔衛生指導も行い、患者のQOLの向上に寄与できるように努めています。

※顎顔面口腔外科、口腔腫瘍外科（頭頚部腫瘍センター）、医科歯科連携診療歯科、矯正歯科、看護部と連携しています

※2022年度実施件数　術前：864件　術後：124件

### 摂食機能療法

食べることに障害のある方に対して、歯科医師の指示のもと、口腔衛生管理や摂食嚥下訓練を実施しています。誤嚥性肺炎を予防し、口腔の機能を最大限活用できるよう、機能の獲得や維持・回復を図り、安全に楽しく食事ができるようサポートしています。実際の摂食風景を観察しながら、患者ごとに口腔清掃方法や訓練内容を選択し指導しています。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、日本口腔リハビリテーション学会認定歯科衛生士、日本障害者歯科学会認定歯科衛生士を取得している歯科衛生士が業務にあたります。

※小児歯科、障がい者歯科、口腔機能リハビリテーション科と連携しています

### 口腔筋機能療法（MFT）

矯正治療における舌癖改善・矯正治療後の後戻り防止、指しゃぶりや舌癖など悪習癖の改善を目的とし、MFTを実施しています。指導は、患者の癖の状態や年齢、理解度に合わせ個別にプログラムしていきます。Dr.Julie Zickefooseの講習会受講済み、日本口腔筋機能療法（MFT）学会会員の歯科衛生士が業務にあたります。

※矯正歯科、口腔機能リハビリテーション科と連携しています

※2022年度実施件数　961件

SOHP（Scientific　Oral　Health　Promotion：昭和大式科学的口腔管理）

「口元からより美しく、健康に！」をコンセプトに予防業務を確立し、科学的根拠に基づいた口腔健康管理を行います。基本的な内容としては「口臭測定・唾液検査・細菌数測定・歯周病リスク判定・唾液量測定・色調測定」などの検査を行い、その結果から個人に合ったプロフェッショナルケアを実施しています。定期的に行っていくことで、ご自身の適切な口腔管理の継続が可能となります。

※お口の健康センターでは、歯科衛生士が主体となり各診療科と連携しています

※2022年度お口の健康センター受診患者数　延べ3,026人

### ホワイトニング

ホワイトニング前後のカウンセリング・測色・口腔内写真撮影などを行い客観的なデータを用いながら患者に合った方法を提案しホームホワイトニング・オフィスホワイトニングを行います。日本歯科審美学会認定士または日本歯科審美学会ホワイトニングコーディネーターを取得している歯科衛生士が業務にあたります。

※美容歯科と連携しています

※2022年度受診患者数　延べ586人

### CAMBRA™（リスク評価に基づく齲蝕管理）

「カリエスリスクマネジメントをしながら健康な歯並びにする」をコンセプトに、齲蝕の予防に特化した予防管理プログラムを実施しています。矯正治療中は、装置装着により口腔内環境が複雑になることから齲蝕罹患リスクが高くなります。そのため、当院矯正歯科では、初診時から齲蝕のリスクを評価し、より良い口腔内環境で矯正治療が実施できるようにCAMBRA™を導入し、歯科衛生士も連携しています。

基本的な内容としては「唾液検査・X線検査・齲蝕の診査」などの検査を行い、その結果から個人に合ったプログラムを実施しています。Dr.John FeatherstoneのCAMBRA™講演会受講済みの歯科衛生士が業務にあたります。

※矯正歯科、美容歯科、小児歯科、歯科放射線科と連携しています

※2022年度受診患者数　延べ114人

### 歯科ドック

歯科ドックはお口の健康状態を診ることを目的としています。健康であると思っている方、あるいは治療が終了して得られた健康な状態を維持・増進したいと考えている方を対象とし各専門分野の歯科医師が健診し、まとめた結果を後日説明しています。検査項目は齲蝕の有無・歯周病の有無・細菌検査・咬合状態・咬合力・開口量測定・口臭測定・舌口腔粘膜の検査・X線検査を実施しています。その他相談項目（いびき・飲み込み・歯の色・歯並びなど）を設けています。ジャパンオーラルヘルス学会ドックコーディネーターを取得している歯科衛生士が業務にあたります。

※各診療科と連携しています

# 予約枠を持っている歯科医師一覧

2023年7月1日現在

## 美容歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 真　鍋　厚　史 | 教　授<br>(診療科長) | 昭和大学/昭和58年 | 美容歯科、保存修復 | 日本歯科保存学会　歯科保存専門医・指導医<br>日本歯科審美学会　認定医 |
| 小　林　幹　宏 | 准教授 | 松本歯科大学/平成17年 | 美容歯科、保存修復 | 日本歯科審美学会　専門医<br>日本歯科保存学会　認定医 |
| 新　妻　由衣子 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 日本大学/平成25年 | 美容歯科、保存修復 | |
| 寺　島　実華子 | 助　教 | 昭和大学/平成27年 | 美容歯科、保存修復 | |
| 菅　井　琳太朗 | 助　教 | 昭和大学/平成28年 | 美容歯科、保存修復 | |
| 水　上　英　子 | 兼任講師 | 昭和大学/平成22年 | 美容歯科、保存修復 | 日本歯科保存学会　認定医 |
| 東　光　照　夫 | 兼任講師 | 東京医科歯科大学/昭和57年 | 美容歯科、保存修復 | |
| 玉　岡　慶　鐘 | 兼任講師 | 昭和大学/平成15年 | 美容歯科、保存修復 | 日本歯科アンチエイジング歯科学会　認定医 |
| 京　泉　秀　明 | 兼任講師 | 昭和大学/平成7年 | 美容歯科、保存修復 | 日本歯科保存学会　認定医<br>日本歯科人間ドック学会　認定医 |
| 國　司　麻　莉 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 美容歯科、保存修復 | |

## 歯内治療科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 鈴　木　規　元 | 教　授<br>(診療科長) | 東京医科歯科大学/平成6年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　専門医・指導医 |
| 浦　羽　真太郎 | 助　教<br>(診療科長補佐) | 東京医科歯科大学/平成23年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　認定医<br>日本歯科放射線学会　准認定医・歯科用CBCT認定医 |
| 馬　場　　聖 | 助　教 | 昭和大学/平成25年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　認定医 |
| 池　田　めぐみ | 助　教 | 昭和大学/平成29年 | 歯内治療学 | |
| 齋　藤　　彩 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　認定医 |
| 酒　井　敦　史 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和2年 | 歯内治療学 | |
| 大　西　孝　政 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 歯内治療学 | |
| 黒　田　夏　樹 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 歯内治療学 | |
| 近　江　京　香 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 歯内治療学 | |
| 大　竹　　開 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　認定医 |
| 片　山　卓　也 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　認定医 |
| 奈　良　麻　衣 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 歯内治療学 | |
| 三　木　　優 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 歯内治療学 | |
| 辻　上　陽　平 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 歯内治療学 | |
| 吉　岡　慶太郎 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 歯内治療学 | |
| 小長谷　美　月 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 歯内治療学 | |
| 高　橋　正　真 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 歯内治療学 | |
| 戸　部　拓　馬 | 兼任講師 | 昭和大学/平成26年 | 歯内治療学 | 日本歯科保存学会　認定医 |
| 本　郷　智　之 | 兼任講師 | 東京医科歯科大学/平成26年 | 歯内治療学 | 日本歯内療法学会　専門医<br>日本歯科保存学会　専門医<br>日本レーザー歯学会　専門医 |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 滝　口　涼美麗 | 兼任講師 | 昭和大学/平成29年 | 歯内治療学 | |
| 鶴　見　優　子 | 普通研究生 | 日本大学/令和2年 | 歯内治療学 | |

## 歯周病科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 山　本　松　男 | 教　授<br>(診療科長) | 東京医科歯科大学/平成4年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　専門医・指導医<br>日本歯科保存学会　専門医・指導医 |
| 滝　口　　尚 | 准教授<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成6年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　専門医・指導医<br>日本歯科保存学会　認定医 |
| 小　出　容　子 | 講　師 | 昭和大学/平成13年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　専門医<br>日本歯科保存学会　認定医・専門医<br>日本歯科人間ドック学会　認定医 |
| 三　森　香　織 | 助　教 | 昭和大学/平成15年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 |
| 相　澤　　怜 | 助　教 | 昭和大学/平成20年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 |
| 菅　野　真莉加 | 助　教 | 神奈川歯科大学/平成20年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 |
| 大　谷　貴　之 | 助　教 | 昭和大学/平成29年 | 歯周病 | |
| 清　田　萌　美 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成28年 | 歯周病 | |
| 今　　美　乃 | 助　教（歯科） | 明海大学/平成31年 | 歯周病 | |
| 鈴　木　七　海 | 助　教（歯科） | 日本大学/令和3年 | 歯周病 | |
| 長　田　翔　子 | 兼任講師 | 昭和大学/平成22年 | 歯周病 | |
| 今　井　裕　子 | 兼任講師 | 朝日大学/平成7年 | 歯周病 | |
| 氷　室　沙　羅 | 兼任講師 | 昭和大学/平成21年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　認定医<br>日本歯科保存学会　認定医 |
| 田　中　麻　友 | 兼任講師 | 昭和大学/平成26年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　認定医 |
| 田　中　慧　介 | 兼任講師 | 昭和大学/平成28年 | 歯周病 | 日本歯周病学会　認定医 |
| 上　川　正　悟 | 大学院生 | 明海大学/令和3年 | 歯周病 | |
| 須　永　　克 | 大学院生 | 日本大学/令和3年 | 歯周病 | |
| 内　藤　菜弓多 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 歯周病 | |
| 岡　田　昂　己 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 歯周病 | |
| 西　村　優　香 | 大学院生 | 日本大学/令和4年 | 歯周病 | |

## 補綴歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 馬　場　一　美 | 教　授<br>(診療科長) | 東京医科歯科大学/昭和61年 | 有床義歯（先進義歯）<br>インプラント | 日本補綴歯科学会指導医・専門医<br>日本顎関節学会指導医・専門医<br>日本口腔インプラント学会専門医 |
| 岩　佐　文　則 | 准教授<br>(総括診療科長補佐) | 東京医科歯科大学/平成2年 | 有床義歯（先進義歯）<br>インプラント | 日本補綴歯科学会指導医・専門医 |
| 田　中　晋　平 | 准教授 | 昭和大学/平成10年 | 冠橋義歯<br>インプラント | 日本口腔インプラント学会専門医 |
| 高　場　雅　之 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成11年 | 冠橋義歯<br>インプラント | 日本補綴歯科学会指導医・専門医<br>日本口腔インプラント学会専門医 |
| 安　部　友　佳 | 講　師 | 東京医科歯科大学/平成18年 | 有床義歯・睡眠歯科 | 日本補綴歯科学会専門医 |
| 松　本　貴　志 | 助　教 | 昭和大学/平成19年 | 有床義歯 | |
| 浦　野　絵　里 | 助　教 | 昭和大学/平成22年 | 補綴歯科 | 日本補綴歯科学会専門医 |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 三田　稔 | 助　教 | 東京医科歯科大学/平成22年 | 補綴歯科・インプラント | |
| 池谷賢二 | 助　教 | 昭和大学/平成24年 | 補綴歯科・インプラント | 日本補綴歯科学会専門医 |
| 原　真央子 | 助　教 | 昭和大学/平成24年 | 補綴歯科・インプラント | 日本補綴歯科学会専門医<br>日本口腔インプラント学会専修医 |
| 楠本友里子 | 助　教 | 昭和大学/平成26年 | 補綴歯科 | 日本補綴歯科学会専門医 |
| 向山　仁 | 兼任講師 | 東京医科歯科大学/昭和61年 | 有床義歯・顎顔面補綴 | 日本補綴歯科学会指導医・専門医<br>日本顎顔面補綴学会認定医 |
| 横山紗和子 | 兼任講師 | 東京医科歯科大学/平成13年 | インプラント | 日本補綴歯科学会専門医<br>日本口腔インプラント学会専門医<br>European Association for Osseointegration認定医 |
| 大嶋瑶子 | 兼任講師 | 昭和大学/平成22年 | 補綴歯科 | 日本補綴歯科学会専門医 |
| 秋山友里 | 兼任講師 | 昭和大学/平成27年 | 補綴歯科 | |
| 岩内洋太郎 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成27年 | 補綴歯科 | |
| 小原大宜 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成28年 | 補綴歯科・睡眠歯科 | |
| 枡澤那 | 助　教（歯科） | 岩手医科大学/平成29年 | 補綴歯科 | |
| 大澤昂史 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成29年 | 補綴歯科 | |
| 青木理紗 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 補綴歯科・睡眠歯科 | |
| 久保ゆりあ | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 補綴歯科 | |
| 山下由紀野 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 補綴歯科 | |
| 横井　匠 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 補綴歯科 | |
| 奥石悠介 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 前嶋康平 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 片桐崇史 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 酒向遥香 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 佐藤太朗 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 田原広子 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 補綴歯科 | |
| 細谷悠貴 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 山森庄馬 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 吉澤瑞真 | 大学院生 | 神奈川歯科大学/令和2年 | 補綴歯科 | |
| 芦田圭介 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 補綴歯科 | |
| 河田蘭子 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 補綴歯科 | |
| 大西麻由 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 補綴歯科 | |
| 奥原志織 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 補綴歯科 | |
| 松山萌美 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 補綴歯科 | |

## 顎顔面口腔外科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 代田達夫 | 教　授<br>（診療科長） | 昭和大学/昭和61年 | 顎変形症<br>先天異常<br>顎骨再建手術<br>骨造成等インプラント<br>外科手術 | 日本口腔外科学会専門医・指導医<br>更生医療担当医師<br>日本がん治療認定機構　がん治療認定医（歯科口腔外科）<br>日本がん治療認定機構暫定教育医（歯科口腔外科）<br>日本顎顔面インプラント学会　指導医<br>日本歯科薬物療法学会　臨床治験担当者 |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 鎌　谷　宇　明 | 准教授<br>(江東豊洲病院) | 東北大学/平成7年 | 口腔粘膜疾患<br>顎顔面外傷<br>顕微鏡下手術 | 日本口腔外科学会専門医・指導医<br>日本がん治療認定機構　がん治療認定医(歯科口腔外科)<br>日本化学療法学会抗菌化学療法認定歯科医師<br>インフェクションコントロールドクター<br>歯科薬物療法学会　臨床治験担当者 |
| 安　田　有　沙 | 講　師<br>(横浜市北部病院) | 昭和大学/平成19年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会専門医 |
| 佐　藤　　仁 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成20年 | 顎変形症<br>顎関節症<br>口腔顔面痛 | 日本口腔外科学会指導医<br>日本顎関節学会指導医<br>日本口腔顔面痛指導医<br>日本顎顔面インプラント学会　指導医 |
| 椋　代　義　樹 | 講　師 | 広島大学/平成7年 | 口腔外科一般 | |
| 守　谷　　崇 | 助　教 | 昭和大学/平成25年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 稲　田　大佳暢 | 助　教 | 昭和大学/平成27年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会専門医 |
| 小　橋　　舞 | 助　教 | 昭和大学/平成28年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 田　中　元　博 | 助　教 | 昭和大学/平成28年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 堅　田　凌　悟 | 助　教<br>(横浜市北部病院) | 昭和大学/平成29年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 天　田　かおり | 助　教<br>(江東豊洲病院) | 昭和大学/平成29年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 宮　本　裟　也 | 助　教（歯科）<br>(横浜市北部病院) | 昭和大学/平成29年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 朝　倉　眞莉子 | 助　教（歯科）<br>(江東豊洲病院) | 昭和大学/平成29年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 佐　藤　有里子 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成29年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 根　本　結　基 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 伊　藤　美　莉 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 生　川　真希帆 | 助　教（歯科） | 岡山大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 今　野　瑤　士 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 須　賀　万　貴 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 名　取　美　里 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 山　田　理　功 | 助　教（歯科） | 朝日大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 池　端　陽　介 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 金田一　和　香 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 田　口　直　渡 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 口腔外科一般 | |
| 趙　　柏　欽 | 大学院生 | 松本歯科大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 戸　羽　一　綺 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 口腔外科一般 | |
| 前　村　美　希 | 大学院生 | 日本歯科大学/令和2年 | 口腔外科一般 | |
| 山　口　かれん | 大学院生 | 昭和大学/平成30年 | 口腔外科一般 | 日本口腔外科学会認定医 |
| 渡　邊　匡　崇 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 口腔外科一般 | |
| 遠　藤　美　紀 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 中　島　和　希 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 奈　良　真　希 | 大学院生 | 日本歯科大学(新潟)/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 根　岸　宗一郎 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 小　島　啓二朗 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |
| 水　貝　真　菜 | 大学院生 | 明海大学/令和3年 | 口腔外科一般 | |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 松　井　美　南 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |
| 山　田　このみ | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 口腔外科一般 | |

## 口腔腫瘍外科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 嶋　根　俊　和 | 兼担教授 | 昭和大学/平成8年 | 頭頸部癌、<br>口腔癌、口腔腫瘍 | 日本耳鼻咽喉科学会　専門医<br>日本耳鼻咽喉科学会　専門医研修指導医<br>日本頭頸部外科学会　頭頸部がん専門医<br>日本頭頸部外科学会　頭頸部がん指導医<br>日本がん治療認定医機構　がん治療認定医<br>日本気管食道科学会　専門医<br>医療系大学間共用試験実施評価者機構外部評価認定医<br>身体障害認定指定医 |
| 勝　田　秀　行 | 准教授 | 東京医科歯科大学/平成12年 | 口腔癌、口腔腫瘍 | 日本口腔外科学会　専門医<br>日本口腔外科学会　指導医<br>日本口腔腫瘍学会　暫定口腔がん指導医<br>日本がん治療認定医機構<br>がん治療認定医（歯科口腔外科） |
| 齊　藤　芳　郎 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成22年 | 口腔癌、口腔腫瘍 | 日本口腔外科学会　専門医<br>日本がん治療認定医機構<br>がん治療認定医（歯科口腔外科） |
| 倉　澤　侑　也 | 助　教 | 昭和大学/平成24年 | 口腔癌、口腔腫瘍 | 日本口腔外科学会　認定医 |
| 筑　田　洵一郎 | 助　教 | 岩手医科大学/平成27年 | 口腔癌、口腔腫瘍 | 日本口腔外科学会　認定医 |

## 矯正歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 中　納　治　久 | 教　授<br>(診療科長) | 神奈川歯科大学/平成3年 | 歯科矯正学 | 日本矯正歯科学会　管理指導医・認定医・指導医・<br>臨床指導医<br>日本顎関節学会　専門医<br>日本口蓋裂学会　認定師 |
| 槇　　宏太郎 | 特任教授<br>歯科病院長 | 昭和大学/昭和59年 | 歯科矯正学 | 日本矯正歯科学会　認定医・指導医・臨床指導医<br>日本口蓋裂学会　認定師<br>日本歯科審美学会　認定医 |
| 芳　賀　秀　郷 | 准教授 | 昭和大学/平成21年 | 歯科矯正学 | 日本矯正歯科学会　認定医・指導医<br>日本口蓋裂学会　認定師<br>日本スポーツ歯科医学会 認定医・認定MGテクニカル<br>インストラクター |
| 長　濱　　諒 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 長崎大学/平成23年 | 歯科矯正学 | 日本矯正歯科学会　認定医<br>日本口蓋裂学会　認定師 |
| 吉　田　　寛 | 講　師 | 昭和大学/平成25年 | 歯科矯正学 | |
| 鬼　丸　美奈子 | 助　教 | 昭和大学/平成27年 | 歯科矯正学 | |
| 北　　はるな | 助　教 | 昭東京歯科大学/平成28年 | 歯科矯正学 | |
| 小　松　麻衣子 | 助　教 | 昭和大学/平成28年 | 歯科矯正学 | |
| 丹　澤　　史 | 助　教 | 昭和大学/平成28年 | 歯科矯正学 | |
| 高　風　桃　子 | 助　教（歯科） | 長崎大学/平成29年 | 歯科矯正学 | |
| 瀧　澤　秀　臣 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成29年 | 歯科矯正学 | |
| 小　倉　　董 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成29年 | 歯科矯正学 | |
| 鈴　木　涼夕風 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 小　山　　栞 | 助　教（歯科） | 日本大学松戸/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 澤　村　萌　香 | 助　教（歯科） | 北海道大学/平成29年 | 歯科矯正学 | |
| 高　橋　侑　嗣 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成29年 | 歯科矯正学 | |
| 並　木　静　花 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 松　田　　彩 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 森　川　金　汰 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 河　合　良　太 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 歯科矯正学 | |
| 石　田　美　穂 | 研究生 | 昭和大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 鄭　　善　化 | 研究生 | 神奈川歯科大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 小　林　理　香 | 大学院生 | 昭和大学/平成30年 | 歯科矯正学 | |
| 赤　塚　加奈子 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 歯科矯正学 | |
| 鹿　嶋　友　希 | 大学院生 | 新潟大学/平成31年 | 歯科矯正学 | |
| 濵　田　富次朗 | 大学院生 | 九州歯科大学/平成31年 | 歯科矯正学 | |
| 深　川　真　希 | 大学院生 | 日本大学/平成31年 | 歯科矯正学 | |
| 渋　井　俊　輔 | 研究生 | 昭和大学/令和元年 | 歯科矯正学 | |
| 文　野　暁　史 | 研究生 | 昭和大学/令和元年 | 歯科矯正学 | |
| 南　　えりか | 大学院生 | 昭和大学/令和元年 | 歯科矯正学 | |
| 阿　部　拓　樹 | 大学院生 | 日本大学/令和元年 | 歯科矯正学 | |
| 澁　坂　和　大 | 大学院生 | 日本大学/令和元年 | 歯科矯正学 | |
| 今　野　未　彩 | 大学院生 | 岩手医科大学/令和元年 | 歯科矯正学 | |
| 石　田　理紗子 | 研究生 | 日本歯科大学/令和2年 | 歯科矯正学 | |
| 梅　原　郷　人 | 研究生 | 昭和大学/令和3年 | 歯科矯正学 | |
| 山　城　美　咲 | 研究生 | 日本大学松戸/令和2年 | 歯科矯正学 | |
| 藤　田　昭　彦 | 大学院生 | 日本大学松戸/令和3年 | 歯科矯正学 | |
| 松　沢　喜　姫 | 大学院生 | 神奈川歯科大学/令和3年 | 歯科矯正学 | |
| 小太刀　美　桜 | 研究生 | 鶴見大学/令和４年 | 歯科矯正学 | |
| 関　矢　　和 | 研究生 | 昭和大学/令和３年 | 歯科矯正学 | |
| 大　岩　輝　彦 | 大学院生 | 昭和大学/令和３年 | 歯科矯正学 | |
| 湖　城　建　斗 | 大学院生 | 昭和大学/令和４年 | 歯科矯正学 | |
| 船　橋　宗　利 | 大学院生 | 昭和大学/令和４年 | 歯科矯正学 | |
| 和　田　友　里 | 大学院生 | 昭和大学/令和３年 | 歯科矯正学 | |

## 小児歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 船　津　敬　弘 | 教　授<br>(診療科長) | 昭和大学/平成8年 | 小児歯科・<br>障害者歯科　全般 | 日本小児歯科学会 専門医・指導医<br>日本障害者歯科学会 認定医・指導医<br>日本小児口腔外科学会 認定医 |
| 浅　川　剛　吉 | 准教授<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成10年 | 小児歯科　全般 | 日本小児歯科学会 専門医・指導医<br>日本障害者歯科学会 認定医 |
| 杉　山　智　美 | 講　師 | 昭和大学/平成14年 | 小児歯科　全般 | 日本小児歯科学会 専門医・指導医<br>日本障害者歯科学会 認定医・指導医 |
| 下　村　直　史 | 助　教 | 昭和大学/平成26年 | 小児歯科　全般 | 日本障害者歯科学会 認定医 |
| 新　田　雅　一 | 助　教 | 昭和大学/平成25年 | 小児歯科　全般 | 日本障害者歯科学会 認定医 |
| 山　内　夏　琳 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成27年 | 小児歯科　全般 | 日本小児歯科学会 専門医 |
| 五十嵐　　悠 | 助　教（歯科） | 日本大学/平成29年 | 小児歯科　全般 | |
| 大　田　千　央 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 小児歯科　全般 | |
| 池　田　理　沙 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 小児歯科　全般 | |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 紀　田　優和子 | 助　教（歯科） | 明海大学/平成30年 | 小児歯科　全般 | |
| 山　口　真　帆 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 小児歯科　全般 | |
| 仲　里　祐　人 | 助　教（歯科） | 明海大学/令和2年 | 小児歯科　全般 | |
| 綾　野　理　加 | 兼任講師 | 昭和大学/平成５年 | 摂食・嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 柴　原　果　依 | 大学院生 | 東京歯科大学/令和3年 | 小児歯科　全般 | |
| 杉　本　卓　海 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 小児歯科　全般 | |
| 山　下　晃　平 | 大学院生 | 昭和大学/令和4年 | 小児歯科　全般 | |
| 石　川　　悟 | 研究生 | 大阪大学/平成29年 | 小児歯科　全般 | |
| 酒　井　真　奈 | 研究生 | 昭和大学/平成29年 | 小児歯科　全般 | |
| 伏　見　直　子 | 研究生 | 昭和大学/平成30年 | 小児歯科　全般 | |
| 黒　田　実　憂 | 研究生 | 昭和大学/平成31年 | 小児歯科　全般 | |
| 小　野　優　佳 | 研究生 | 明海大学/令和4年 | 小児歯科　全般 | |
| 福　永　美　琴 | 研究生 | 昭和大学/令和4年 | 小児歯科　全般 | |
| 七　里　茉　耶 | 研究生 | 日本歯科(新潟)大学/令和3年 | 小児歯科　全般 | |

## 口腔機能管理科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 古　屋　純　一 | 教　授<br>(診療科長) | 東京医科歯科大学/平成8年 | 高齢者歯科学 | 日本老年歯科医学会　専門医・指導医・摂食機能療法専門歯科医師<br>日本補綴歯科学会　専門医・指導医<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本臨床栄養代謝学会TNT修了 |
| 下　平　　修 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成2年 | 高齢者歯科学 | 日本老年歯科医学会　専門医<br>日本補綴歯科学会　専門医・指導医 |
| 大　澤　淡紅子 | 助　教 | 昭和大学 /平成18年 | 高齢者歯科学 | 日本口腔インプラント学会　専門医<br>日本補綴歯科学会　専門医 |
| 畑　中　幸　子 | 助　教 | 昭和大学/平成29年 | 高齢者歯科学 | 日本老年歯科医学会　認定医<br>日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 内　田　淑　喜 | 助　教 | 昭和大学/平成29年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 向　井　友　子 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 山　根　邦　仁 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 渡　辺　昌　崇 | 助　教（歯科） | 新潟大学/平成30年 | 高齢者歯科学 | |
| 寺　岡　正　譜 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 高齢者歯科学 | |
| 林　　美　佑 | 大学院生 | 大阪歯科大学/平成29年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 原　　隆　蔵 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 戸田山　直　輝 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 赤　穂　和　樹 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 高齢者歯科学 | 日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |
| 田　上　理沙子 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 高齢者歯科学 | |
| 鈴　木　鵬　生 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 高齢者歯科学 | |
| 田　畑　友　寛 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 高齢者歯科学 | |
| 平　山　茉　奈 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 高齢者歯科学 | |
| 松　村　圭　祐 | 兼任講師 | 昭和大学/平成25年 | 高齢者歯科学 | 日本老年歯科医学会　専門医<br>日本補綴歯科学会　修練医<br>日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 大　森　友　花 | 兼任講師 | 昭和大学/平成27年 | 高齢者歯科学 | 日本老年歯科医学会　認定医<br>日本義歯ケア学会　義歯ケアマイスター |

## 医科歯科連携診療歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| マイヤース(田代)<br>三　恵 | 准教授・診療科長 | | | 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科認定医<br>インフェクションコントロールドクター協議会認定ICD<br>公認心理師 |
| 伊佐津　克　彦 | 准教授 | | | 特定非営利活動法人 日本歯周病学会認定 歯周病専門医<br>一般社団法人 日本総合歯科学会 認定総合歯科医･指導医 |
| 松　浦　光　洋 | 講　師 | | | 公益社団法人 日本口腔外科学会認定 口腔外科専門医<br>特定非営利活動（NPO）法人 日本口腔科学会認定 口腔科学会認定医<br>一般社団法人 日本抗加齢医学会認定 抗加齢医学会専門医<br>スポーツデンティスト |
| 松　井　庄　平 | 助　教・<br>診療科長補佐 | | | 公益社団法人 日本口腔外科学会認定 口腔外科認定医<br>一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科専門医 |
| 阿　部(勝又)<br>桂　子 | 助　教 | | | 一般社団法人 日本総合歯科学会 認定総合歯科医 |
| 鈴　木(江並)<br>沙　羅 | 助　教（歯科） | | | |
| 山　田　樹　里 | 助　教（歯科） | | | |
| 森　　美　菜 | 助　教 | | | 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科認定医 |
| 菅　原　大　貴 | 大学院生 | | | |
| 角　　南　葵 | 助　教（歯科） | | | |
| 山　田　貴　穂 | 助　教（歯科） | | | |
| 柴　野　周　哉 | 大学院生 | | | |
| 西　田　訓　子 | 大学院生 | | | |
| 高　橋　夏　大 | 大学院生 | | | |
| 片　山　繁　樹 | 客員教授<br>（歯学部総合診療歯科学部門所属・併任） | | | |
| 丸　岡　靖　史 | 客員教授 | | | 公益社団法人 日本口腔外科学会認定 口腔外科指導医<br>一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科指導医<br>特定非営利活動（NPO）法人 日本口腔科学会認定 口腔科学会指導医 |
| 市　川　雄　二 | 客員講師 | | | 公益社団法人 日本障害者歯科学会認定 障害者歯科専門医 |
| 吉　田　祐　子 | 客員講師 | | | |
| 村　山　隆　夫 | 兼任講師 | | | |
| 大　野　かおり | 兼任講師 | | | |
| 白　倉　香　子 | 兼任講師 | | | 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科認定医 |
| 浅　井　英　之 | 兼任講師 | | | 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科認定医 |
| 佐　藤　あや子 | 特別研究生 | | | 公益社団法人 日本口腔外科学会認定 口腔外科認定医<br>一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定 有病者歯科認定医 |

# 口腔機能リハビリテーション科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 伊　原　良　明 | 准教授<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/平成20年 | 口腔機能障害全般の対応<br>(摂食嚥下障害、<br>睡眠時無呼吸症候群、<br>鼻咽腔閉鎖機能不全症、<br>栄養管理 | 日本老年歯科医学会専門医、摂食機能療法専門歯科医師<br>日本口腔科学会認定医<br>日本障害者歯科学会認定医<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本口腔リハビリテーション学会暫定指導医 |
| 野　末　真　司 | 講　師 | 東京歯科大学/平成23年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会専門医、摂食機能療法専門歯科医師<br>日本障害者歯科医学会認定医 |
| 中　道　由　香 | 助　教 | 昭和大学/平成19年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会専門医<br>日本有病者歯科医学会専門医 |
| 田　下　雄　一 | 助　教<br>(所属：頭頸部<br>腫瘍センター) | 明海大学/平成20年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会認定医<br>日本口腔科学会認定医 |
| 石　黒　光　哲 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会認定医 |
| 小　俣　孝　仁 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和2年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 中　西　あゆみ | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和2年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 大　塚　正　弥 | 助　教（歯科） | 日本大学/令和3年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 武　井　良　子 | 言語聴覚士 | プリティッシュコロンビア大学文学部<br>/平成14年<br>国立身体障害者リハビリテーション<br>センター学院言語聴覚学科<br>/平成17年 | 言語障害 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 山　田　紘　子 | 言語聴覚士 | 千葉大学教育学部/平成14年<br>日本福祉大学中央福祉専門学校<br>言語聴覚士科/平成25年 | 言語障害 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 森　　紀美江 | 兼任講師 | 昭和大学/昭和59年 | 口腔外科 | 日本口腔外科学会指導医、専門医<br>日本顎顔面補綴学会認定医<br>日本歯科薬物療法学会治験担当者<br>インフェクションコントロールドクター協議会認定ICD<br>日本歯科人間ドック学会認定医<br>抗菌化学療法認定歯科医師 |
| 横　山　　薫 | 兼任講師 | 昭和大学／平成9年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション・<br>口腔外科 | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会専門医<br>日本障害者歯科学会認定医<br>日本口腔科学会認定医<br>インフェクションコントロールドクター協議会認定ICD<br>日本静脈経管栄養学会認定ＴＮＴ修了 |
| 大　沼　光　司 | 兼任講師 | 昭和大学/平成24年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 上　杉　雄　大 | 兼任講師 | 昭和大学/平成25年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士<br>日本老年歯科医学会認定医 |
| 石　野　由美子 | 特別研究生 | 東北歯科専門学校<br>歯科衛生士科/昭和58年 | 筋機能療法（MFT） | 日本口腔リハビリテーション学会認定歯科衛生士<br>日本咀嚼学会健康咀嚼指導士<br>フェイスニング公認講師 |
| 本　間　　圭 | 研究生 | 日本大学松戸/平成26年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 服　部　匠　真 | 兼任講師 | 昭和大学/平成29年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 小　池　丈　司 | 兼任講師 | 昭和大学/平成24年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本老年歯科医学会専門医、摂食機能療法専門歯科医師<br>日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 飯　泉　嘉　基 | 大学院生 | 昭和大学/平成29年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 |
| 加　藤　宏　隆 | 大学院生 | 昭和大学/令和元年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 砂　川　厚　美 | 大学院生 | 日本大学/令和2年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 山　本　みなみ | 大学院生 | 愛知学院大学/令和2年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 及　川　ひかり | 大学院生 | 岩手医科大学/令和3年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 玉　井　伴　樹 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |
| 持　田　　航 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 摂食嚥下<br>リハビリテーション | |

## 障がい者歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 船　津　敬　弘 | 教　授<br>(小児歯科診療科長) | 昭和大学/平成8年 | 障害者歯科・小児歯科 | 日本障害者歯科学会 認定医・指導医<br>日本小児歯科学会 専門医・指導医<br>日本小児口腔外科学会 認定医 |
| 嘉手納　未　季 | 講　師<br>(烏山病院) | 昭和大学/平成19年 | 障害者歯科・小児歯科 | 日本障害者歯科学会 認定医<br>日本小児歯科学会 専門医 |
| 馬　目　瑶　子 | 助　教<br>(診療科長補佐) | 岩手医科大学/平成25年 | 障害者歯科 | 日本障害者歯科学会　認定医 |
| 姜　　世　野 | 助　教（歯科） | 九州歯科大学/平成29年 | 障害者歯科 | 日本障害者歯科学会　認定医 |
| 佐　藤　ゆり絵 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 障害者歯科 | 日本障害者歯科学会　認定医 |
| 小　野　慎之介 | 大学院生 | 日本大学/令和元年 | 障害者歯科 | |
| 中　村　夏　野 | 大学院生 | 明海大学/平成29年 | 障害者歯科 | |
| 徳　増　梨　乃 | 大学院生 | 昭和大学/令和３年 | 障害者歯科 | |

## 顎関節症治療科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 菅　沼　岳　史 | 教　授<br>(診療科長) | 昭和大学/昭和60年 | 補綴<br>顎関節症 | 日本補綴歯科学会認定 補綴歯科専門医･補綴歯科指導医<br>日本顎関節学会認定 歯科顎関節症専門医･歯科顎関節症指導医 |
| 犬　井　知　美 | 助　教<br>(診療科長補佐) | 昭和大学/令和3年 | 顎関節症 | |
| 宮　本　佑　香 | 助　教（歯科） | 鹿児島大学/令和3年 | 顎関節症 | |
| 渡　邊　友　希 | 兼任講師 | 昭和大学/平成8年 | 顎関節症<br>口腔顔面痛 | 日本顎関節学会認定 歯科顎関節症専門医<br>日本口腔顔面痛学会 口腔顔面痛専門医<br>日本慢性疼痛学会認定 専門歯科医<br>ドライマウス研究会 認定医 |
| 内　藤　貴美子 | 兼任講師 | 昭和大学/平成10年 | 顎関節症 | |
| 佐　藤　多美代 | 兼任講師 | 北海道大学/平成22年 | 補綴<br>顎関節症<br>スポーツ歯科 | 日本口腔顔面痛学会 口腔顔面痛認定医<br>日本スポーツ歯科医学会認定 マウスガードテクニカルインストラクター |

## インプラント歯科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 宗　像　源　博 | 准教授<br>(診療科長) | 東京医科歯科大学/平成11年 | 口腔インプラント | 日本口腔インプラント学会 専門医・指導医<br>日本顎顔面インプラント学会 専門医・指導医 |
| 佐　藤　大　輔 | 講　師<br>(診療科長補佐) | 東京医科歯科大学/平成12年 | 口腔インプラント | 日本口腔インプラント学会　専門医・指導医<br>日本補綴歯科学会 専門医・指導医<br>インフェクションコントロールドクター |
| 石　浦　雄　一 | 講　師 | 昭和大学/平成7年 | 口腔インプラント | 日本口腔インプラント学会 専門医・指導医<br>日本補綴歯科学会 専門医・指導医<br>日本歯科審美学会 認定医 |
| 山　口　菊　江 | 助　教 | 昭和大学/平成21年 | 口腔インプラント | 日本口腔インプラント学会 専門医・指導医 |
| 林　　泰　生 | 助　教 | 神奈川歯科大学/平成25年 | 口腔インプラント | 日本口腔インプラント学会 専修医 |
| 酒　井　隆太郎 | 助　教 | 日本大学/平成29年 | 口腔インプラント | |
| 阿　部　　誉 | 助　教 | 昭和大学/平成31年 | 口腔インプラント | |

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 石　井　康　太 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成30年 | 口腔インプラント | |
| 矢　木　鴻太郎 | 助　教（歯科） | 東京医科歯科大学/平成31年 | 口腔インプラント | |
| 氷　見　開　哉 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 口腔インプラント | |
| 山　下　晃　平 | 大学院生 | 昭和大学/平成31年 | 口腔インプラント | |
| 糸　川　拓　臣 | 大学院生 | 昭和大学/令和2年 | 口腔インプラント | |
| 小　嶋　禎　子 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 口腔インプラント | |
| 中　山　允　貴 | 大学院生 | 日本歯科大学/令和2年 | 口腔インプラント | |
| 北　村　直　己 | 大学院生 | 昭和大学/平成29年 | 口腔インプラント | |

## 歯科麻酔科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 増　田　陸　雄 | 教　授<br>（診療科長） | 昭和大学/平成11年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　指導医・専門医・認定医 |
| 西　村　晶　子 | 講　師<br>（診療科長補佐） | 昭和大学/平成17年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　専門医・認定医 |
| 幸　塚　裕　也 | 講　師 | 日本歯科大学/平成20年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　専門医・認定医 |
| 立　川　哲　史 | 助　教 | 昭和大学/平成24年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　専門医・認定医 |
| 武　田　　恵 | 助　教 | 北海道大学/平成27年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　認定医 |
| 西　田　梨　恵 | 助　教 | 昭和大学/平成27年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　専門医・認定医 |
| 梶　原　里　紗 | 助　教 | 昭和大学/平成28年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　認定医 |
| 原　　あきら | 助　教（歯科） | 日本歯科大学/平成30年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　認定医 |
| 生　方　雄　平 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　認定医 |
| 千頭和　　彩 | 助　教（歯科） | 昭和大学/平成31年 | 歯科麻酔科学 | 日本歯科麻酔学会　認定医 |
| 横　尾　紗　耶 | 助　教（歯科） | 東京歯科大学/令和3年 | 歯科麻酔科学 | |
| 稲　波　華　子 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 歯科麻酔科学 | |
| 松　村　　憲 | 助　教（歯科） | 昭和大学/令和4年 | 歯科麻酔科学 | |
| 飯　岡　康　太 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 歯科麻酔科学 | |
| 大　塩　　葵 | 大学院生 | 昭和大学/令和3年 | 歯科麻酔科学 | |
| 松　野　栄莉佳 | 大学院生 | 日本歯科大学/令和3年 | 歯科麻酔科学 | |

## 歯科放射線科

| 歯科医師名 | 役　職 | 卒業大学/卒業年 | 専門分野 | 資　格 |
|---|---|---|---|---|
| 松　田　幸　子 | 教　授<br>（診療科長） | 東京歯科大学/平成2年 | 歯科放射線 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医・指導医 |
| 黒　田　　沙 | 助　教<br>（診療科長補佐） | 昭和大学/平成24年 | 歯科放射線 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医 |
| 小清水　有里子 | 助　教 | 昭和大学/平成14年 | 歯科放射線 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医 |
| 荒　木　和　之 | 特任教授 | 九州大学/昭和57年 | 歯科放射線 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医・指導医 |
| 西　野　智　美 | 兼任講師 | 昭和大学/平成4年 | 歯科放射線 | 日本歯科放射線学会　歯科放射線専門医・指導医 |
| 原　瀬　裕　一 | 兼任講師 | 鶴見大学/平成10年 | 歯科放射線 | |

【1-1】

# 紹介状・診療情報提供書

年　　月　　日

昭和大学歯科病院
〒145-8515 東京都大田区北千束2丁目1番1号
地域歯科医療連携室TEL／FAX 03-5498-1954

貴院の名称
所在地
医師名
TEL(　　—　　—　　)
FAX(　　—　　—　　)

＿＿＿＿＿＿科 ＿＿＿＿＿＿＿＿先生
下記の患者を紹介いたします。

受診日 ＿年 ＿月 ＿日 ＿＿:＿＿時

昭和大学歯科病院への受診歴〔有(　　年　　月頃)・無〕
IDNo.
*フリガナ
患者氏名　　殿 (　　才)
生年月日(明・大・昭・平・令)　年　　月　　日 (男・女)

紹介目的　精査・加療・入院・転医・手術
その他

既往歴(家族歴)

薬剤アレルギー( 有　　・ 無 )

主訴

治療経過及び病状経過

検査結果

現在の処方

備考 *画像診断フィルム、検査記録等を持参させる場合は下記にチェックをお願いします。

☐ * 画像フィルム　☐ * 心電図記録等
☐ * 検査結果伝票　☐ * その他

※「紹介状・診療情報提供書」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

【1-1】

# 紹介状・診療情報提供書

年　　月　　日

昭和大学歯科病院
〒145-8515 東京都大田区北千束2丁目1番1号
地域歯科医療連携室TEL／FAX 03-5498-1954

貴院の名称
所在地
医師名
TEL(　　—　　—　　)
FAX(　　—　　—　　)

＿＿＿＿＿＿科 ＿＿＿＿＿＿＿＿先生
下記の患者を紹介いたします。

受診日 ＿年 ＿月 ＿日 ＿＿:＿＿時

昭和大学歯科病院への受診歴〔有(　　年　　月頃)・無〕
IDNo.
*フリガナ
患者氏名　　殿 (　　才)
生年月日(明・大・昭・平・令)　年　　月　　日 (男・女)

紹介目的　精査・加療・入院・転医・手術
その他

既往歴(家族歴)

薬剤アレルギー( 有　　・ 無 )

主訴

治療経過及び病状経過

検査結果

現在の処方

備考 *画像診断フィルム、検査記録等を持参させる場合は下記にチェックをお願いします。

☐ * 画像フィルム　☐ * 心電図記録等
☐ * 検査結果伝票　☐ * その他

※「紹介状・診療情報提供書」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

【1-2】

# 紹介患者事前受付連絡票〔ファクシミリ用〕

年　　月　　日

昭和大学歯科病院　　ＦＡＸ　０３－5498-1954

地域歯科医療連携室　行

| | |
|---|---|
| ＿＿＿＿＿＿科　＿＿＿＿＿＿先生<br>受診日　　年　　月　　日　　：　　時<br>昭和大学歯科病院の受診歴〔 有 (　　年　　月頃)・無 〕<br>IDNo. ---------- | 貴院の名称<br>所在地<br>医師名<br>TEL(　　—　　—　　)<br>FAX(　　—　　—　　) |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| お名前 | ﾌﾘｶﾞﾅ | | 性別 | 男 ・ 女 | 生年月日 | 1:明治 2:大正 3:昭和 4:平成 5:令和 | |
| | (姓) | (名) | | | | 年　月　日　歳 | |
| ご住所 | 〒　－ | 自宅電話 | (　) － | | 携帯電話 | (　) － | |
| | ﾌﾘｶﾞﾅ | | | | | | |
| | 都道府県 | 市区町村 | | | | | |
| 保険証 | 記号 | | 被保険者から見たあなた様のご関係 | 本人 ・ 家族 (続柄　) | | | |
| | 番号 | | 被保険者氏名(家族に○をされた方はご記入ください) | ﾌﾘｶﾞﾅ | | | |
| | 保険者番号 | | | | | | |
| | 資格日 | 年　月　日 | 交付日 | 年　月　日 | 負担割合 | 3割・2割・1割 | 任継終了日 | 年　月　日 |
| その他の保険 | 負担者番号 | | 負担限度額 | 外来 | 円 | 対象疾患 | |
| | 受給者番号 | | | 入院 | 円 | | |
| | 資格日 | 年　月　日 | 交付日 | 年　月　日 | | | |
| | 有効期限 | 年　月　日 | 負担割合 | 割 | | | |

## 紹介される先生方へのお願い

- 事前に電話にて日時のご予約をお取りください。
  この連絡票をFAXしていただいた場合は、事前にカルテの準備をしておきますので、患者来院時の手続きがスムーズに行えます。

- 地域歯科医療連携室受付時間 月～土曜日　8:30～17:00
  日曜日、祝日、年末年始、創立記念日(11月15日)
- FAXにつきましては、**診察日前日の15:00まで**にお願い致します。
  15:00以降の場合は、事前準備が出来ないことがありますので、あらかじめご了承ください。

◆ 地域歯科医療連携室　TEL 03-5498-1954

※「紹介患者事前受付連絡票」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

【1-2】

# 紹介患者事前受付連絡票〔ファクシミリ用〕

年　　月　　日

昭和大学歯科病院　　ＦＡＸ　０３－5498-1954

地域歯科医療連携室　行

| | |
|---|---|
| ＿＿＿＿＿＿科　＿＿＿＿＿＿先生<br>受診日　　年　　月　　日　　：　　時<br>昭和大学歯科病院の受診歴〔 有 (　　年　　月頃)・無 〕<br>IDNo. ---------- | 貴院の名称<br>所在地<br>医師名<br>TEL(　　—　　—　　)<br>FAX(　　—　　—　　) |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| お名前 | ﾌﾘｶﾞﾅ | | 性別 | 男 ・ 女 | 生年月日 | 1:明治 2:大正 3:昭和 4:平成 5:令和 | |
| | (姓) | (名) | | | | 年　月　日　歳 | |
| ご住所 | 〒　－ | 自宅電話 | (　) － | | 携帯電話 | (　) － | |
| | ﾌﾘｶﾞﾅ | | | | | | |
| | 都道府県 | 市区町村 | | | | | |
| 保険証 | 記号 | | 被保険者から見たあなた様のご関係 | 本人 ・ 家族 (続柄　) | | | |
| | 番号 | | 被保険者氏名(家族に○をされた方はご記入ください) | ﾌﾘｶﾞﾅ | | | |
| | 保険者番号 | | | | | | |
| | 資格日 | 年　月　日 | 交付日 | 年　月　日 | 負担割合 | 3割・2割・1割 | 任継終了日 | 年　月　日 |
| その他の保険 | 負担者番号 | | 負担限度額 | 外来 | 円 | 対象疾患 | |
| | 受給者番号 | | | 入院 | 円 | | |
| | 資格日 | 年　月　日 | 交付日 | 年　月　日 | | | |
| | 有効期限 | 年　月　日 | 負担割合 | 割 | | | |

## 紹介される先生方へのお願い

- 事前に電話にて日時のご予約をお取りください。
  この連絡票をFAXしていただいた場合は、事前にカルテの準備をしておきますので、患者来院時の手続きがスムーズに行えます。

- 地域歯科医療連携室受付時間 月～土曜日　8:30～17:00
  日曜日、祝日、年末年始、創立記念日(11月15日)
- FAXにつきましては、**診察日前日の15:00まで**にお願い致します。
  15:00以降の場合は、事前準備が出来ないことがありますので、あらかじめご了承ください。

◆ 地域歯科医療連携室　TEL 03-5498-1954

※「紹介患者事前受付連絡票」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

# 昭和大学歯科病院　患 者 さ ん へ の ご 案 内

## 電話での予約を受付いたします

◆受診日の予約を希望する場合

地域歯科医療連携室（03-5498-1954）にお問い合わせください。
ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。

◆指定受診日を変更する場合

都合により、予約された日に来院できなくなった場合は、必ず地域歯科医療連携室までご連絡ください。

◆初診受付時間

月曜日～土曜日　8：30～11：30／13：00～15：00

**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は　8：30～12：00（午前中のみ）**

休　　診　　日　日曜日、祝日、年末年始、創立記念日（11月15日）

◆お問い合わせ先

地域歯科医療連携室　TEL 03-5498-1954

◆持参するもの

- 保険証　※医療証がある方は併せてお持ちください。
- 紹介状
- お薬手帳（お持ちの方のみ）

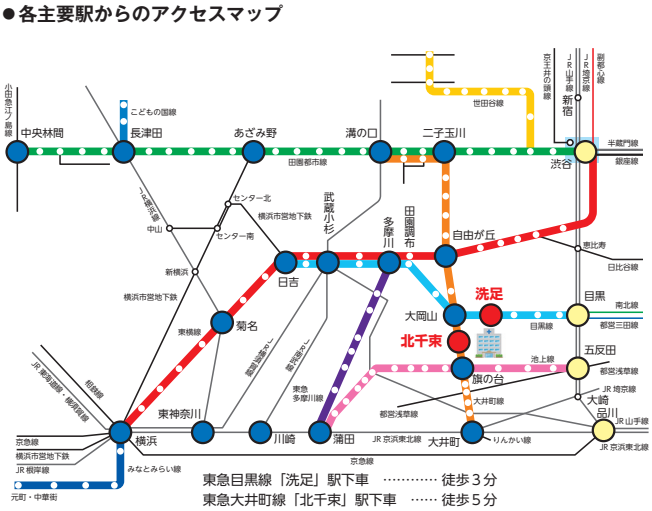
## 初診手続きについて

1　初診受付窓口（1階）

診療申込・同意書、問診・予診票を記入し、健康保険証・紹介状と併せて窓口へ提出してください。
初診手続き終了後、各診療科へご案内いたします。

## 交 通 案 内

●各主要駅からのアクセスマップ







昭和大学歯科病院　東京都大田区北千束2－1－1

**（本状は患者さんにお渡しください）**

※　「患者さんへのご案内」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

# 昭和大学歯科病院　患 者 さ ん へ の ご 案 内

## 電話での予約を受付いたします

◆受診日の予約を希望する場合

地域歯科医療連携室（03-5498-1954）にお問い合わせください。
ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。

◆指定受診日を変更する場合

都合により、予約された日に来院できなくなった場合は、必ず地域歯科医療連携室までご連絡ください。

◆初診受付時間

月曜日～土曜日　8：30～11：30／13：00～15：00

**※顎顔面口腔外科および口腔腫瘍外科は　8：30～12：00（午前中のみ）**

休　　診　　日　日曜日、祝日、年末年始、創立記念日（11月15日）

◆お問い合わせ先

地域歯科医療連携室　TEL 03-5498-1954

◆持参するもの

- 保険証　※医療証がある方は併せてお持ちください。
- 紹介状
- お薬手帳（お持ちの方のみ）

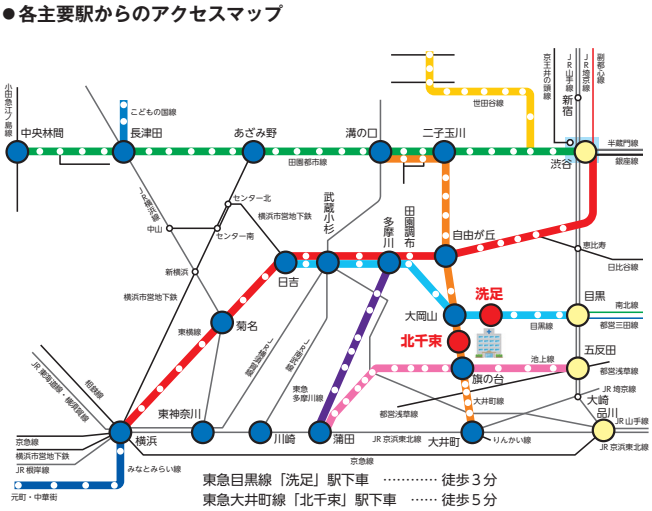
## 初診手続きについて

1　初診受付窓口（1階）

診療申込・同意書、問診・予診票を記入し、健康保険証・紹介状と併せて窓口へ提出してください。
初診手続き終了後、各診療科へご案内いたします。

## 交 通 案 内

●各主要駅からのアクセスマップ





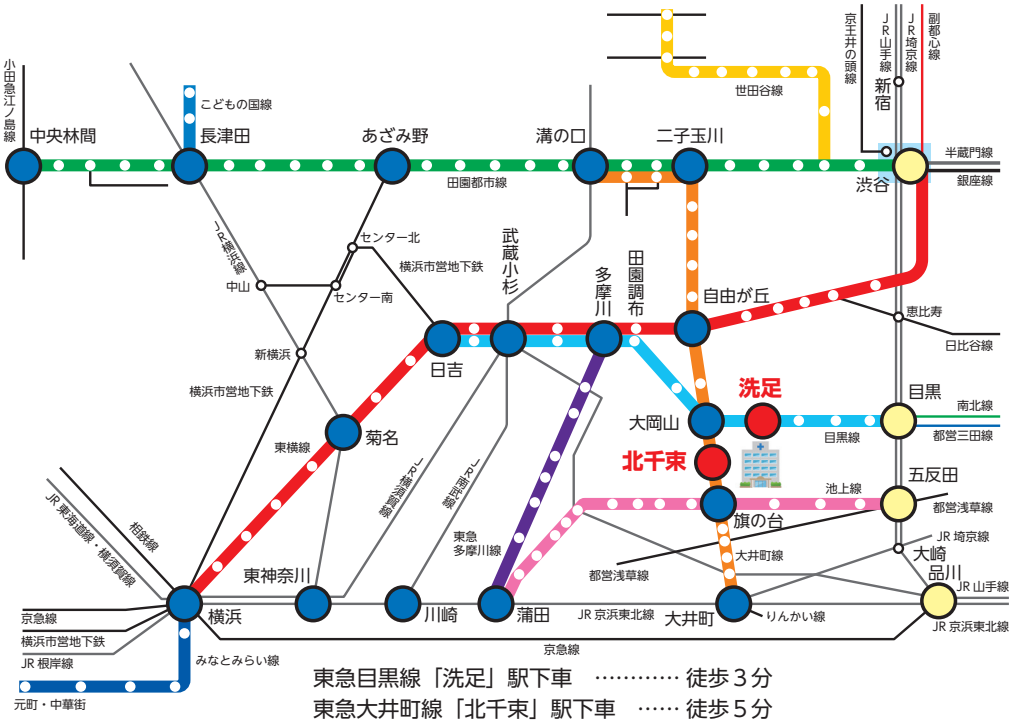


昭和大学歯科病院　東京都大田区北千束2－1－1

**（本状は患者さんにお渡しください）**

※　「患者さんへのご案内」をご希望の方はホームページからダウンロードいただけます。

# 各主要駅からのアクセスマップ




東急目黒線「洗足」駅下車 …… 徒歩３分
東急大井町線「北千束」駅下車 …… 徒歩５分

大井町線　池上線　目黒線
東横線　田園都市線　東急多摩川線

# 東急目黒線 洗足駅・東急大井町線 北千束駅からのアクセスマップ
# 車をご利用の場合のアクセスマップ

## ▶電車をご利用の場合

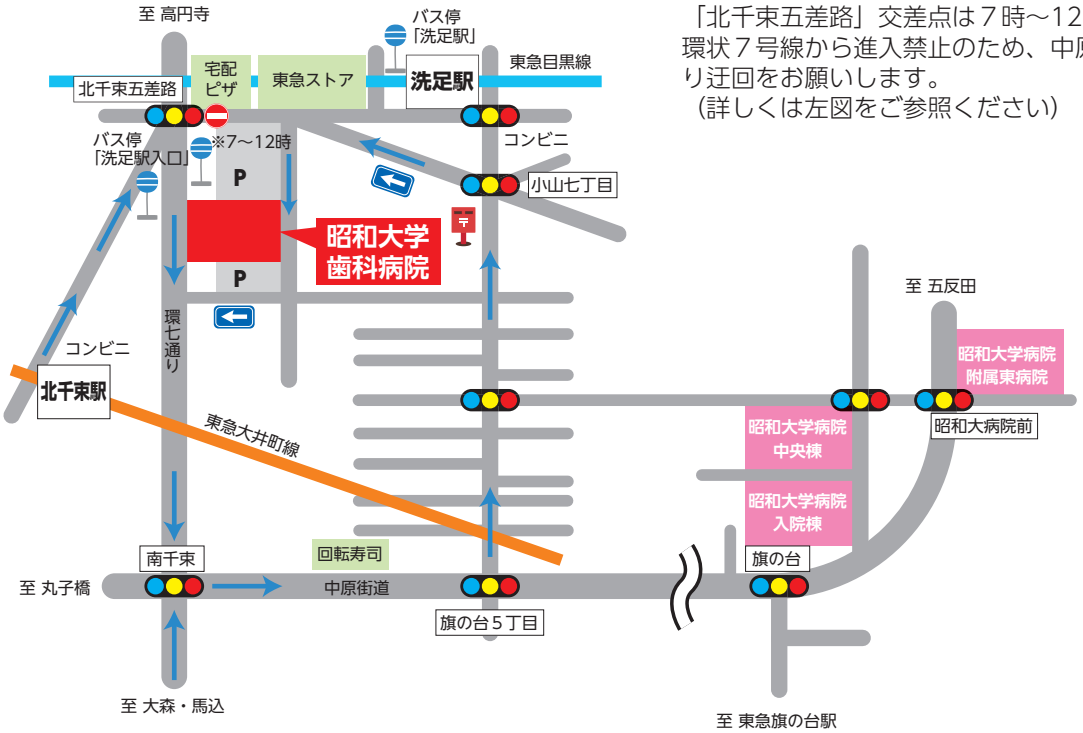
東急目黒線「洗足」駅下車、徒歩3分
（エレベーターとエスカレーターがご利用いただけます）
東急大井町線「北千束」駅下車、徒歩5分
（エレベーターがご利用いただけます）

## ▶バスをご利用の場合

東急バス森91系統（大森駅⇔新代田）
「洗足駅入口」下車、徒歩1分
東急バス渋71系統（渋谷駅東口⇔洗足駅）
「洗足駅」下車、徒歩3分

## ▶車をご利用の場合

「北千束五差路」交差点は７時～12時の間、環状７号線から進入禁止のため、中原街道より迂回をお願いします。
（詳しくは左図をご参照ください）



SHOWA University Dental Hospital




**昭和大学歯科病院**
〒145-8515
東京都大田区北千束 2-1-1
TEL：03-3787-1151

昭和大学歯科病院 検索

**https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/**